

オーナーズマニュアル

**MONSTER**

**MONSTER 1200**

**MONSTER 1200 s**



オーナーズマニュアル

日本人

**MONSTER**

**MONSTER 1200**

**MONSTER 1200s**

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

# 目次

はじめに	7
安全性ガイドライン	7
当マニュアルで使用されている警告シンボル	8
認可されている用途	9
運転者の義務	9
運転者の教育	11
服装	11
安全のための“ベストプラクティス”	12
燃料の補給	14
最大積載時の運転	15
危険物 - 注意事項	16
車両識別番号	18
エンジン識別番号	19

インストルメントパネル(ダッシュボード)	20
インストルメントパネル	20
取扱説明書内で使用される頭字語および略語	24
技術用語	24
機能ボタン	26
パラメーターの設定 / 表示	27
主な機能	41
エンジン回転数表示 RPM	43
車両スピード	46
ライディングモード (Riding Mode)	48
DTC	53
ABS	58
メニュー機能	62
オドメーター (TOT)	64
トリップメーター1 (TRIP 1)	66
トリップメーター2 (TRIP 2)	67
燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)	68
ラップタイム (LAP time)	69
エンジンクーラント温度	72
瞬間燃費	74
平均燃費	75
平均スピード	77

走行時間	78	時計の調整	121
外気温	79	PIN CODE	125
時計	80	PIN CODE の変更	129
サブ機能	81	エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)	133
メンテナンス表示 (SERVICE)	83	単位の設定	134
OIL SERVICE ゼロの表示	84	表示モードの設定	145
OIL SERVICE またはDESMO SERVICE カウントダウン表示	85	LAP	147
OIL SERVICE またはDESMO SERVICE 表示	86	DDA	153
注意 / 警告 (Warning)	87	ディスプレイ背景の色	158
エラー表示	91	ランプコントロール	160
表示エラーの説明	93	イモビライザーシステム	163
サイドスタンドの状態の表示	98	キー	164
設定メニュー	99	作業	165
ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)	102	キーの複製	166
ライディングモードのパーソナライズABS 調整	105	PIN CODE による車両の解除	167
ライディングモードのパーソナライズDTC レベルの設定	108	運転時に必要なコマンド	171
ライディングモードのパーソナライズエンジン調整	111	コマンド類の配置	171
ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復	114	イグニッションスイッチ / ステアリングロック	
バッテリー電圧	116	左側スイッチ	173
ディスプレイ背景の設定	119	クラッチコントロールレバー	174

リアブレーキペダル	178	ブレーキ操作	210
ギアチェンジペダル	179	車両の停止	212
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整	180	燃料の補給	213
		パーキング	214
		付属アクセサリー	215
<b>主要構成部品 / 装備</b>	<b>182</b>		
車両上の配置	182	<b>主な整備作業とメンテナンス</b>	<b>216</b>
燃料フィラープラグ	183	クーラントレベルの点検および補充	216
シートロック	184	エアフィルターの交換	217
シート高の調整	185	ブレーキ及びクラッチフルードレベルの点検	217
ヘルメットホルダースタンド	190	ブレーキパッドの摩耗点検	219
サイドスタンド	191	バッテリーの充電	220
フロントフォーク調整アジャスター	193	バッテリー充電および冬季の断熱	223
フロントフォーク調整アジャスター	195	バッテリーの取り外し	225
リアショックアブソーバー調整アジャスター		バッテリーの取り付け	231
—	197	トランスマミッシュョンチェーン張力の点検	237
リアショックアブソーバー調整アジャスター		チェーンの潤滑	239
—	198	電球の交換	240
<b>運転のしかた</b>	<b>202</b>	ヘッドライトの光軸調整	241
慣らし運転の方法	202	タイヤ	243
走行前の点検事項	204	エンジンオイルレベル点検	246
エンジンの始動	207	スパークプラグの清掃と交換	248
車両の発進	209	車両の清掃	249
		長期間の保管	251

重要注意事項	251	カラーバリエーション	267
		エレクトリカルシステム	269
<b>メンテナンス</b>	<b>252</b>	<b>定期点検メモ</b>	<b>275</b>
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナ ンス	252	定期点検メモ	275
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナン ス	256		
<b>テクニカルデータ</b>	<b>257</b>		
重量	257		
サイズ	258		
補給	259		
エンジン	261		
タイミングシステム	262		
性能データ	263		
スパークプラグ	263		
燃料供給	263		
ブレーキ	264		
トランスミッション	265		
フレーム	266		
ホイール	266		
タイヤ	266		
サスペンション	266		
エキゾーストシステム	267		

# はじめに

## 安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムの

すべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします ページ 252 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。

正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

## 当マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーター サイクル の 安全性 に 関する ラベル
- 注意 シンボル 、 及び 警告 又は 重要 シンボル の う ち の 一 つ で 表わされる 安全性 に 関する メッセー ジ



### 警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。



### 重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



### 参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た位置です。

## 認可されている用途

モーターサイクルはアスファルト舗装された道路又は平らで滑らかな路面でのみ使用することができます。

舗装されていない道路やオフロードではこのモーターサイクルを使用することができません。



### 警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。



### 警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

このモーターサイクルにはライダーが乗車し、またパッセンジャーひとりを乗せることができます。



### 警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、390kg/859 lbを越えてはいけません。

## 運転者の義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。



### 警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。



### 警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

## 警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

## 警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

## 警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

## 警告

事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

## 警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

## 運転者の教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。



### 警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

## 服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットはページ 9に記載されている要件を満たしていかなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5本指のものでなければなりません。

- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。



### 重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。



### 重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。



### 重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

## 安全のための“ベストプラクティス”

使用前、使用中、使用後、人の安全性の確保に非常に重要な簡単な作業及びモーターサイクルの有効なメンテナンスを忘れずに行ってください。

### !**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の“使用規定”的章に記載されている指示に従ってください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

### !**警告**

運転中に使用する装置について熟知していない場合は運転しないでください。

起動前には本取扱説明書に記載されている点検を行ってください（ページ 209参照）。

### !**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

### !**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

### !**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

### !**重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

### !**重要**

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

## **!** 重要

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

## **!** 重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

## **!** 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

## **!** 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

## **!** 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

## **!** 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

## **!** 警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

## 燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。

給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。

給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。



## 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。



## 警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。



## 警告

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

## 最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。



### 警告

最大許容重量を超えないようにしてください。  
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

### 車両への積載に関する注意



### 重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。



### 重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。



### 重要

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。



### 重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。



### 警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 243 の“タイヤ”的段落を参照してください。

## 危険物 - 注意事項 使用済みエンジンオイル



### 警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

## ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

## ブレーキフルード



### 警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。



### 警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

## クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。



### 警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

クリーニングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

## バッテリー



## 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

## 車両識別番号



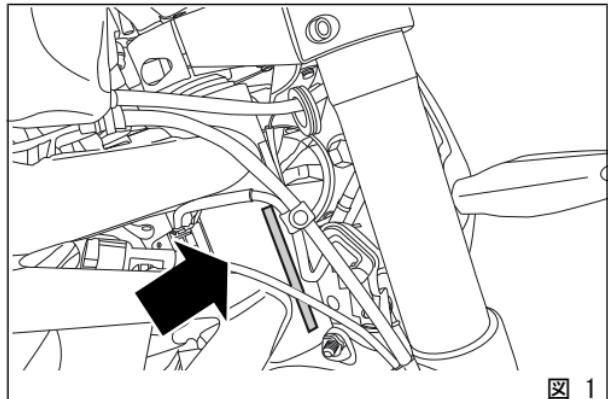
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

---

フレーム N.

---



## エンジン識別番号



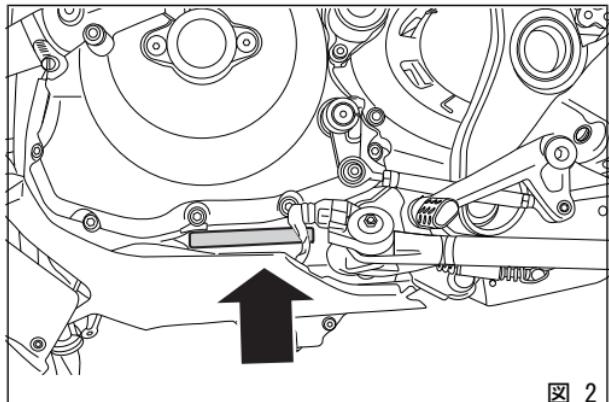
参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

---

エンジン N.

---



# インストルメントパネル(ダッシュボード)

## インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ
- 2) ニュートラルランプ N (緑)  
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
- 3) ハイビーム表示灯 ⚡ (青)  
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
- 4) エンジンオイル圧警告灯 ⚡ (赤)  
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。“KEY-ON”時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

### **!** 重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

- 5) リザーブ燃料警告灯 🔍 (琥珀色)  
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。点灯時点の燃料残量は約 2.5 リットルです。
- 6) ターンインジケーター表示灯 ⇛ (緑)  
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
- 7) “エンジン/車両診断 - EOBD” ランプ ⚡ (琥珀色)  
エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。
- 8) 一般警告灯 (赤)  
警告灯 (8a) はエンジン回転数が第一起点値に達すると点灯します。  
警告灯 (8b) はエンジン回転数が第二起点値に達すると点灯します。

9) ABS ランプ (ABS) (琥珀色)

ABS 停止もしくはエラー時に点灯します。

エンジン停止 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能作動中	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

10) DTC 介入 (琥珀色)

	DTC
干渉なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

11) OVER REV / イモビライザー停止 / 盗難防止  
(赤)

	Over rev
干渉なし	ランプ OFF
第一起点値 (リミッタ ーに到達前 N RPM)	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅

 参考

エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF

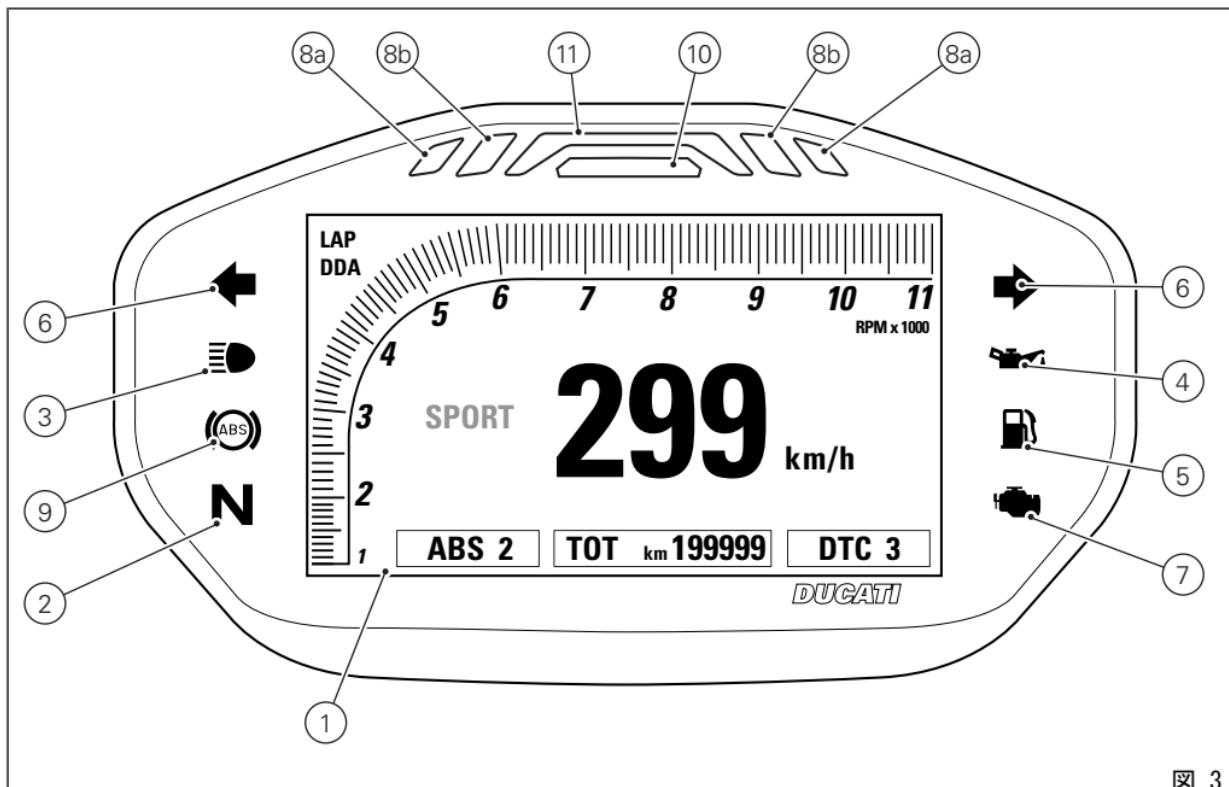


図 3

## 取扱説明書内で使用される頭字語および略

語

ABS

アンチロックブレーキシステム

BBS

ブラックボックスシステム

CAN

コントローラーエリアネットワーク

DDA

ドゥカティデータアナライザー

DSB

インストルメントパネル

DTC

ドゥカティトラクションコントロール

ECU

エンジンコントロールユニット

E-Lock

エレクトロニックメインスイッチセット

GPS

グローバルポジショニングシステム

## 技術用語

### ライディングモード

ライダーは 3 つの初期設定（ライディングモード）からライディングスタイルや道路状況に最も適した

モードを選択することができます。ライディングモードでエンジン出力（パワーモード）、ABS、DTC の各介入レベル、インストルメントパネルの表示を瞬時に変更することができます。

選択できる設定は SPORT、TOURING、URBAN です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

### パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

3 つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

### ライドバイワイヤ (RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。

ライドバイワイヤにより選択したライディングモード（パワーモード）に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ（EBC）のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御（DTC）に貢献します。

### ドゥカティトラクションコントロール（DTC）

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）はリアホイールのスリップ制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。

レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

### アンチロックブレーキシステム（ABS）9ME

ABS 9MEは、デュアルチャンネルの次世代システムです。リアホイールのリフティングを制御するインテグラルブレーキにより、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

システムには3つの介入レベルがあり、それぞれライディングモードと連動しています。

### ドゥカティデータアナライザー（DDA+）

DDA+はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS信号を読み取り“バーチャルフィニッシュライン”を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS信号を使用することでサーキットのマップ上に走行軌跡だけでなく、スロットル開度、スピード、エンジン回転数、ギア、エンジン温度、DTC介入といった車両の主要パラメーターを表示することができます。

## 機能ボタン

1) コントロールボタン UP “▲”

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▲”。

2) コントロールボタン DOWN “▼”

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▼”。

3) フラッシュヤーランプボタン

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) ターンインジケーター解除ボタン

このボタンは通常ターンインジケーターの解除機能に使用しますが、メニュー決定、ライディングモードの選択にも使用します。このボタンを左側に 3 秒間押すと、“ハザード”機能（すべてのターンインジケーターランプが点滅）が起動します。

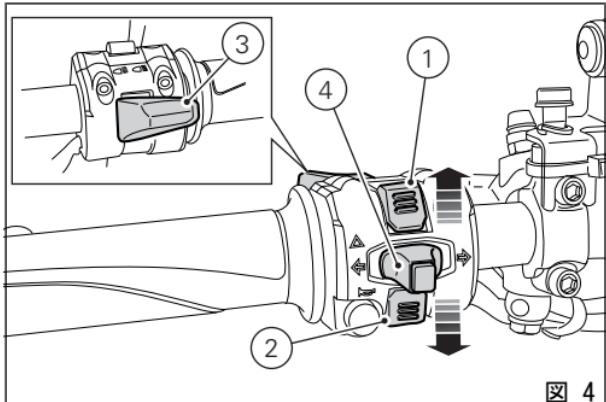


図 4

## パラメーターの設定 / 表示

起動時、インストルメントパネルに DUCATI のロゴが表示され、LED ランプが 2 ステップで点灯します（“初期点検”）。

点検終了時、インストルメントパネルには KEY-OFF 前に使用していた設定モード（CORE、FULL、TRACK）のメインスクリーンが表示されます。

初期点検中に車両スピードが 10 km/h（実速度）を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

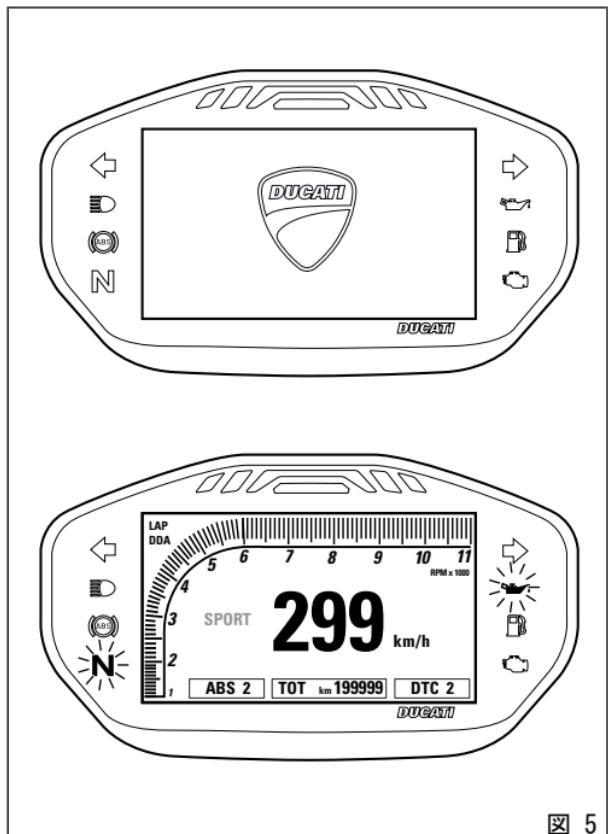


図 5

メインスクリーンには CORE、FULL、TRACK の 3 種類のレイアウトがあります。

メインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
- 2) 時計
- 3) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
- 4) DDA 起動表示（搭載されている場合のみ）
- 5) メニュー 1（オドメーター、トリップメーター  
1、トリップメーター 2、燃料リザーブトリップ  
メーター、トリップタイム、ラップタイム - 起  
動時のみ）
- 6) 車両スピード
- 7) 設定ライディングモード（Riding Mode）
- 8) メニュー 2（瞬間燃費、平均燃費、平均速度、  
走行時間、外気温、エンジン温度）
- 9) LAP 表示（起動している場合のみ）

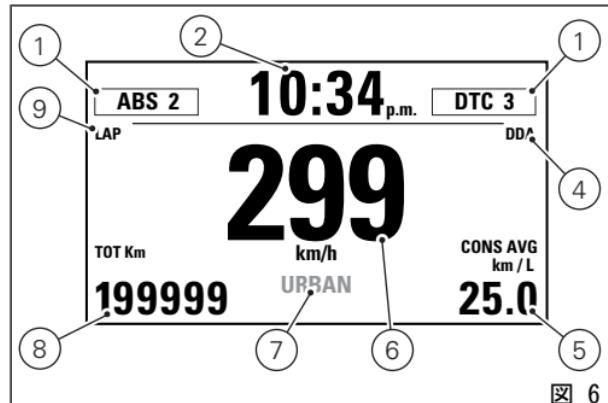


図 6

メインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
- 2) 時計
- 3) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
- 4) DDA 起動表示（搭載されている場合のみ）
- 5) メニュー 1（オドメーター、トリップメーター 1、トリップメーター 2、燃料リザーブトリップメーター、トリップタイム、ラップタイム - 起動時のみ）
- 6) 車両スピード
- 7) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 8) メニュー 2（瞬間燃費、平均燃費、平均速度、走行時間、外気温、エンジン温度）
- 9) LAP 表示（起動している場合のみ）
- 10) エンジン回転数棒グラフ
- 11) クーラント温度表示

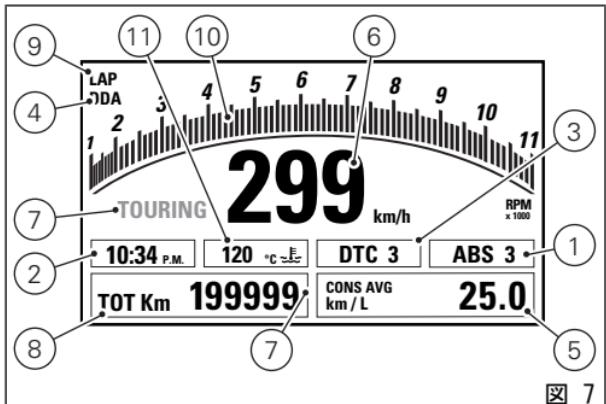


図 7

メインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
- 2) メニュー 1 (オドメーター、トリップメーター 1、トリップメーター 2、燃料リザーブトリップメーター、トリップタイム、ラップタイム - 起動時のみ)
- 3) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
- 4) DDA 起動表示 (搭載されている場合のみ)
- 5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 6) 車両スピード
- 7) LAP 表示 (起動している場合のみ)
- 8) エンジン回転数棒グラフ

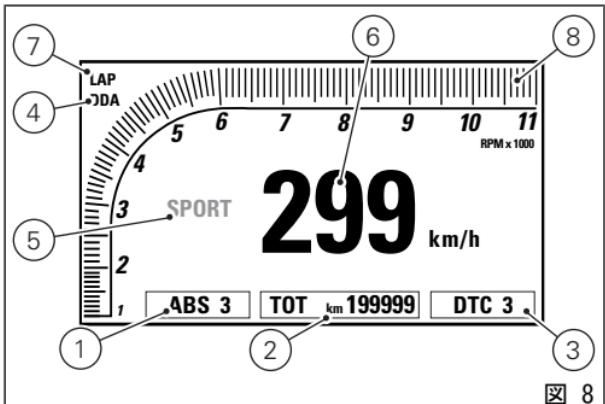


図 8

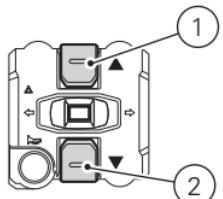
左側スイッチのボタン (1) を押すと、CORE モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- TRIP 1
- TRIP 2
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL - 起動時のみ)
- TRIP TIME
- ラップタイム (LAP) (機能起動時)

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メニュー 1 の情報を表示することができます。

- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS. I)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温
- エンジンクーラント温度

CORE



1

TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP FUEL → TRIP TIME → LAP

2

CONS. AVG → CONS. I → SPEED AVG → T AIR → T H<sub>2</sub>O

図 9

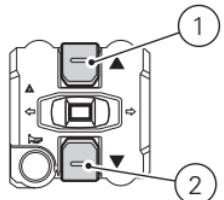
左側スイッチのボタン (1) を押すと、FULL モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- TRIP 1
- TRIP 2
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL - 起動時のみ)
- TRIP TIME
- ラップタイム (LAP) (機能起動時)

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メニュー 1 の情報を表示することができます。

- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS. I)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温

FULL



1

TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP FUEL → TRIP TIME → LAP

2

CONS. AVG → CONS. I → SPEED AVG → T AIR

図 10

左側スイッチのボタン (1) を押すと、TRACK モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- TRIP 1
- TRIP 2
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL - 起動時のみ)
- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS. I)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- TRIP TIME
- 時計
- ラップタイム (LAP) (機能起動時)
- 外気温
- エンジンクーラント温度

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メニュー 1 の情報を表示することができます。

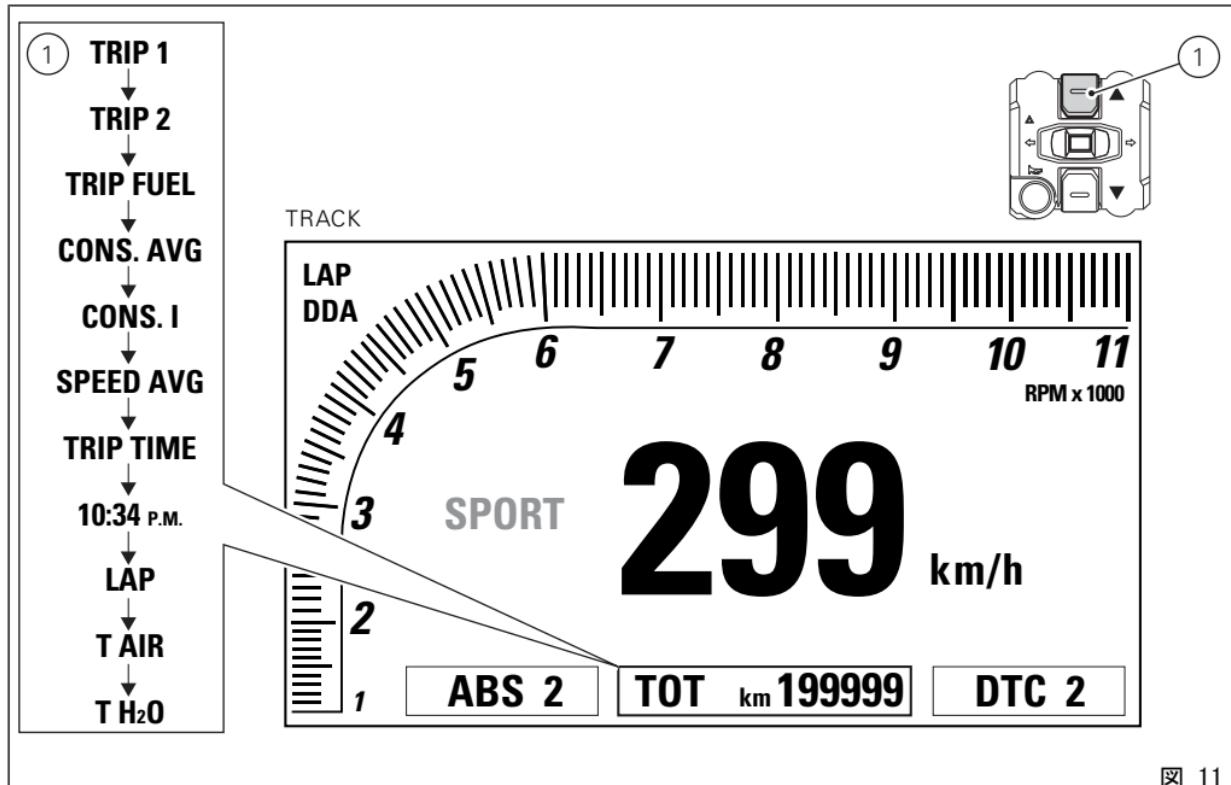


図 11

インストルメントパネルには KEY-OFF 時に使用して  
いたメニュー 1 とメニュー 2 の設定が記憶されま  
す。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 お  
よびメニュー 2 のページが表示されます。

急な KEY-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合は、  
次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次の  
メニュー 1 とメニュー 2 のデフォルト設定が表示  
されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = オドメーター
- メニュー 2 デフォルトページ (CORE および FULL  
モードのみ) = 平均燃費

KEY-ON 時には毎回、インストルメントパネルのメニ  
ュー 1 に 10 秒間 “オドメーター” のページが表示  
され、その後、前回の KEY-OFF 時に保存したページ  
が表示されます。

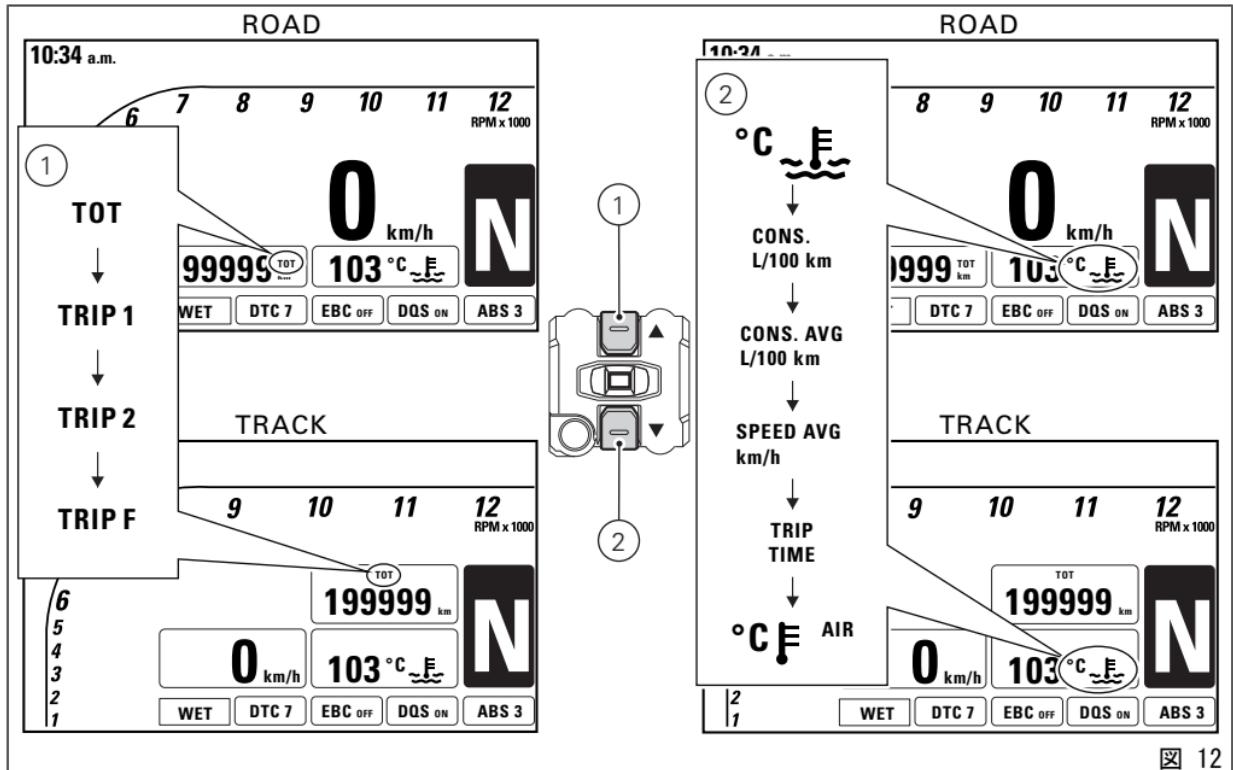


図 12

設定モードのスタンダードスクリーンが表示されている時に、車両の実速度が 20 km/h 以下の状態でボタン (2) を 3 秒間押すと、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。

### 重要

車両の実速度が 20 km/h 以下のときのみ設定メニューに入ることができます。設定メニューが表示されているときに車両の実速度が 20 km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、スタンダードスクリーンを表示します。

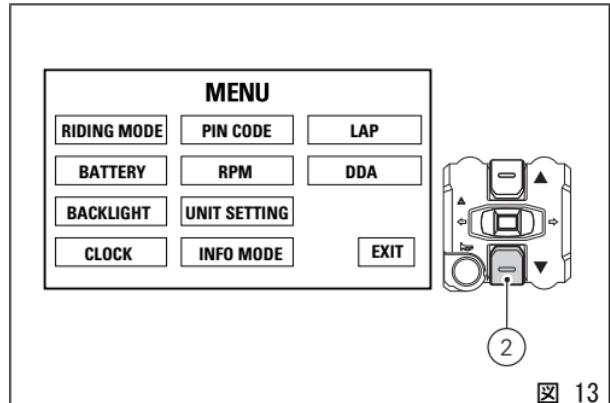


図 13

KEY-ON 時および点検終了時にキーが認識されない場合：

- PIN CODE 機能が有効でない場合、ランプの初期点検が省略され、インストルメントパネルにはスタンダードスクリーンに E-LOCK エラーが表示されます。設定メニューにはアクセスできません。
- PIN CODE 機能が有効な場合、インストルメントパネルには解除コードを入力する PIN CODE 機能画面が表示されます。

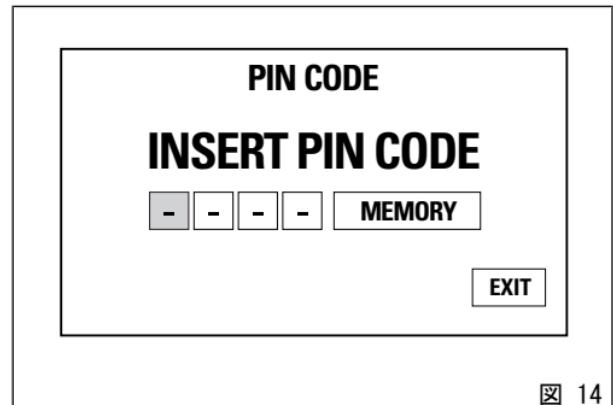


図 14

## 主な機能

選択した表示モード (CORE、FULL、TRACK) のスタンダードスクリーンに表示される機能は以下の通りです。

### メイン機能

- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- ライディングモード (Riding Mode)
- DTC
- ABS
- メニューには以下の機能が表示されます。
  - オドメーター (TOT)
  - トリップメーター 1 (TRIP1)
  - トリップメーター 2 (TRIP2)
  - 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
  - ラップタイム (LAP time)
  - エンジンクーラント温度
  - 瞬間燃費 (CONS.)
  - 平均燃費 (CONS. AVG)
  - 平均スピード (SPEED AVG)
  - トリップタイム (TRIP TIME)
  - 外気温
  - 時計

### サブ機能

- DDA
- LAP
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- エラー表示

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード (RIDING MODE) のパーソナライズ : パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
  - ABS 調整 (ABS)
  - DTC レベルの設定 (DTC)
  - エンジン調整 (ENGINE)
  - デフォルト設定の回復 (DEFAULT)
- バッテリー電圧 (BATTERY)
- ディスプレイの背景の設定 (BACK LIGHT)
- 時計設定 (CLOCK SETTING)
- PIN CODE (入力/変更)
- エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)
- 単位の設定 (スピード - 温度 - 燃費) UNIT
- 表示モードの設定
- LAP (表示/削除/自動設定の回復)
- DDA (起動/解除 - 表示 - 削除)

## エンジン回転数表示 RPM

インストルメントパネルがエンジン回転数情報を受信すると、そのデータをディスプレイに棒グラフで表示します（表示モードが FULL および TRACK の場合のみ）。データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフの目盛りと、千単位の数字（RPM の値が “8000” 以上の場合、数字 “8” が大きい文字で表示）で表示されます。

回転数が 12000 に達すると、数字は拡大されません。数字 “12” は拡大されず、数字 “11” と同じ標準の大きさに戻ります。

回転数が 9500 から 10500 の場合（予告ゾーン）、棒グラフの目盛りと数字 “10” がディスプレイにオレンジ色で表示されます（オレンジゾーン）。

回転数が 10500 から 11000 の場合（警告ゾーン）、棒グラフの目盛りと数字 “11” がディスプレイに赤色で表示されます（レッドゾーン）。



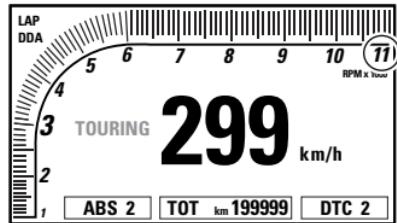
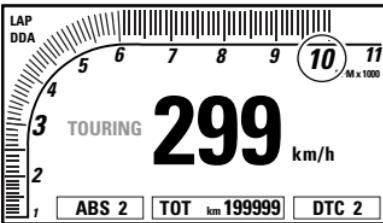
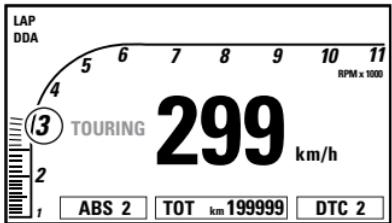
### 重要

走行距離が最初の 1000 km (600 mi) までの間（慣らし運転期間）、すなわちオドメーターが 1000 km (600 mi) 以下の値を表示している期間は、6000 rpm に達するとディスプレイにはオレンジ色で表示される予告ゾーン（オレンジゾーン）が棒グラフの目盛りとそれに相当する数字で表示されます。慣らし運転期間中はエンジン回転数を 6000 rpm 以下に維持すること、すなわちインストルメントパネルに棒グラフの “オレンジゾーン” が表示されないようになることが推奨されます。

FULL



TRACK



慣らし運転期間が終了すると、“オレンジゾーン”はエンジンが十分温まっていない状態でエンジン回転数を抑える指示として表示されます。“オレンジゾーン”は以下の通り、エンジン温度によって異なります。

- 7000 回転以上、エンジン温度が 50 ° C (122 ° F) 以下のとき
- 9500 回転以上、エンジン温度が 50 ° C (122 ° F) より高いとき

回転リミッターへの起点値は、以下の範囲を基に 2 つのグループに分けられています。

第一起点値 9950 回転 (A)

第二起点値 10150 回転 (B)

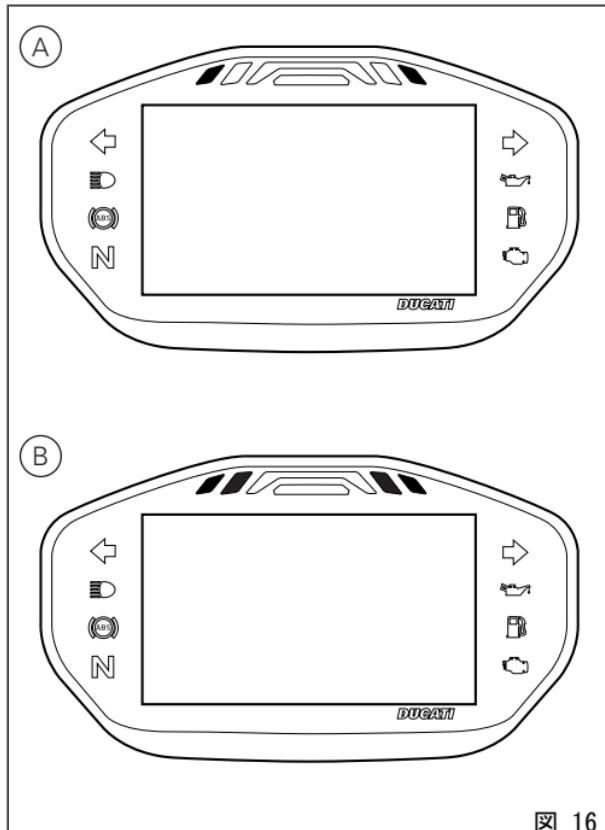


図 16

## 車両スピード

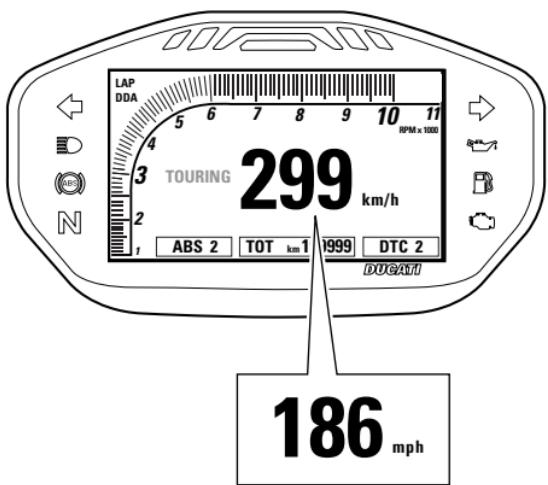
インストルメントパネルは車両の実速度（km/h で算出）情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h または mph）で表示します。

以下の場合には “---” と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h か 186 mph の場合、またはインストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合（“---” 点灯）
- リアスピードセンサーエラー（“---” 点滅、EOBD ランプ点灯、SPEED SENSOR エラー表示）

次のページには TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は TRACK モードと同じように表示されます。

TRACK



TRACK

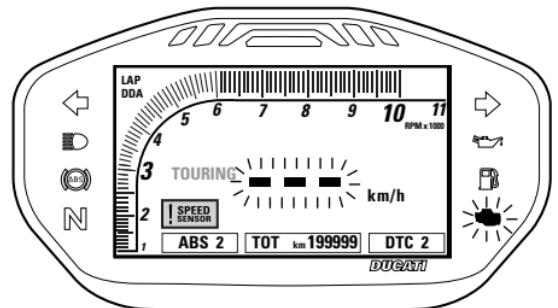
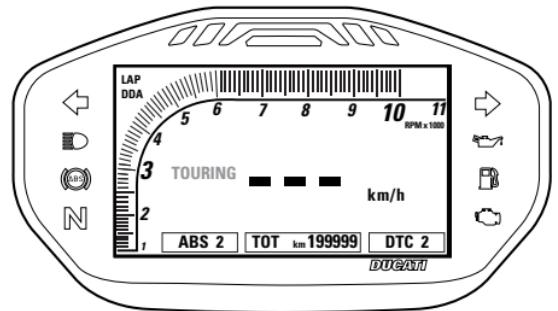


図 17

## ライディングモード (Riding Mode)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された 3 つのライディングモード SPORT、TOURING、URBAN から選択します。

選択、起動したライディングモードは CORE 表示モードではインストルメントパネルの下部に、FULL および TRACK 表示モードでは速度表示の隣に表示されます。

それぞれのライディングモードには以下の ドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- スロットル作動を変更するエンジン出力 (MAP1、MAP2、MAP3)
- ABS システムの許容値 (1、2、3、OFF)

各ライディングモードにはドゥカティが設定した、あるいはユーザーが設定ページから変更した情報表示のスタンダードスクリーン (CORE、FULL、TRACK) が連動しています。



### 警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします）。

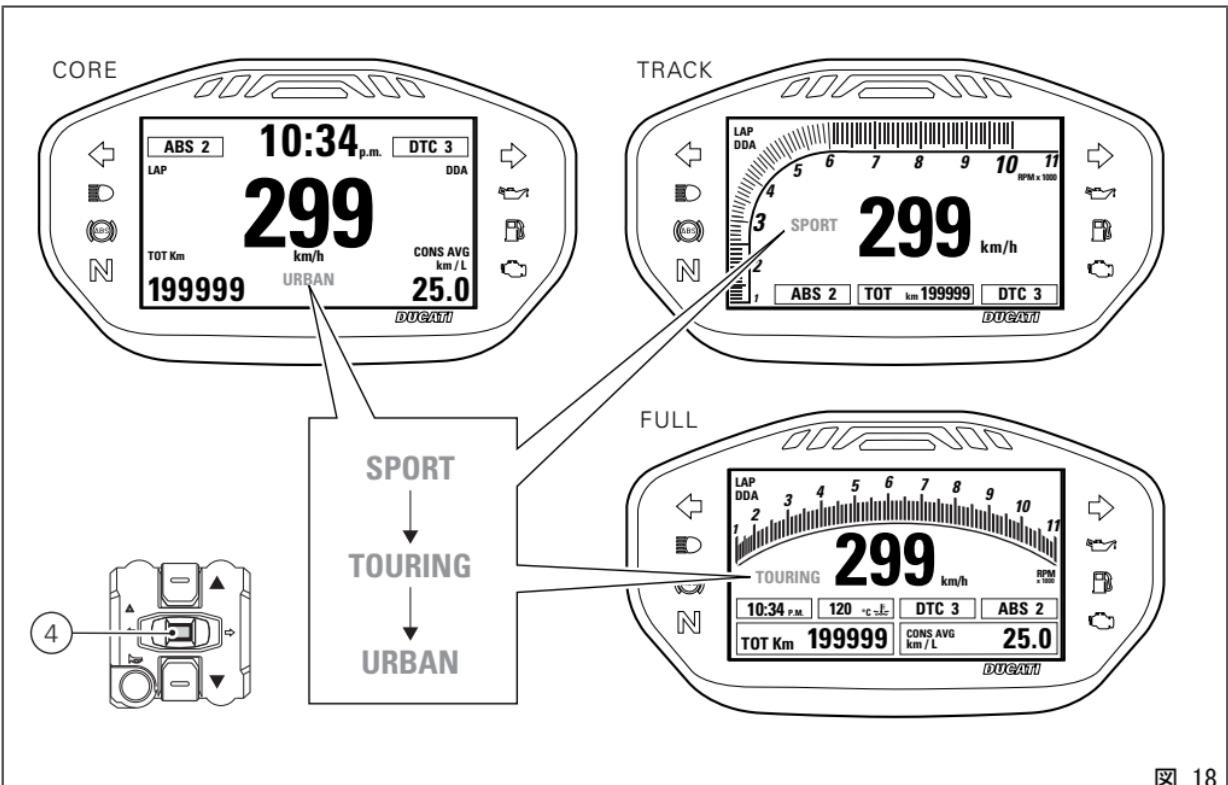


図 18

## ライディングモードの選択

メニュー決定ボタン (4) を押し、ライディングモード選択メニュー (A) に入ります。インストルメントパネルには速度が表示（ディスプレイの右側）され、また、ライディングモード名（ディスプレイの左側）が表示されます。

- SPORT
- TOURING
- URBAN

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が強調表示されます。



ボタン (4) がターンインジケーター起動の位置、右もしくは左にある場合は、ライディングモード選択メニューに入ることはできません。

強調表示されたライディングモードには、それに連動したいくつかの以下のパラメーターに関連する情報が表示されます。

- ABS システム : ABS システムが ON の場合は “ABS” の文字に続いて設定レベル (1, 2, 3)、ABS システムが OFF の場合は “ABS” の文字に続いて “OFF” の文字。
- DTC システム : DTC システムが ON の場合は “DTC” の文字に続いて設定介入レベル (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、DTC システムが OFF の場合は “DTC” の文字に続いて “OFF” の文字。
- エンジン出力 (ENGINE) : “ENG” の文字に続いて設定エンジン出力 “HIGH”、“MED”、“LOW”。

表示される情報は、各ライディングモード毎に記憶されている値です。保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがパーソナライズした値です。メニュー決定ボタン (4) を押す度に、表示可能な関連するパラメーター (A、図 19) と一緒にライディングモードが強調表示されます。

選択したいライディングモードが強調されたら、メニュー決定ボタン (4) を 2 秒間押し続け、希望のライディングモードを決定します。ライディングモードの変更が保存され、スタンダードスクリーン (B、図 19) の画面に戻ります。

選択したいライディングモードが強調されてもメニュー決定ボタン (4) を 10 秒以内に押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面 (C、図 19) に戻ります。

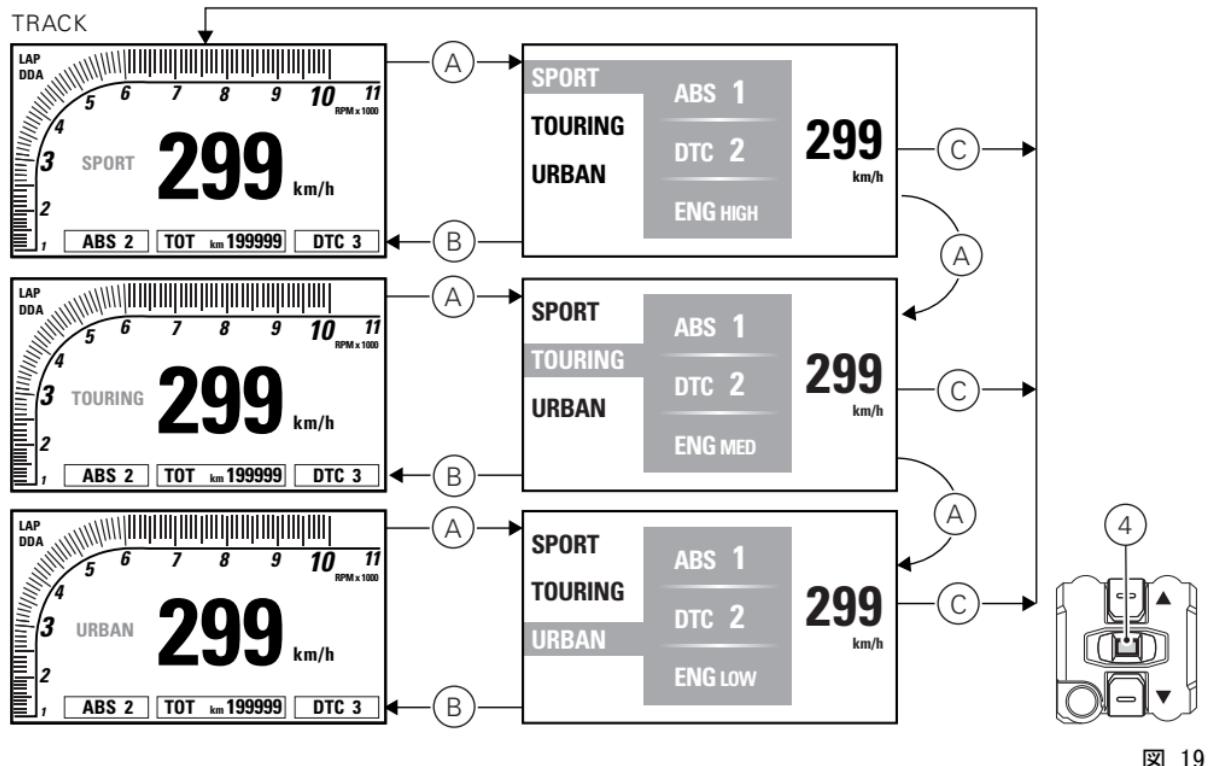


図 19

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

- スロットルコントロールを開き、ブレーキをかけた状態で車両が動いている場合：CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES（スロットルを閉じ、ブレーキを放してください）のエラーが表示され、5秒以内にスロットルコントロールが閉じられない、ブレーキが解放されない、または車両速度がゼロにならない場合、ライディングモード変更手順は完了せずにスタンダードスク린の表示に戻ります。



### 参考

ライディングモードの変更時に ABS システムの状態を ON (起動) から OFF (解除)、または OFF (解除) から ON (起動) に変更すると、選択したライディングモードを決定する時、インストルメントパネルは ABS システムの起動または解除の手続きも行います。

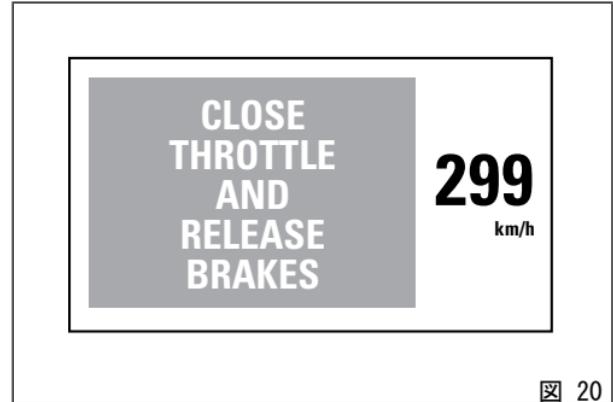


図 20

## DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が ON の場合、DTC の文字とトラクションコントロール介入レベル 1 から 8 までの数値
- DTC が OFF の場合、DTC OFF の文字
- DTC エラー、またはブラックボックスコントロールユニットエラーの場合、DTC --- の文字。さらに EOBD ランプが点灯し、該当するエラーが表示されます。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は TRACK モードと同じように表示されます。

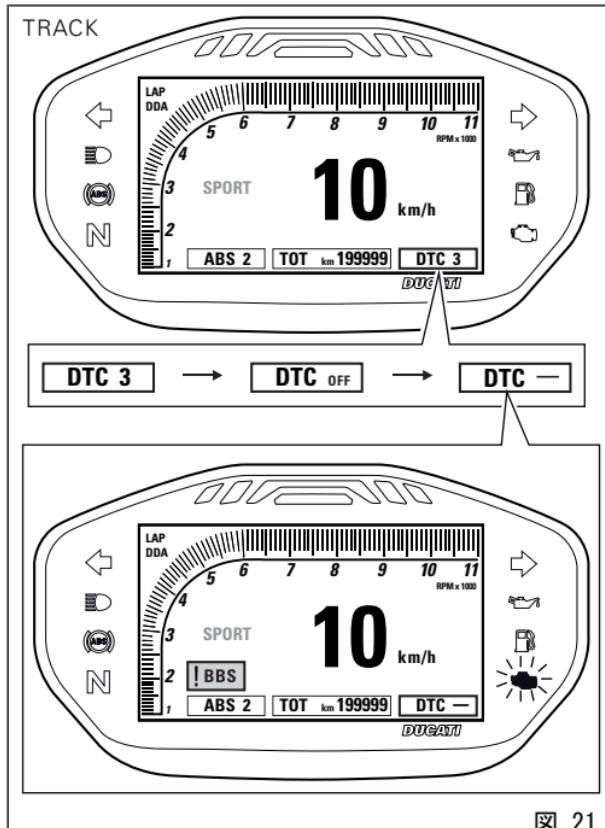


図 21



## 警告

DTC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取つて代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたとき、合理的に許容されるスピードを超えて走行するような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適した DTC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な“ライディングモード”のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	デフォルト
1	TRACK	熟練ライダー向けサーキットでの使用。 スキッドします。	NO
2	SPORT	熟練ライダー向け一般道およびサーキットでのスポーツドライブ用。スキッドします。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
3	SPORT	熟練ライダー向け一般道でのスポーツドライブ用。スキッドします。	NO
4	TOURING	高速ツーリングドライブ用。	ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル
5	TOURING	ツーリングドライブ用。	NO
6	URBAN	あらゆる種類の行程での "セーフティ ドライブ" 用。	ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル
7	RAIN	若干濡れた路面または湿った路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用に適合。	NO
8	HEAVY RAIN	濡れた路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用に適合。	NO

## レベルの選択に際しての注意事項



### 警告

お客様の車両の DTC システムの 8 レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤ（メーカー、モデル、サイズなどの特徴）によって決定されています。標準装備のタイヤと異なるサイズのタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備タイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア 190/55ZR17)。

- Pirelli Diablo Rosso II.

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（フロント 120/70ZR17 - リア 190/55ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルからより適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。

サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システム機能が影響を受けるため設定可能な 8 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。

この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 8 を選択すると、DTC システムはリアタイヤのわずかなスピinnにも介入します。

レベル 8 とレベル 1 の間には、その他に中間の介入レベルが存在します。DTC の介入度はレベル 8 から 1 に向かい減少します。

レベル 1、2、3 ではリアタイヤをスピnnやスキッドさせることができます。これらのレベルは熟練ライダーにのみ推奨されます。特にレベル 1 はサーキットでの使用が考慮されたものです。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
- 2) レイアウト/行程（類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる）
- 3) ライディングスタイル（より“スムーズ”に、またはより“シャープ”に）

グリップ状況とレベルの関係：正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況に大きく左右されます（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。レイアウトタイプとレベルの関係：レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満

足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択カーブ出口で早めに車体を起こし“シャープ”に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して“スムーズ”に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

### サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します（タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します）。

過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し“シャープ”なライディングスタイルで走行してみてください。

### 乾いた一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 5、4 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します（例：レベル 5 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 4 に、レベル 5 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6 に変更します）。

### 濡れた一般道での使用時のアドバイス

若干濡れた一般道または湿った一般道ではレベル 7、濡れた一般道ではレベル 8 の使用が推奨されます。同時に ENGINE LOW レベルを選択してください。

## ABS

車両には ABS システムが搭載されています。インストルメントパネルは ABS ランプを消灯、点滅、点灯させて ABS 機能のステータス (ON または OFF) を表示します。

インストルメントパネルの表示 :

- ABS が ON の場合、ABS の文字と設定介入レベル 1 から 3 までの数値
- ABS が OFF の場合、ABS OFF の文字
- ABS がエラーの場合、ABS --- の文字。さらに ABS ランプおよび EOBD ランプが点灯し、該当するエラーが表示されます。
- 情報がない場合、ABS ランプが点灯します。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は TRACK モードと同じように表示されます。

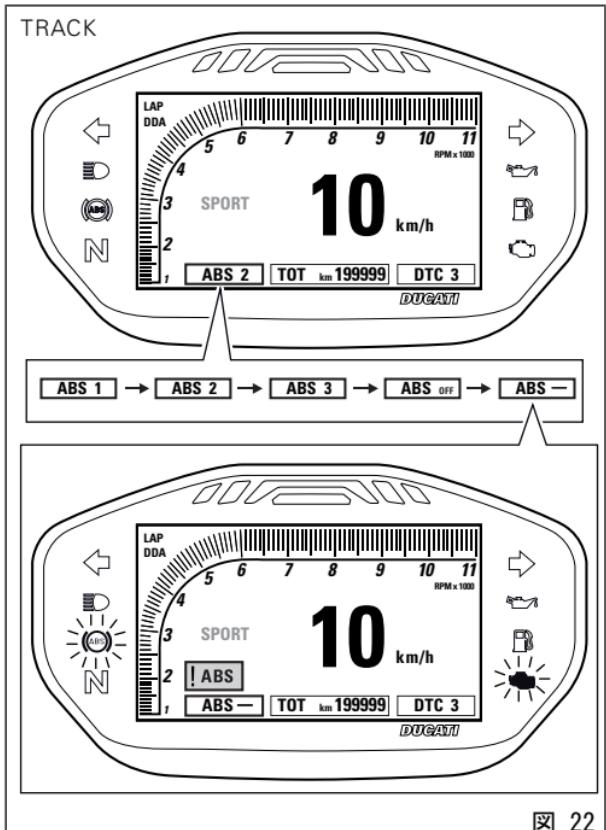


図 22

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な“ライディングモード”のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	デフォルト
OFF		ABSシステム解除	NO
1	TRACK/SPORT	標準的な使用条件：グリップが良好な一般道またはサーキットでの使用。 このモードでは ABS は前後輪両方に機能しますが、アンチリフトアップ*制御*は解除されています。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先されます。	ライディングモード“SPORT”的デフォルトレベル
2	SPORT/TOURING	標準的な使用条件：グリップが良好な一般道での使用。 このモードでは ABS は前後輪両方に機能し、アンチリフトアップ*制御は有効です。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先され、同時に制動時の高い安定性とリフトアップ*制御を確保します。	ライディングモード“TOURING”的デフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	デフォルト
3	ALL/URBAN/WET CONDITION	<p>標準的な使用条件：あらゆるドライビング条件</p> <p>このモードでは ABS は前後輪両方に機能し、アンチリフトアップ*制御は有効です。</p> <p>このキャリブレーションにおいては車両の高い安定性とリフトアップ*防止が優先され、同時に高い減速性能を確保します。</p>	ライディングモード “URBAN” のデフォルトレベル

\* 急な減速時の後輪の持ち上がり

## レベルの選択に際しての注意事項



### 警告

お客様の車両の ABS システムのレベル調整は、車両に装着されている標準タイヤで実施されたものです。

標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。お客様の車両に適合したタイヤとは異なるサイズのタイヤの使用は推奨されません。

標準装備タイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア 190/55ZR17)。

- Pirelli Diablo Rosso II

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（フロント 120/70ZR17 - リア 190/55ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルからより適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。

サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システム機能が影響を受けるため設定可能な 3 レベルのどれも納得のいくも

のでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキング、リフトアップの高い制御を行い、車両はすべてのブレーキングで高い安定性を維持します。レベル 3 からレベル 1 の順に、安定性やリフトアップ制御よりブレーキ力を優先する度合いが高くなります。レベル 1 ではリフトアップは制限されません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 2 と 3 の使用が推奨されます。

## メニュー機能

3種類のライディングモード設定（SPORT、TOURING、URBAN）のそれぞれについて、メニュー機能が以下の3種類の表示モードのいずれかで表示されます。

- CORE
- FULL
- TRACK

機能は以下の通りです。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP1)
- トリップメーター 2 (TRIP2)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- ラップタイム (LAP time) (起動時のみ)
- クーラント温度
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 平均スピード
- トリップタイム
- 外気温
- 時計

CORE および FULL モードでは、左側のメニュー (A) と右側のメニュー (B) の間に表示されます。TRACK モードでは、メニュー (C) に表示されます。

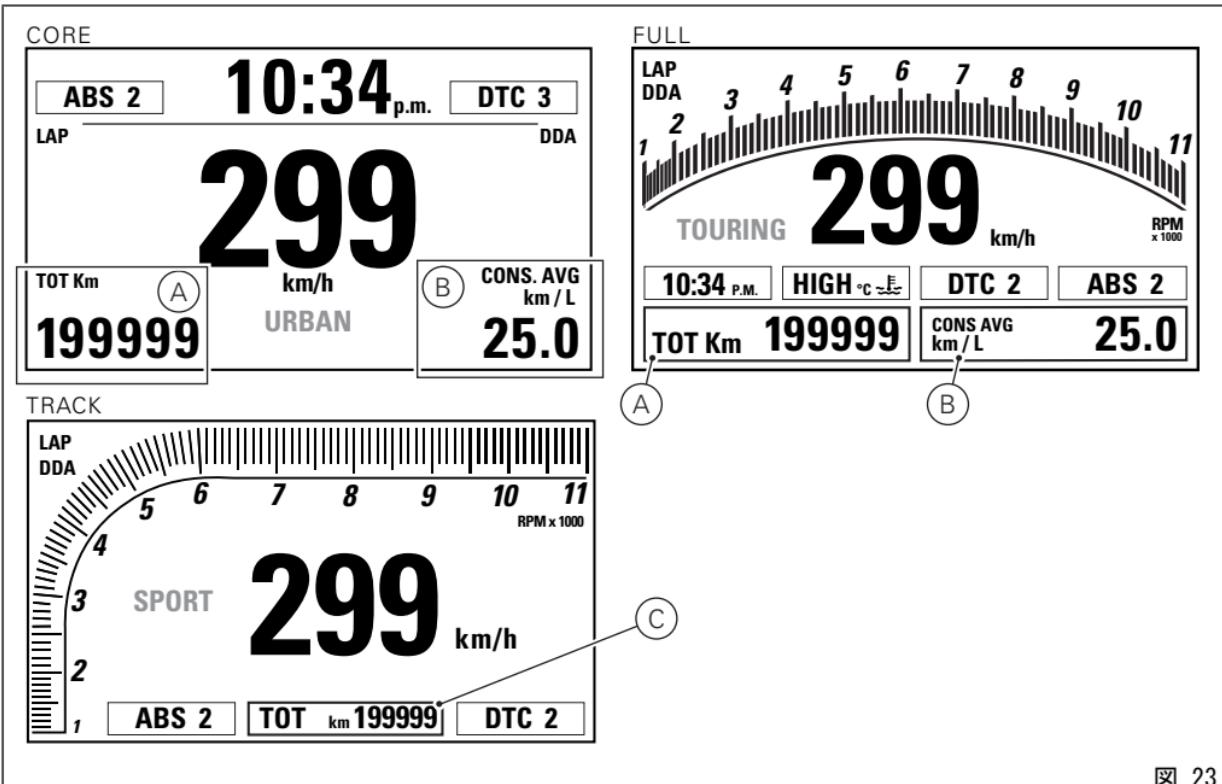


図 23

## オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。

オドメーターに対応する数値（キロ またはマイル）は、“TOT” の文字と単位で表示されます。最大値 (199999 km または199999 mi) に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。

オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

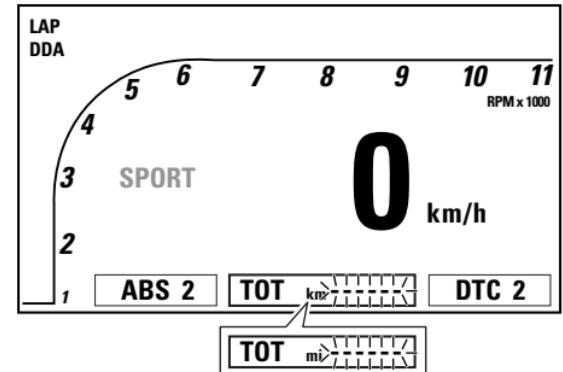
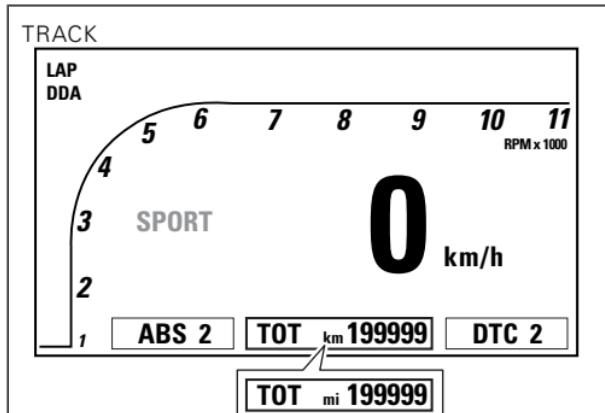


図 24

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は左下のメニューに表示されます。

### 参考

Key-ON 時にインストルメントパネルは 10 秒間オドメーターを表示し、その後ユーザー設定ページの画面に移ります。

### 参考

オドメーター機能で点線 “ ----- ” が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

## トリップメーター1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP1 に対応する数値(キロ またはマイル)は、TRIP1 の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。

トリップメーターの表示中にボタン(1)を 3 秒間押すと、TRIP1 のデータがリセットされます。TRIP1 がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

TRIP1 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は左下のメニューに表示されます。

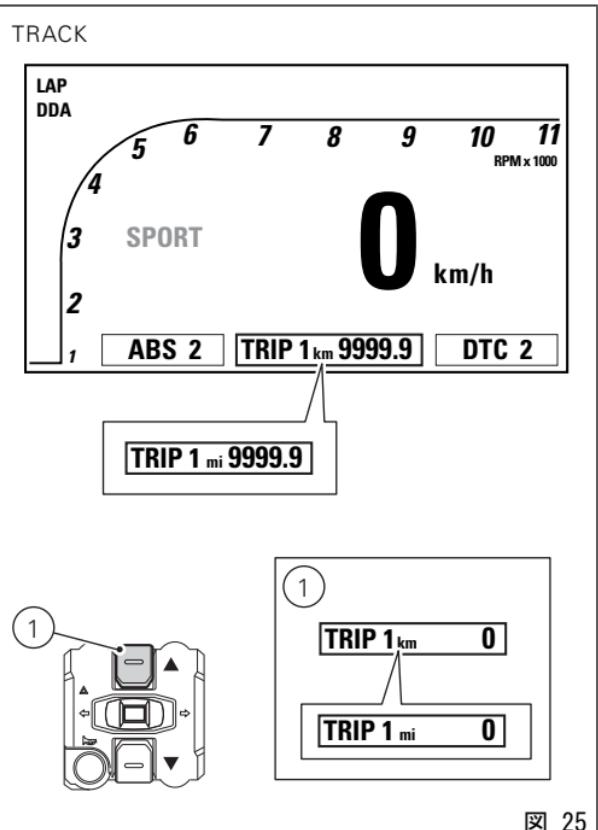


図 25

## トリップメーター2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

TRIP2 に対応する数値(キロまたはマイル)は、TRIP2 の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。

トリップメーターの表示中にボタン(1)を 3 秒間押すと、TRIP2 のデータがリセットされます。

TRIP2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は左下のメニューに表示されます。

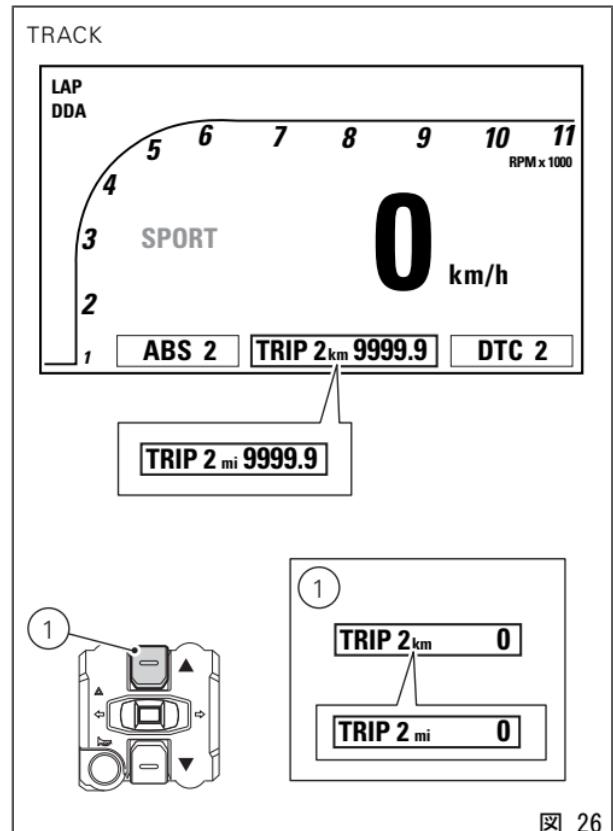


図 26

## 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)

燃料リザーブトリップメーターは、車両のリザーブでの走行距離（燃料リザーブランプが点灯した時点からの車両の走行距離）を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。

燃料リザーブランプが点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能に関係なく TRIP FUEL 機能が表示され、その後、メニューの他の機能をスクロール表示することができます。

リザーブタンク使用の状態が続く場合は、データは KEY-OFF 後も記憶されます。カウンターはリザーブ状態でなくなった時点で自動的に中断されます。

TRIP FUEL に対応する数値（キロまたはマイル）は、“TRIP FUEL” の文字と単位で表示されます。

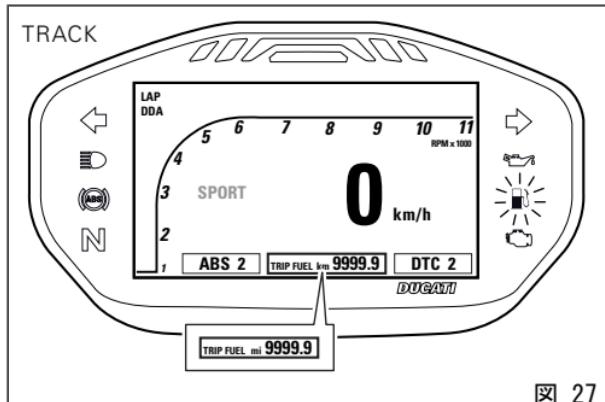


図 27

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。

TRIP FUEL 機能が起動していない場合は、メニュー内に対応する値を表示することはできません。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は左下のメニューに表示されます。

## ラップタイム (LAP time)

LAP 機能は、CORE および FULL 表示モードでは左側のメニュー、TRACK 表示モードでは中央のメニューにあります。

LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。

LAP 機能が ON の場合、FLASH ボタン (3) を押すと、最初にメニューに LAP 01 の文字と START の文字が 4 秒間点滅し、次の 2 秒間は 10 分の 1 秒の単位で測定された時間（“0' 00' 0”）が表示されます。その後 FLASH ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップタイムが 100 分の 1 秒単位（“0' 00' 00”）で 6 秒間一時的に表示されます。続いてストップウォッチ、進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます（LAP 機能がメニューで選択された場合）。

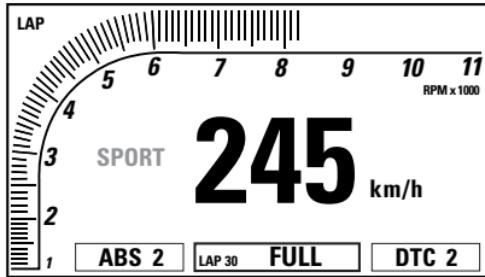
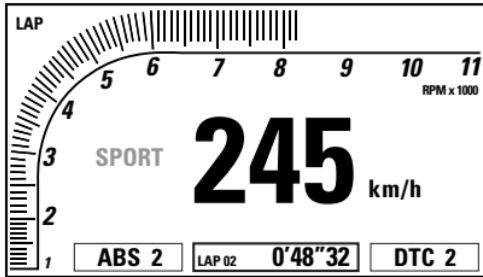
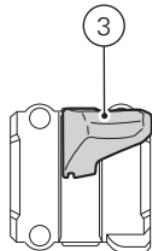
LAP 機能がメニューで選択したものと異なる場合、表示完了時インストルメントパネルは FLASH ボタン (3) を押す前の機能を表示します。

メニューのその他の機能はいつでもスクロールすることができます。

LAP のメモリー数が 30 に達すると LAP 機能は停止し、FLASH ボタン (3) を押す度にインストルメントパネルに FULL の文字が点滅表示されます。これは、測定したラップの保存領域がなくなったことを表します。

TRACK 表示モードの機能を表示しています。CORE および FULL 表示モードでは、この機能の値は左下のメニューに表示されます。

TRACK



## 参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅と LAP のストップウォッチの GPS 用フィニッシュラインの操作および記憶（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。

## 参考

TRIP FUEL 機能は常に LAP 機能より優先されます。LAP 機能が起動している状態で TRIP FUEL 機能が起動すると、自動的に LAP 機能のストップウォッチ表示が停止され、TRIP FUEL 機能に関する情報が表示されます。

## LAP の記録

LAP 機能が起動している場合、連続して 30 周回までラップタイプを記録することができます。

### 操作

- GPS が各ラップで自動的に “Start/Stop” を識別できるよう、フィニッシュラインを最初に通過する時に FLASH ボタン (3) を押してフィニッシュラインの座標をメモリーしておく必要があります。ストップウォッチは 100 分の 1 秒の単位 (0' 00' 00) で測定します。

- その後フィニッシュラインを通過する度に 5 秒間直前周回ラップ数およびラップタイムが 100 分の 1 秒の単位で表示されます。
- 5 秒後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります。
- 30 周回目およびそれ以降に FLASH ボタン (3) を押すと、走行中のラップを記録し、FULL の文字が表示されます。これは、保存領域がなくなったことを表します。

ラップタイムが最大 9 分 59 秒 99 以内に停止されない場合、ストップウォッチは再度ゼロからカウントを開始し、ラップが停止されるか記録機能が解除されるまでカウントを続けます。

それぞれの LAP で以下の情報が記録されます。

- 30 周分のラップタイム（連続したスタートとストップ間のタイム）
- 30 周分の最大 RPM 値（各ラップの最大 RPM 値）
- 30 周分の最高スピード（各ラップの最高スピード）。

## エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報 (° C) を受信し、設定単位 (° C または ° F) に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。

エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ~ +120 ° C (+104 ° F ~ +248 ° F) です。

データが以下の場合 :

- -40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、“---” が点滅表示されます。
- -39 ° C (-38 ° F) から +39 ° C (+102 ° F) の場合、“LOW” が点灯します。
- +40 ° C (+104 ° F) から +120 ° C (+248 ° F) の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、“HIGH” が点滅表示されます。

クーラントが以下の温度を超えた場合 :

- 100 ° C (+212 ° F) : メニューに表示される他の機能に関係なく温度値がメニューに直ちに表示されます。メニューの他の機能も表示することができます。

- 121 ° C (+250 ° F) : メニューに表示される他の機能に関係なく温度値がメニューに直ちに表示されます。メニューの他の機能を表示することはできません。さらに、警告アイコンが表示されます。

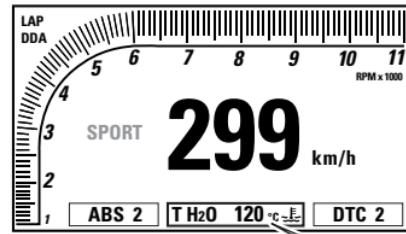
クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に “---” が点滅表示されます。さらに、EOBD ランプが点灯し、ENGINE TEMP. SENSOR エラーが表示されます。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に “---” が固定表示されます。

CORE

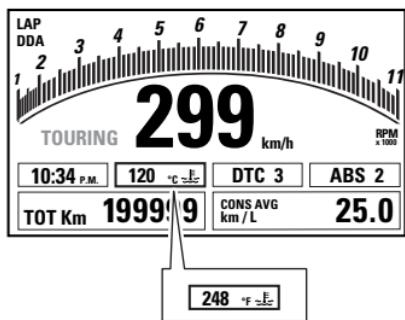


TRACK



**T H<sub>2</sub>O 248 °F**

FULL



TRACK

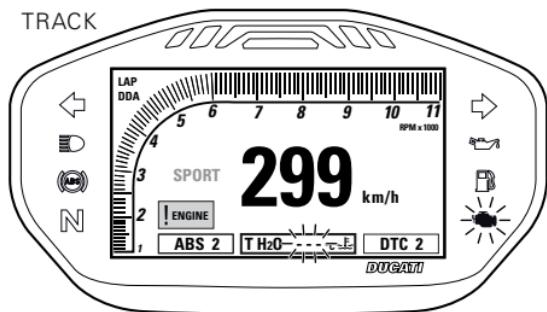


図 29

## 瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONS. I の文字を表示します。

数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、mpg USA で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます（車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません）。算出されない場合は、ディスプレイ上に瞬間燃費が “-.-.” の形式で固定表示されます。



## 参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます（走行距離を同時に変更）。

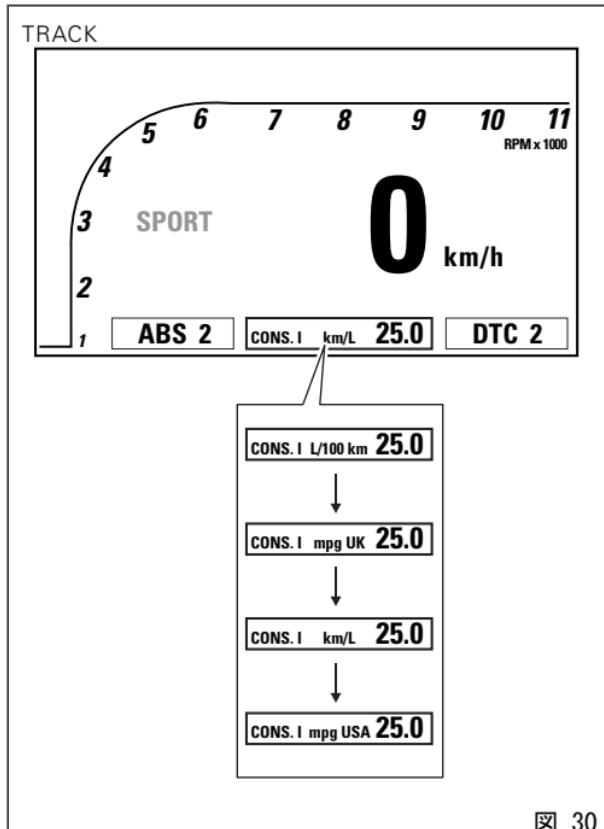


図 30

## 平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、CONS. AVG の文字を表示します。

TRIP1 が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイに表示されない最初の 10 秒間は “- - -” が平均燃費として固定表示されます。データは設定された単位（リットル /100 km、mpg UK、mpg USA）で表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。

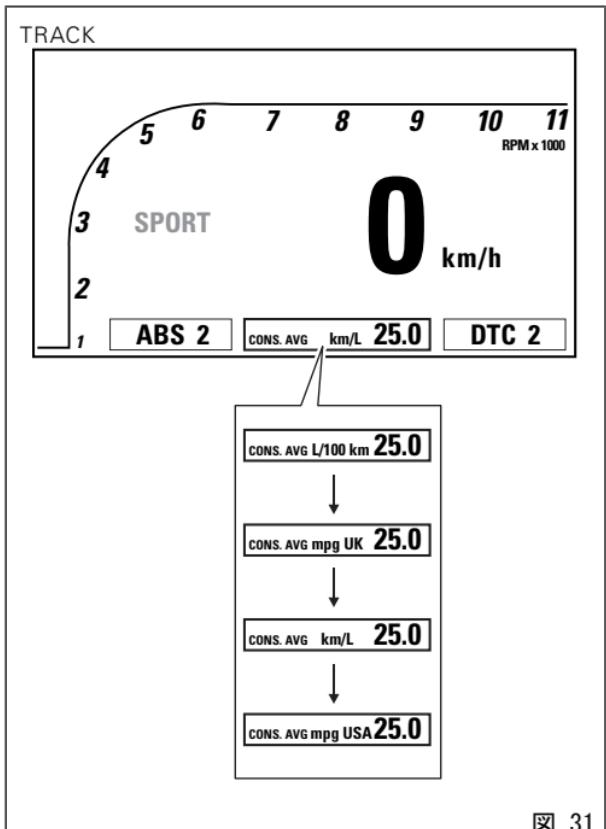


図 31



## 参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます（走行距離を同時に変更）。

## 平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、“SPEED AVG”の文字を表示します。

TRIP1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は “-.-” が平均スピードとして固定点灯します。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。

平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

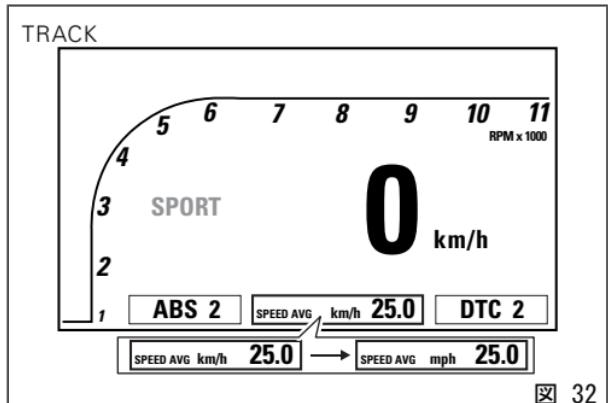


図 32



参考 設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます（走行距離を同時に変更）。

## 走行時間

インストルメントパネルは走行時間を“hhh:mm”形式で算出し、“TRIP TIME”的文字と共に表示します。TRIP1が最後にリセットされて以降の走行時間から計算されます。TRIP1がリセットされると、データもリセットされます。車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します）。表示時間が“720:00”（720時間00分）を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

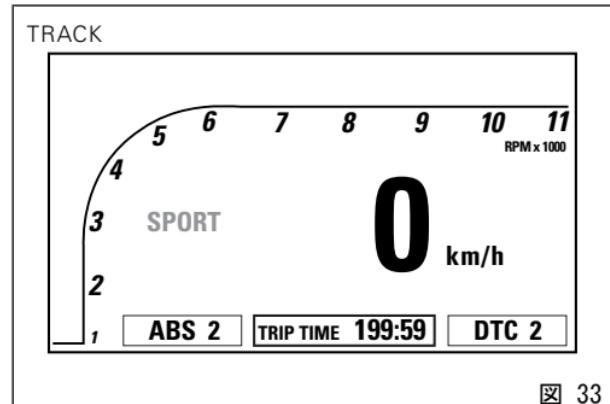


図 33

## 参考

スピード（および距離）、または燃費に関する値の単位が変更された場合、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

## 外気温

インストルメントパネルは設定された単位 ( $^{\circ}\text{C}$  または  $^{\circ}\text{F}$ ) に換算された外気温、設定単位、AIR の文字、温度計の記号を表示します。温度データは  $-39^{\circ}\text{C} \sim +124^{\circ}\text{C}$  ( $-38^{\circ}\text{F} \sim +255^{\circ}\text{F}$ ) の場合に表示されます。それ以外の温度 ( $-39^{\circ}\text{C}$  ( $-38^{\circ}\text{F}$ ) 未満か  $+124^{\circ}\text{C}$  ( $+255^{\circ}\text{F}$ ) を超える場合) では “---” と単位が表示されます。

気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に “---” が点滅します。EOBD ランプが点灯し、該当するエラー “T AIR SENSOR” がディスプレイに表示されます。インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に “---” が固定表示されます。



参考 エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

TRACK

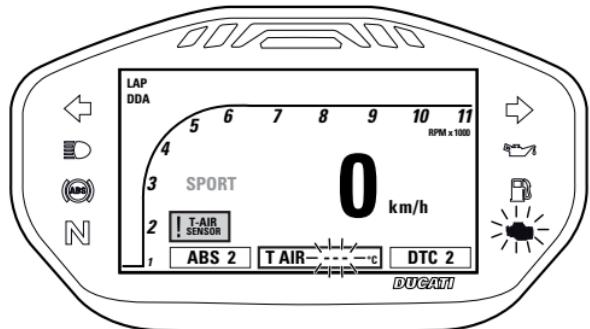
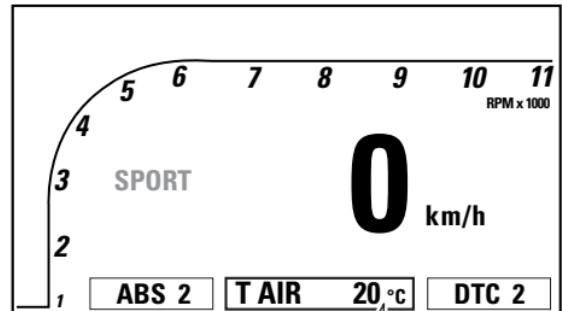


図 34

## 時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。

時間の表示は使用している表示モード (CORE、FULL、TRACK) によって異なります。

インストルメントパネルは時間を以下のように表示します。

- hh (時間) : mm (分) :
- a.m. 表示 (0:00 から 11:59 まで)、または p.m. 表示 (12:00 から 12:59 までと、1:00 から 11:59 まで)。

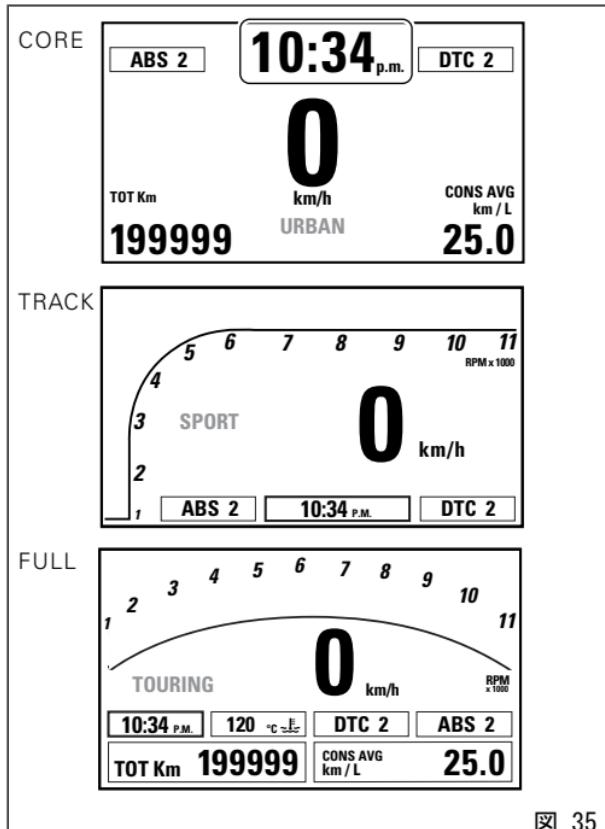


図 35

## サブ機能

### DDA

車両に DDA 装置が搭載されている場合のみインストルメントパネルは DDA に関する情報を表示します。“DDA”の文字が表示される場合、DDA 装置が起動しており、記録が行われています。“DDA”の文字が表示されない場合、DDA 装置は起動していません。

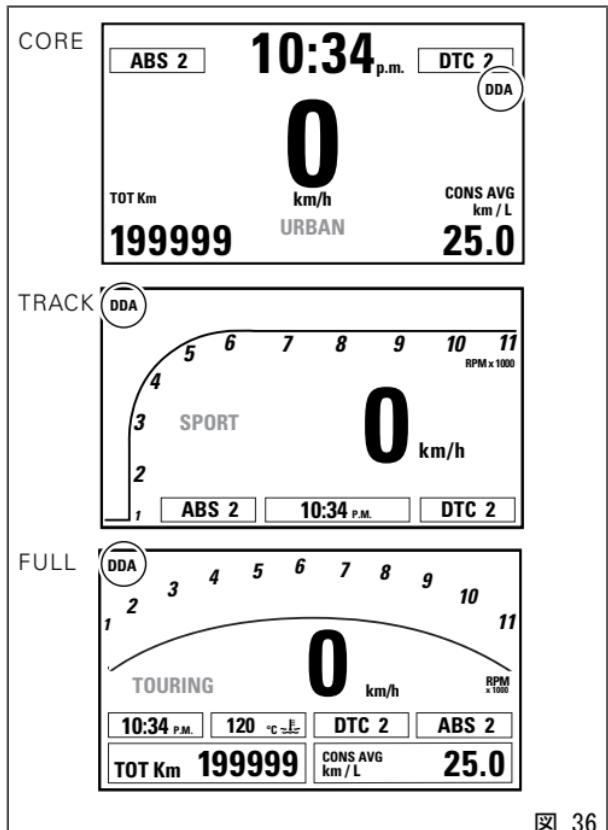


図 36

## LAP

インストルメントパネルは LAP 機能の状態を表示します (LAP の記録 ON または OFF)。

LAP が ON の場合、“LAP”の文字が表示され記録がおこなわれ、LAP が OFF の場合、“LAP”の文字は表示されません。

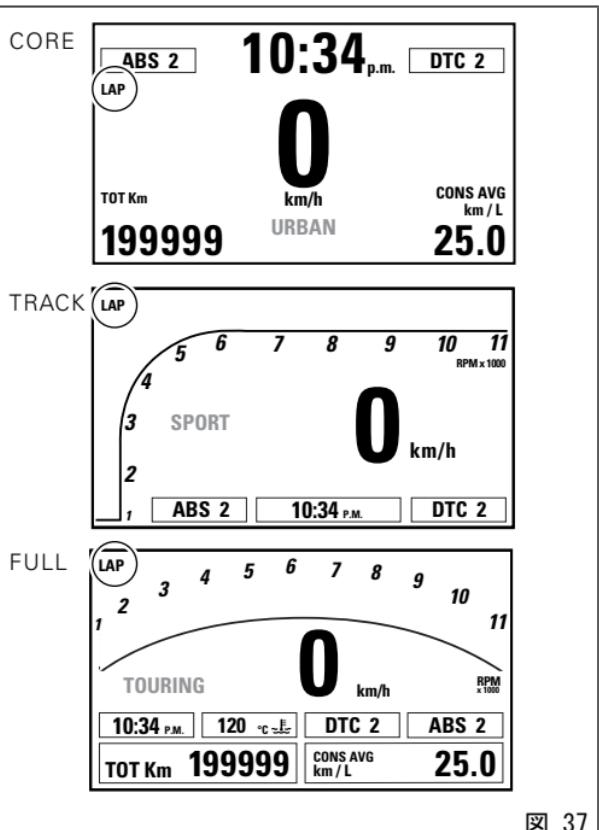


図 37

## メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス（定期点検）を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

アイコン表示は注意 / 警告の表示方法と同じです（“ページ 87”）。

### 参考

図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

TRACK

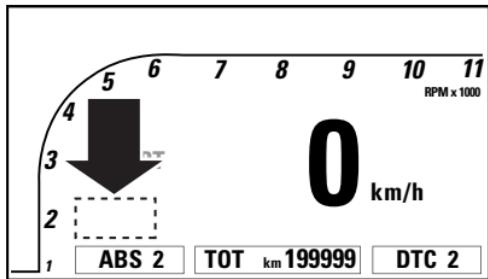
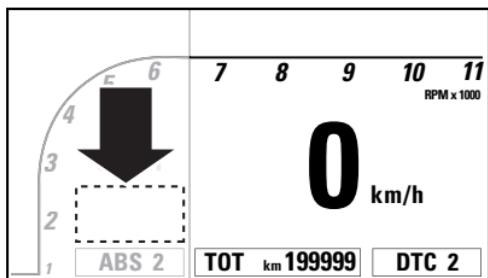


図 38

## OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 miles) に達すると、KEY-ON 毎に 5 秒間大きく表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて“リセット”されるまで常に小さく表示されます。  
アイコン表示は注意 / 警告の表示方法と同じです (“ページ 87”)。



図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

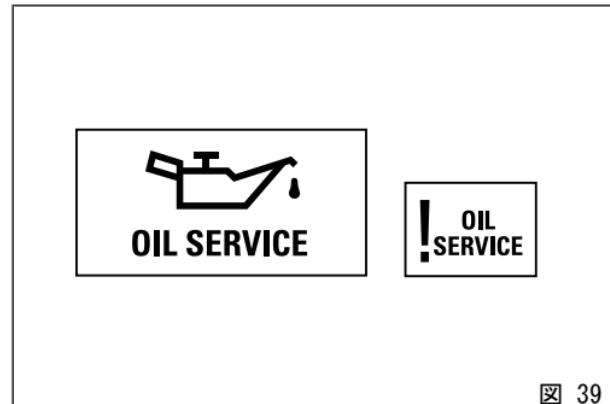


図 39

## OIL SERVICE または DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは次の定期点検 (OIL SERVICE または DESMO SERVICE) までの残りのキロ数 (マイル数) のカウントを開始します。

KEY-ON する度に 2 秒間大きく表示され、定期点検までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切ると、表示が黄色になります。KEY-ON 毎に 5 秒間表示されます。アイコン表示は注意 / 警告の表示方法と同じです (“ページ 87” )。

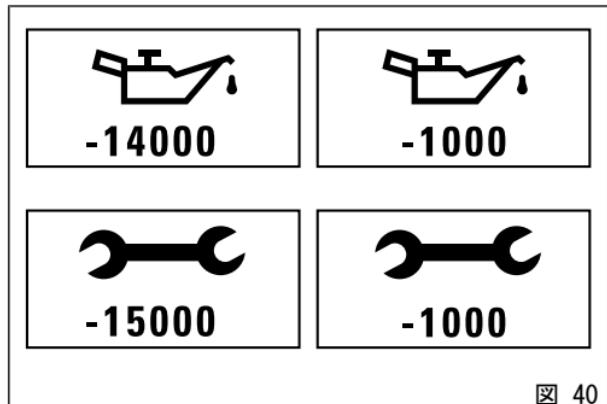


図 40

OIL SERVICE または DESMO SERVICE 表示  
メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、必  
要なメンテナンスのタイプ (OIL SERVICE または  
DESMO SERVICE) が表示されます。  
実施するメンテナンスの種類が KEY-ON 毎に 5 秒間  
大きく表示されます。その後 Ducati 正規サービス  
センターでのメンテナンスにおいて “リセット” さ  
れるまで常に小さく表示されます。  
アイコン表示は注意 / 警告の表示方法と同じです  
（“ページ 87”）。

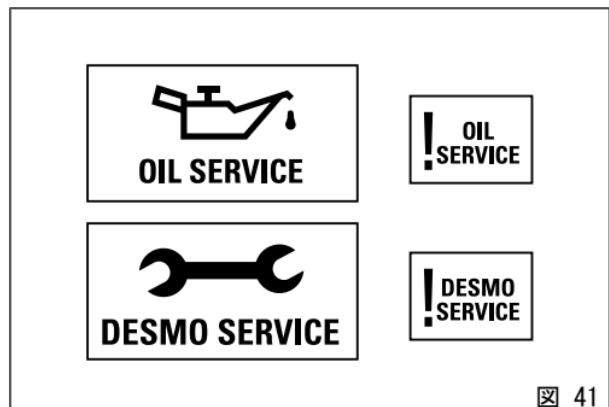


図 41

## 注意 / 警告 (Warning)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。

KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。

車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。警告が検知されると最初の 5 秒間はっきりと表示され（大きいアイコン）、その後小さく表示されます（小さいアイコン）。

複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが 3 秒ずつ順番に表示されます。

1 つ以上の“警告”が存在する場合、警告ランプは点灯しません。

## エンジンクーラント温度高 (High temperature)

この機能では、エンジンクーラント温度が 121° C (250° F) に達すると警告を表示します。

### 参考

この場合、速やかに車両を停止してエンジンを切ってください。ファンが作動していることを確認してください。

### 参考

図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

TRACK

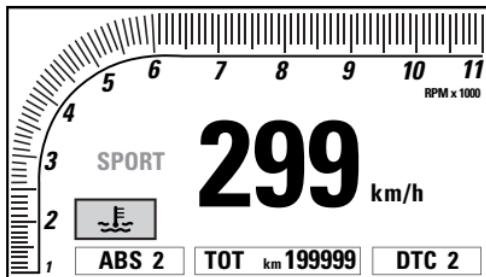
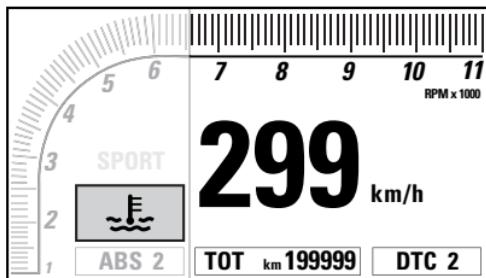


図 42

## DDA メモリーフル (DDA full)

この機能では、DDA メモリーがいっぱいです以上走行データを記録できない場合に警告を表示します。



### 参考

図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

TRACK

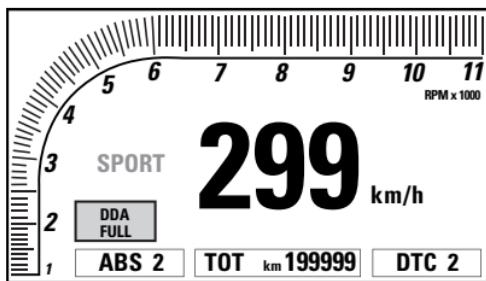
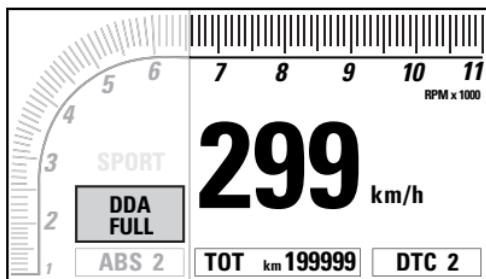


図 43

## 凍結

この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。

温度が  $4^{\circ}\text{ C}$  ( $39^{\circ}\text{ F}$ ) に下がると表示され、 $6^{\circ}\text{ C}$  ( $43^{\circ}\text{ F}$ ) に上がると表示が消えます。



## 警告

気温が  $4^{\circ}\text{ C}$  ( $39^{\circ}\text{ F}$ ) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が“低い”時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。



## 参考

図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

TRACK

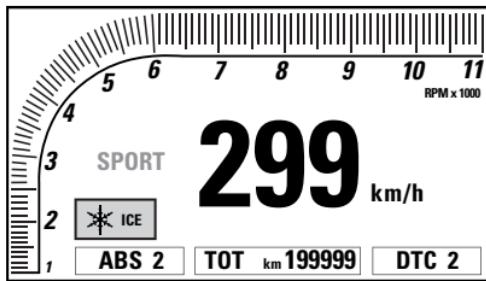
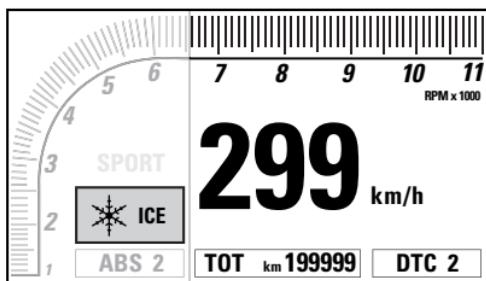


図 44

## エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両 KEY-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイにエラーが表示され、EOBD ランプが点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルのディスプレイにエラーが自動的に表示され、EOBD ランプが点灯します。

エラーが検知されると最初の 5 秒間ははっきりと表示され（大きいアイコン）、その後小さく表示されます（小さいアイコン）。



図の表示モードは TRACK ですが、CORE および FULL モードでも同じようにアイコンが表示されます。

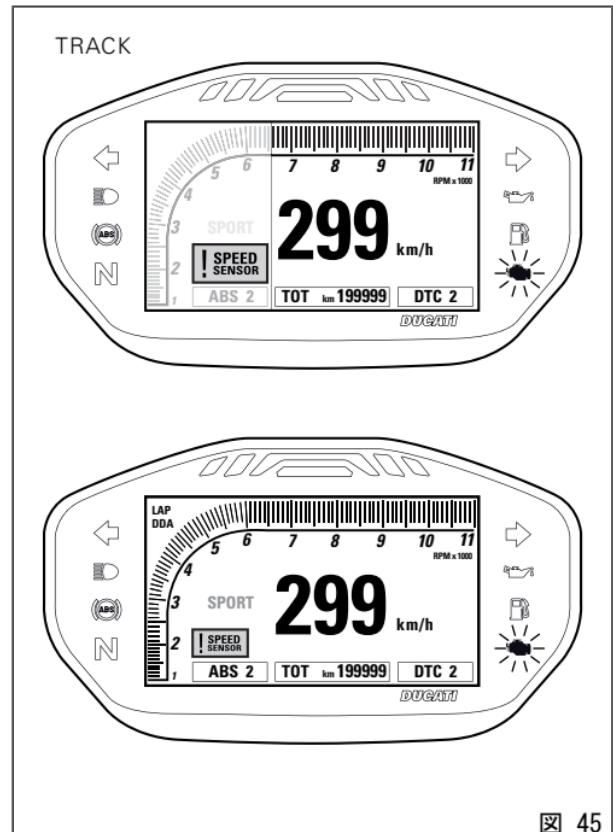


図 45

複数のエラーが検知された場合、各エラーアイコン  
が 3 秒ずつ順番に表示されます。

エラーを受信すると同時に EOBD ランプが点灯しま  
す。



### 警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、  
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお  
問い合わせください。

## 表示エラーの説明

エラー表示	説明
CAN LINE	CAN LINE BUS Off
UNKNOWN DEVICE	コントロールユニットがシステムに認識されません - SW エラー
ABS	ABS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS	BBS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません BBS コントロールユニット機能の一般不具合
DSB	DSB コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
IMMOBILIZER	E-Lock コントロールユニット機能の不具合全般 キー - アンテナ（イモビライザー）機能の不具合
ENGINE	ECU コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません ECU コントロールユニット機能の不具合全般 スロットルポジションセンサー不具合 スロットルグリップポジションセンサー不具合 スロットルリレーまたはスロットルモーター不具合 圧力センサー不具合 エンジンクーラント温度センサー不具合 インテークダクト温度センサー不具合 インジェクションリレー不具合

エラー表示	説明
	イグニションコイル不具合 インジェクター不具合 エンジン回転数センサー不具合 ラムダセンサーまたはラムダセンサーヒーター不具合 車両スターターリレー不具合 セカンダリエアセンサー不具合
FUEL SENSOR	NTC リザーブセンサー不具合
SPEED SENSOR	フロントスピードセンサーとリアスピードセンサーの一方または両方の不具合
BATTERY	バッテリー電圧が高すぎる、または低すぎる
STOP LIGHT	ストップライトが機能していない
FAN	エレクトリッククーリングファン不具合
SIDE STAND	サイドスタンドセンサー不具合
T-AIR	外気温センサー
DDA	DDA コントロールユニット機能異常
SPEED	フロントおよびリアスピードセンサー不具合



## 参考

“FAN” の表示は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

## エラーアイコン表

### ランプ / エラーメッセージ

### エラー

	ABS	ABS コントロールユニット
	BBS	ブラックボックスコントロールユニット
	DSB	インストルメントパネルコントロールユニット
	FAN	クーリングファン
	ENGINE	エンジンコントロールユニット
	CAN LINE	Can Bus OFF
	UNKNOWN DEVICE	ソフトウェアの互換性
	FUEL SENSOR	リザーブフューエルセンサー
	T-AIR SENSOR	気温センサー

ランプ / エラーメッセージ	エラー
 SPEEDSENSOR	スピードセンサー
 BATTERY	バッテリー電圧
 STOP LIGHT	リアストップライト
 IMMOBILIZER	イモビライザー
 SIDE STAND	サイドスタンドセンサー



参考 “FAN” の表示は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

## サイドスタンドの状態の表示

インストルメントパネルはスタンドの状態に関するデータを受信し、サイドスタンドが下りている/開いている場合には赤の背景に“SIDE STAND”の文字がディスプレイに表示されます。

サイドスタンドセンサーにエラーがある場合、インストルメントパネルにスタンドが下りている/開いている警告を表示し、EOBDランプが点灯します。ディスプレイには該当するエラー“Side stand sensor”が表示されます。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の“SIDE STAND”的表示が点滅し、不明の状態を表します。

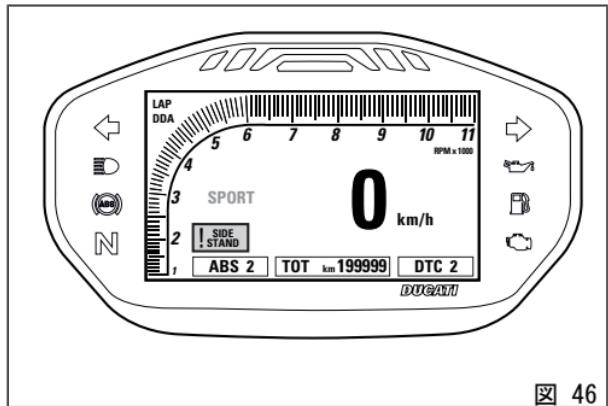


図 46

## 設定メニュー

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。

設定メニューに入るには、KEY-ON の状態で車両実速度が 20 km/h (12 mph) 以下の時にボタン (2) を 3 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。

設定メニューには以下の機能が表示されます。

- RIDING MODE
- BATTERY
- BACK LIGHT
- CLOCK
- PIN CODE
- RPM
- UNIT SETTING
- INFO MODE
- LAP
- DDA (DDA 装置が装備されている場合のみ)

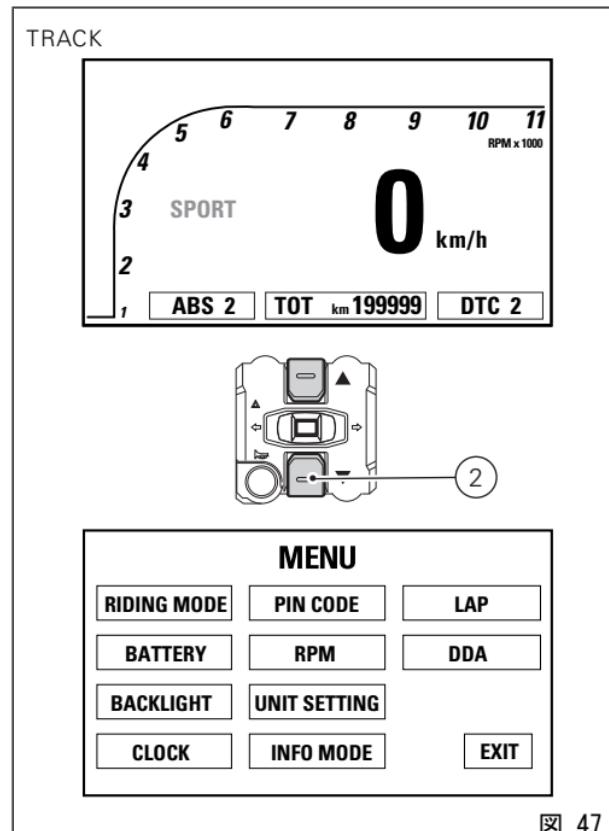


図 47

## **!** 重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン（1）および（2）を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン（4）を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。

機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。設定メニューを終了するには、“EXIT”を強調表示し、メニュー決定ボタン 4 を押します。

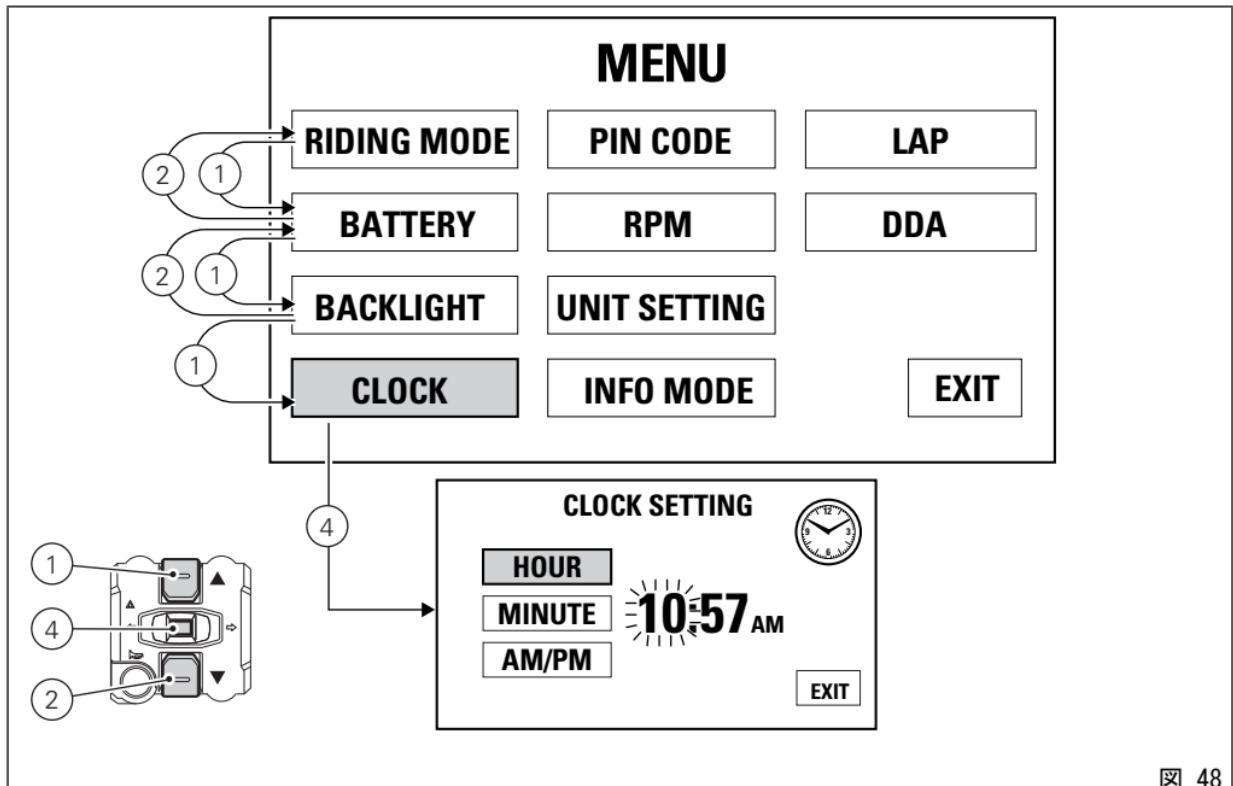


図 48

## ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “RIDING MODE” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“RIDING MODE” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (RACE、SPORT、WET) を選択します。希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

“EXIT” の文字が強調表示された状態でボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

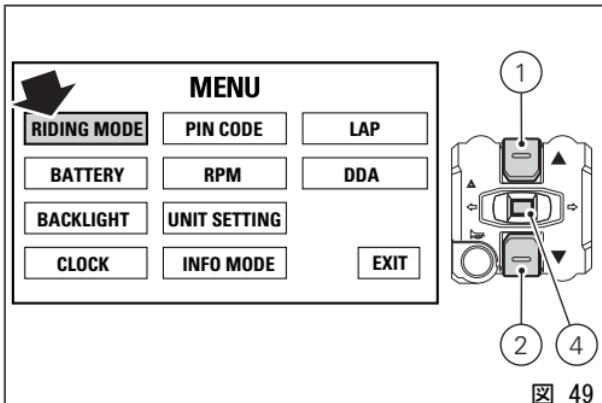


図 49

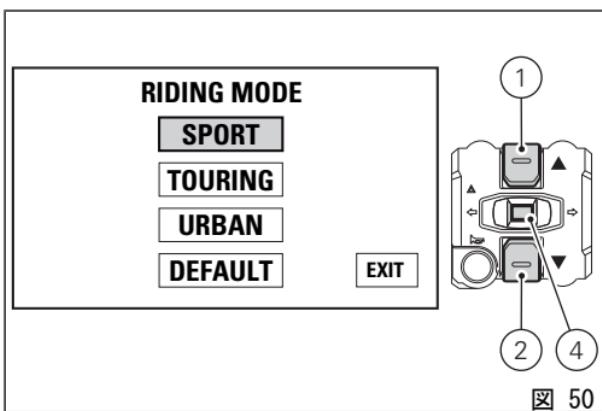


図 50

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ABS
- DTC
- ENGINE
- DEFAULT

ボタン (1) および (2) を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のパラメーターが、ボタン (2) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン (4) を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューぺージが開きます。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。

それぞれのライディングモードを Ducati 初期設定に戻すには、“DEFAULT” 機能を使用します。

“EXIT” の文字が強調表示され、ボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。



## 警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、“DEFAULT” 機能を使用してパラメーターを修復してください。

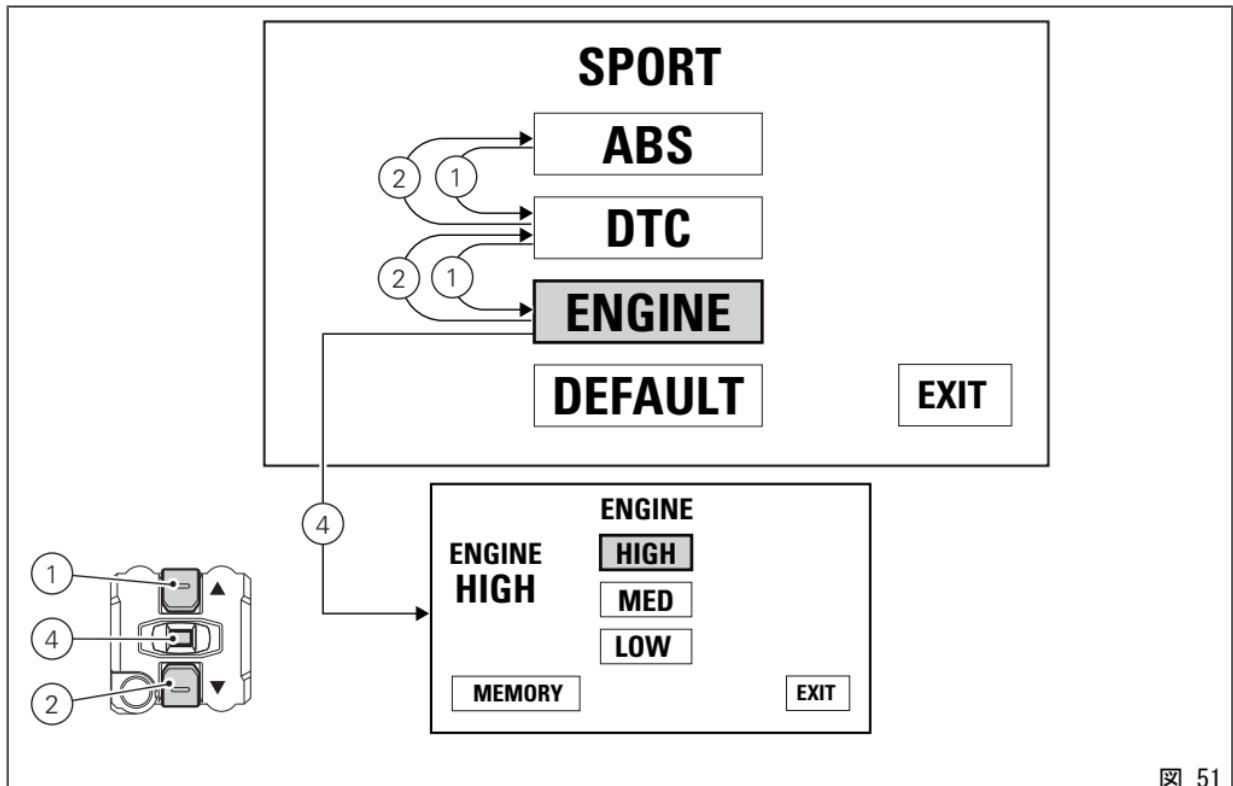


図 51

## ライディングモードのパーソナライズABS調整

この機能では一つのライディングモードの ABS システム介入レベルの設定、または ABS システムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “RIDING MODE” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“RIDING MODE” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT, TOURING, URBAN) を選択します。

希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ABS) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

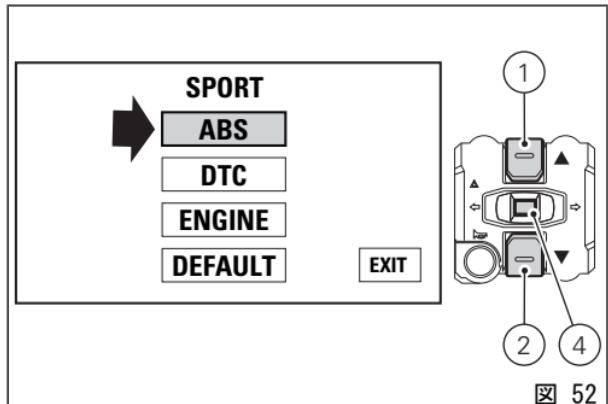


図 52

この機能に入ると、左側に現在設定されている ABS レベル、または状態（例：ABS 1）が表示されます。右側にはレベル 1 から 3、および OFF のパーソナライズ可能な内容が表示されます。

ボタン（1）および（2）を押すと希望の介入レベルを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のレベルを選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押して “MEMORY” の文字を強調表示します。

新しい設定を保存するには、“MEMORY” の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を 3 秒間押します。保存が正しく完了すると、“MEMORIZED” の文字が 1 秒間緑色に強調され、設定レベルまたは状態が更新されます（更新は緑色で表示）。その後、“EXIT” の文字が緑色で強調表示されます。メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。



**参考** この機能を使用して ABS システムを起動または解除する場合、すなわちシステムのステータスを解除から起動、起動から解除へ変更する場合、ABS システムの起動・解除プロセスが実施されます。ABS コントロールユニットのステータス変更には約 6 秒かかります。

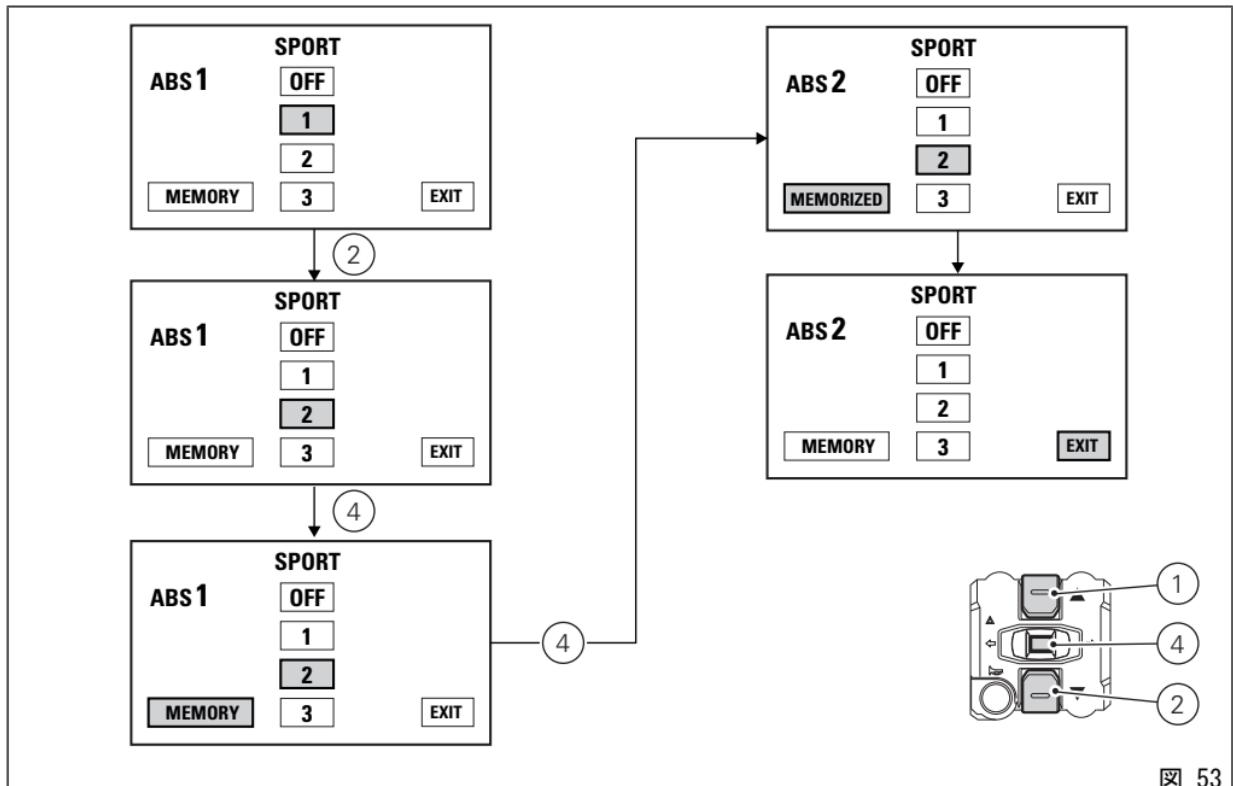


図 53

## ライディングモードのパーソナライズDTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DTC 介入  
レベルの設定または解除を行うことができます。

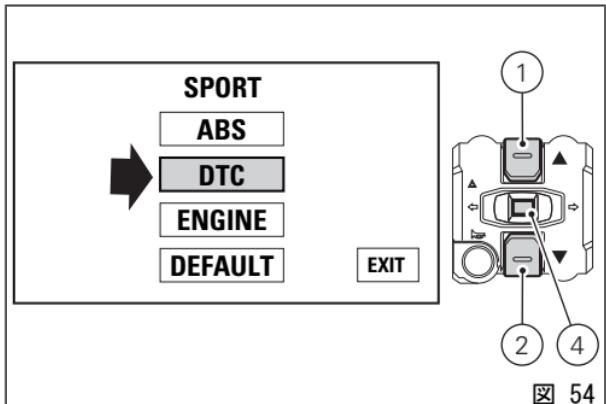
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2)  
を押して “RIDING MODE” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4)  
を押します。

“RIDING MODE” メニューに入ります。ボタン (1) ま  
たは (2) を押して、希望のライディングモード  
(SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のライディングモードが強調表示されたら、メ  
ニュー決定ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニ  
ューに入ります。



この機能に入ると、左側に現在設定されている DTC レベル、または状態（例：DTC 3）が表示されます。右側にはレベル 1 から 8、および OFF のパーソナライズ可能な内容が表示されます。

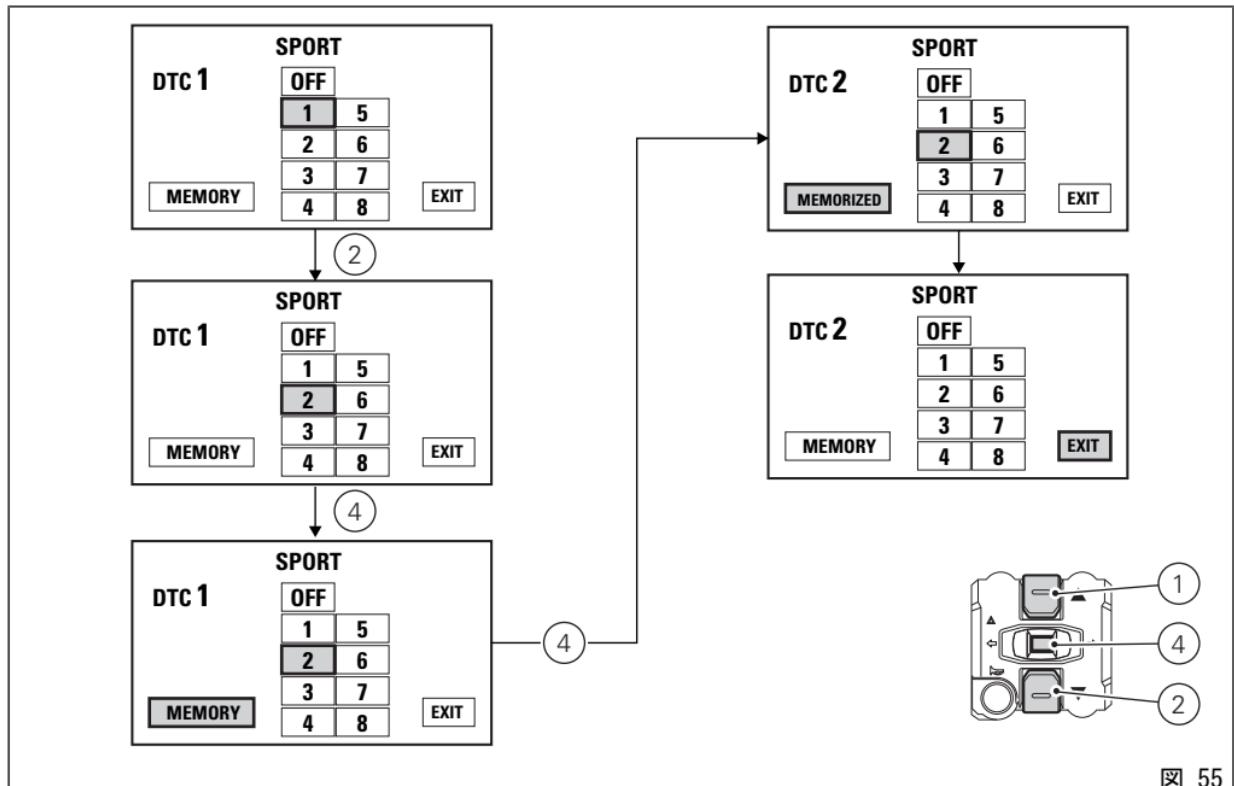
ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DTC）を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

新しい設定を保存するには、“MEMORY” の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を 3 秒間押します。

保存が正しく完了すると、“MEMORIZED” の文字が 1 秒間緑色に強調され、レベルまたは設定状態が更新されます（更新は緑色で表示）。その後、“EXIT” の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。



## ライディングモードのパーソナライズエンジン調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して“RIDING MODE”を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“RIDING MODE”メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ENGINE) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

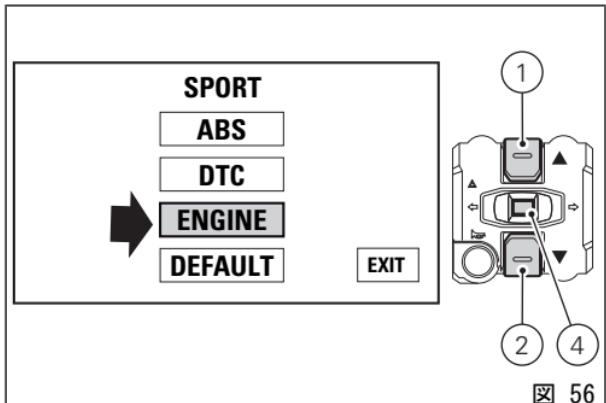


図 56

この機能に入ると、左側に現在設定されているエンジン出力（例：ENGINE HIGH）が表示されます。

右側には、以下のパーソナライズ可能な内容が表示されます。

- HIGH
- MED
- LOW

ボタン（1）および（2）を押すと希望のエンジン出力を一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のエンジン出力を選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押して“MEMORY”の文字を強調表示します。

新しい設定を保存するには、“MEMORY”の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を3秒間押します。

保存が正しく完了すると、“MEMORIZED”の文字が1秒間緑色に強調され、設定したエンジン出力が更新されます（更新は緑色で表示）。その後、“EXIT”的文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT”的文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

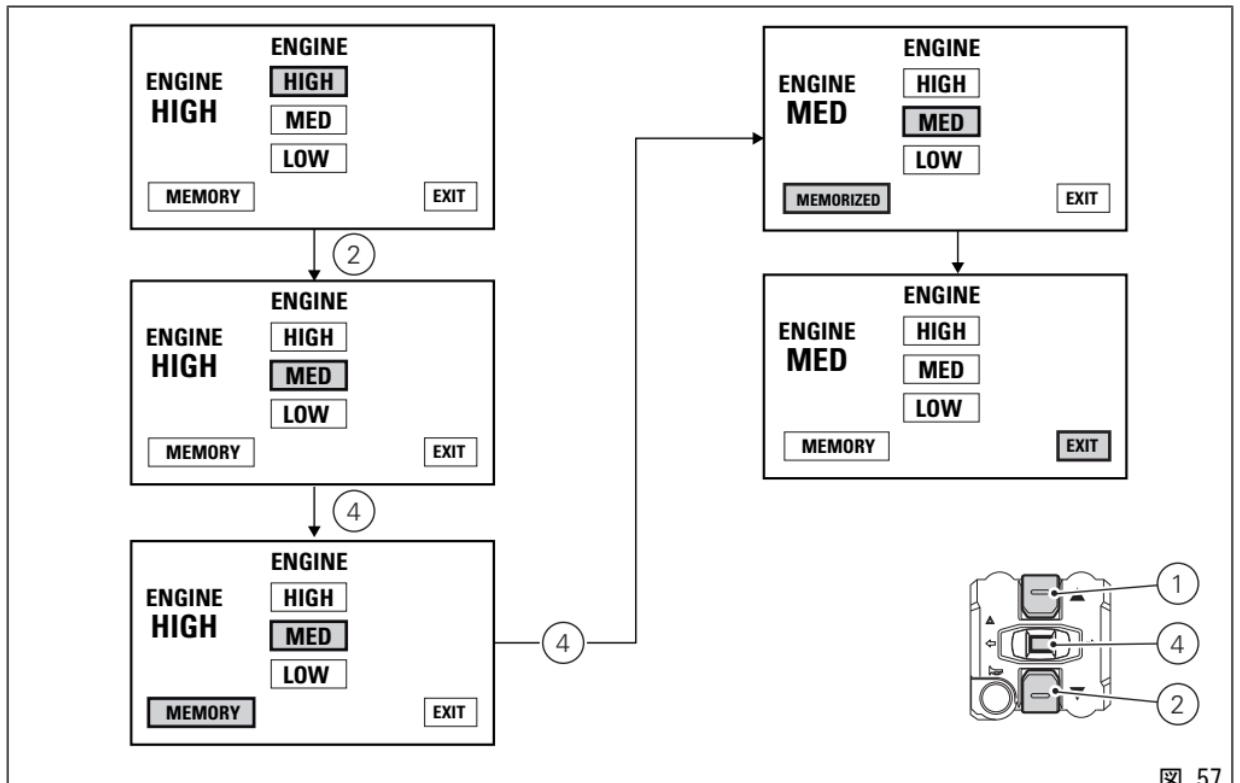


図 57

## ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復

ここではそれぞれのライディングモードに連動したパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “RIDING MODE” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“RIDING MODE” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT, TOURING, URBAN) を選択します。希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DEFAULT) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

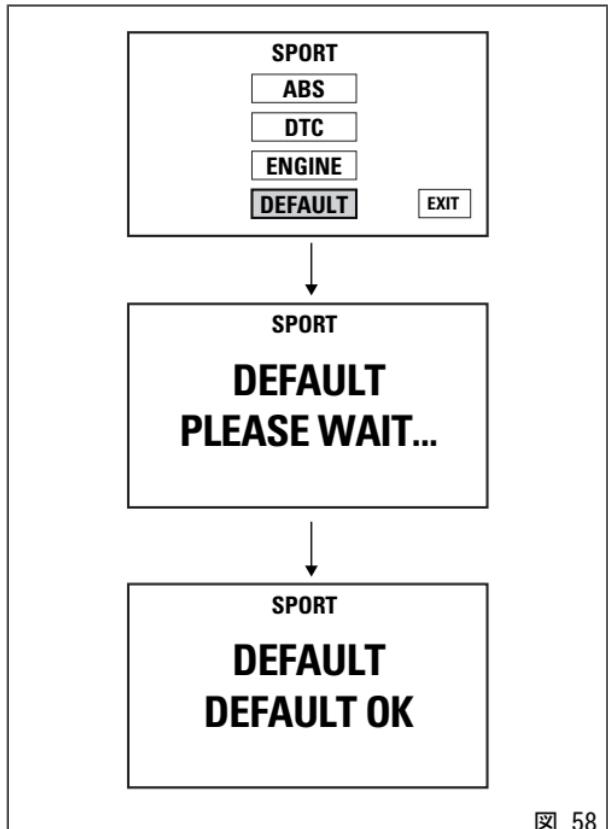


図 58

パラメーターの回復には 3 秒を要し、この間  
“PLEASE WAIT....” の文字がディスプレイに表示さ  
れます。

手順が終了すると、ディスプレイに 2 秒間 “DEFAULT  
OK” の文字が表示され、パラメーターが回復された  
ことを表します。

その後、自動的にライディングモードのパーソナラ  
イズメニューの最初のページに戻り、“EXIT” の文字  
が表示されます。

メニューを終了して設定メニューの最初のページに  
戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4)  
を押します。

## バッテリー電圧

ここでは車両のバッテリー電圧レベルを確認することができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “BATTERY” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“BATTERY” メニューに入ります。

ディスプレイ上には以下のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.0 V 未満の場合、“LOW” の文字が点滅し、赤の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 V から 11.7 V の場合、電圧データが点滅し、赤の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8 V から 14.9 V の場合、電圧データが固定表示され、通常の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V から 16.0 V の場合、電圧データが点滅し、赤の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V を超えている場合、“HIGH” の文字が点滅し、赤の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。

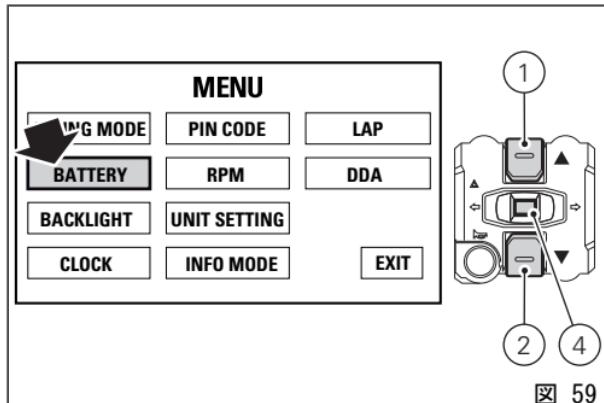


図 59

バッテリー電圧にエラーがあるの場合、インストルメントパネルには単位と共に電圧の値として “---” が点滅します。EOBD ランプが点灯し、該当するエラー “BATTERY” がディスプレイに表示されます。インストルメントパネルがバッテリー電圧のデータを受信しない場合、単位と共に “---” が固定表示されます。

メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

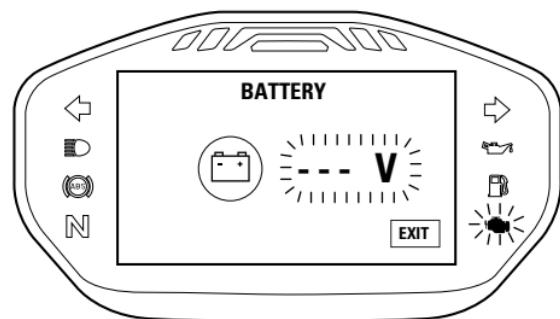
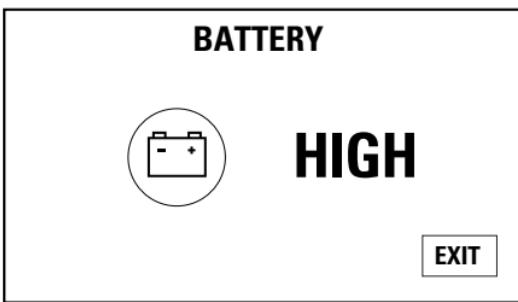
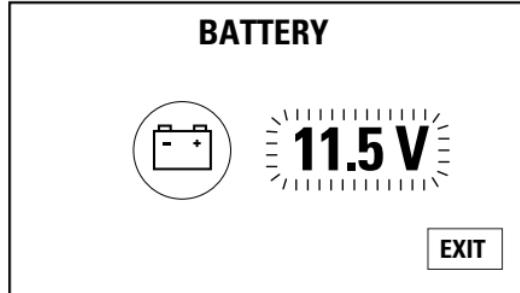
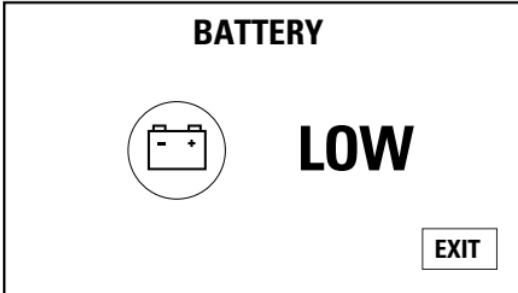


図 60

## ディスプレイ背景の設定

この機能では、インストルメントパネルの背景を選択することができます。

設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “BACKLIGHT” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“BACKLIGHT” メニューに入ります。この機能に入ると、DAY、NIGHT、AUTO の可能な背景設定が左側に表示され、使用中のモードが強調表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すとインストルメントパネルの背景の種類を一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のパラメーターが、ボタン (2) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望の背景を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。インストルメントパネルは直ちにユーザーが選択したバックライトを ON にし、該当する文字が自動的に強調表示されます。

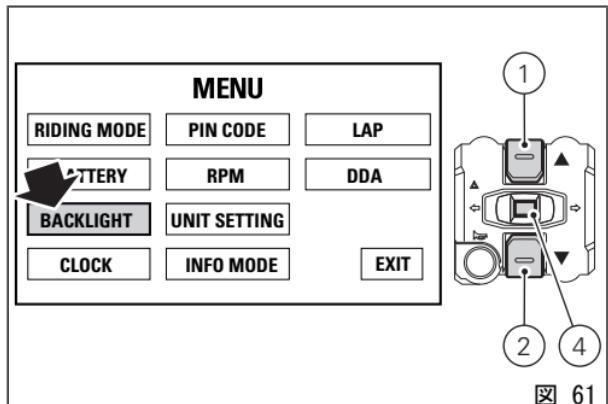


図 61

DAY 設定（昼間モード）を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい“白”に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

NIGHT 設定（夜間モード）を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの“黒”に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。

AUTO 設定（自動モード）を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ（センサーが感知）に応じて自動的に調整されます。

外光が強い場合ディスプレイの背景は白になり、外光が弱い場合はディスプレイの背景が黒になります。メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT”の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

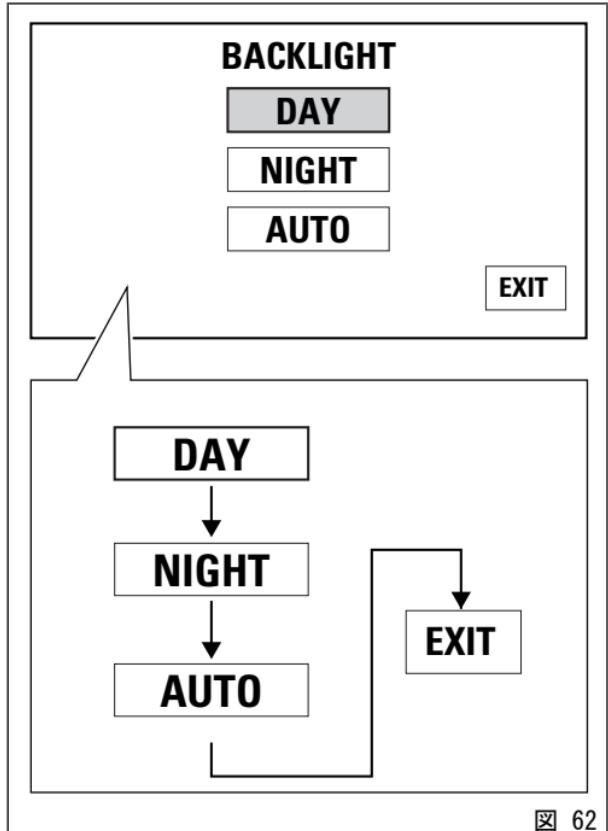


図 62

## 時計の調整

この機能は時計の調整/設定をします。

設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “CLOCK” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“CLOCK SETTING” メニューに入ります。メニューに入ると、左側に HOUR、MINUTE、AM / PM の調整可能な内容が表示され、右側には現在の時刻(例：10 : 30 a.m.) が表示されます。

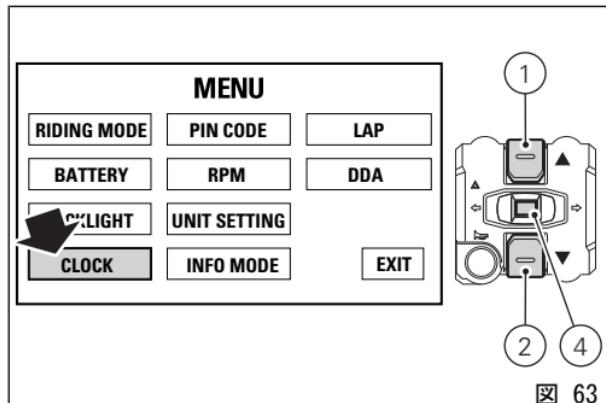


図 63

## 時間の調整

ボタン (1) または (2) を押して “HOUR” を選択します。

強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。時間のデータが点滅し始めます。

ボタン (1) を押すと、時間の値が AM (午前) では 0、11、… 1、0、PM (午後) では 12、11、… 1、12 のように 1 ずつ小さくなります。

ボタン (2) を押すと、時間の値が AM (午前) では 11、0、… 1、11、PM (午後) では 12、1、… 1、12 のように 1 ずつ大きくなります。

希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定された時間の値が固定表示に代わります。

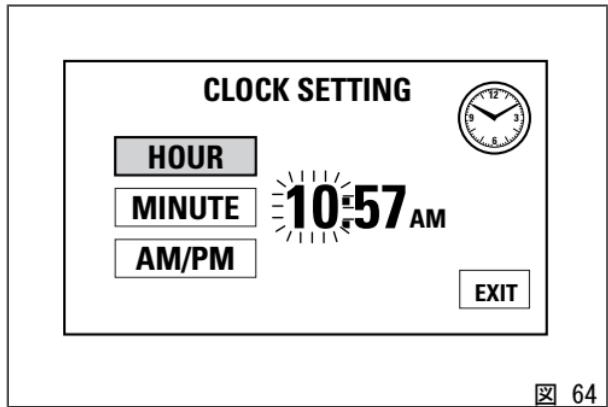


図 64

## 分の調整

ボタン (1) または (2) を押して “MINUTE” を選択します。

強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

分のデータが点滅し始めます。

ボタン (1) を押すと、分の値が 59、58、…、00、59 のように 1 ずつ小さくなります。

ボタン (2) を押すと、分の値が 00、01、…、59、00 のように 1 ずつ大きくなります。

希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定された分の値が固定表示に代わります。

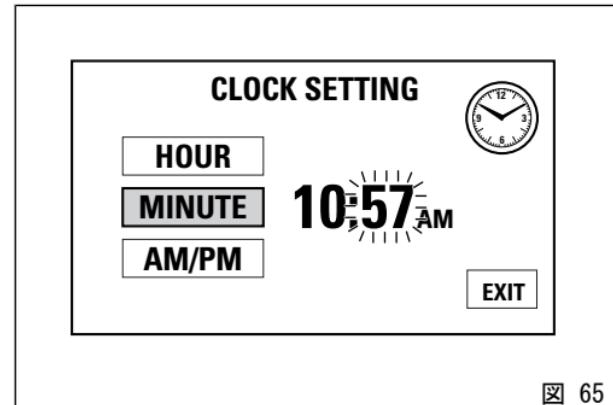


図 65

## AM/PM の調整

ボタン (1) または (2) を押して “AM/PM” を選択します。

強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

データが点滅し始めます。

ボタン (1) または (2) を押してそれぞれに対応する AM または PM を選択します。

希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定されたデータが固定表示に代わります。メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。



参考 バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますので、ユーザーは再度設定する必要があります。

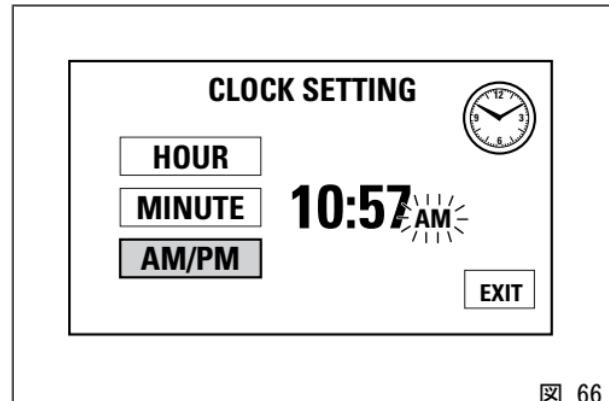


図 66

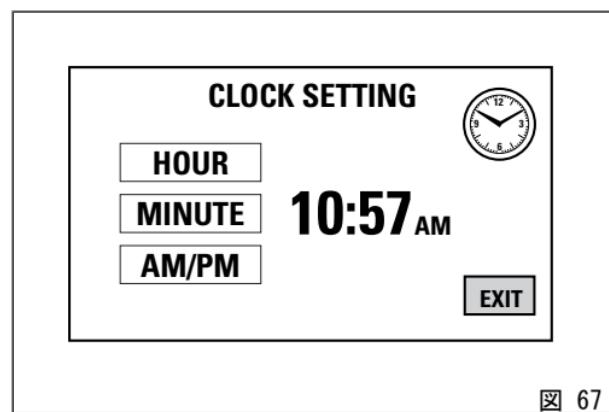


図 67

## PIN CODE

この機能は、E-Lock システムに不具合が生じた場合に車両を一時的に起動します（ステアリングロック解除が OFF で、E-Lock システムに問題がある場合）。

PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 枝の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。起動するには “PIN CODE の入力” の手順に従います。PIN を変更するには “PIN CODE の変更” の手順に従います。

E-Lock システムに不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、車両のブロック解除の手順に従います。



### 警告

PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の “リセット” を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

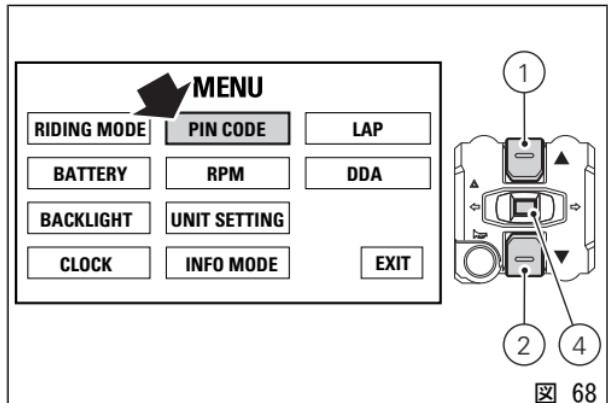
## PIN CODE の入力

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “PIN CODE” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“PIN CODE” メニューに入ります。



この機能に入ると、ディスプレイに“INSERT PIN CODE”の文字、その下に緑色で強調された点線“---”が表示されます。

コードの入力：

- 1) ボタン (4) を押すと、“0”で表示される 1 枠のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり (+1)、その後 “0”に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり (-1)、その後 “0”に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 枠すべての数字を決定します。

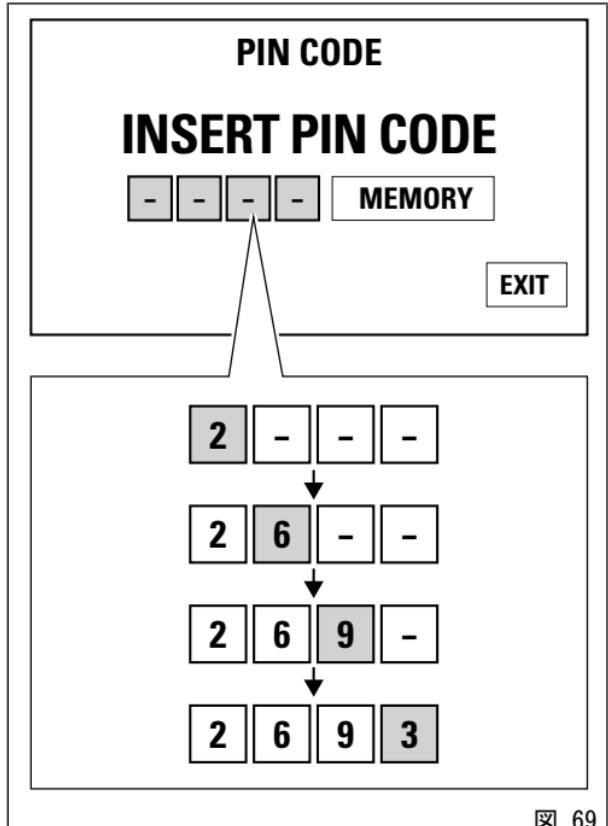


図 69

ボタン（4）を押して最後の桁を決定すると、“MEMORY”の文字が強調表示されます。新しい設定を保存するには、“MEMORY”の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を3秒間押します。

保存が正しく完了すると、“MEMORIZED”的文字が1秒間緑色に強調され、その後“EXIT”的文字が緑色で強調表示されます。

最初のPIN CODEを設定して以降はメニューからPIN CODE登録ページに入ることができなくなり、代わりにPIN CODEの変更のページになります。PIN CODE機能がリセットされた場合（Ducati正規ディーラーのみ行うことが可能）に限り、最初のPIN CODEの登録ページが有効になり、メニューから入ることができます。

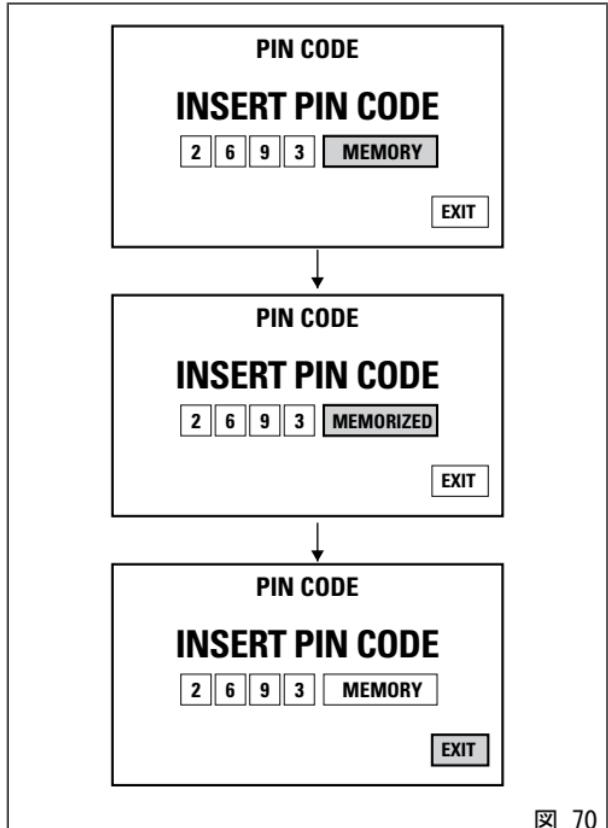


図 70

## PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “PIN CODE” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“PIN CODE” メニューに入ります。この機能に入ると、ディスプレイに “OLD CODE” の表示とその隣には緑色で強調された点線 “---” が表示され、下には “NEW CODE” の表示が表れます。

旧コードの入力：

- 1) ボタン (4) を押すと、“0” で表示される 1 枚のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり (+ 1) 、その後 “0” に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり (- 1) 、その後 “0” に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 枚すべての数字を決定します。

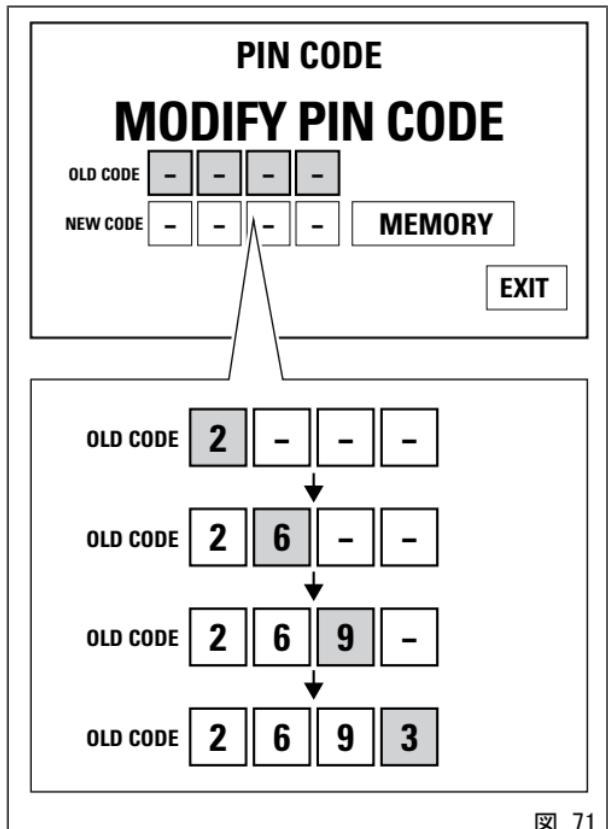


図 71

ボタン (4) を押して 4 枚すべての数字を決定した際、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは “WRONG” を 3 秒間表示し、その後 OLD PIN を入力する点線 “---” を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE の確認中に問題が発生した場合、インストルメントパネルは “ERROR” を 3 秒間表示し、その後 “EXIT” の文字を強調表示します。
- 正しい PIN CODE が入力されると、インストルメントパネルは “CORRECT” を 3 秒間表示します。その後、NEW PIN を入力する点線 “---” が表示されます。

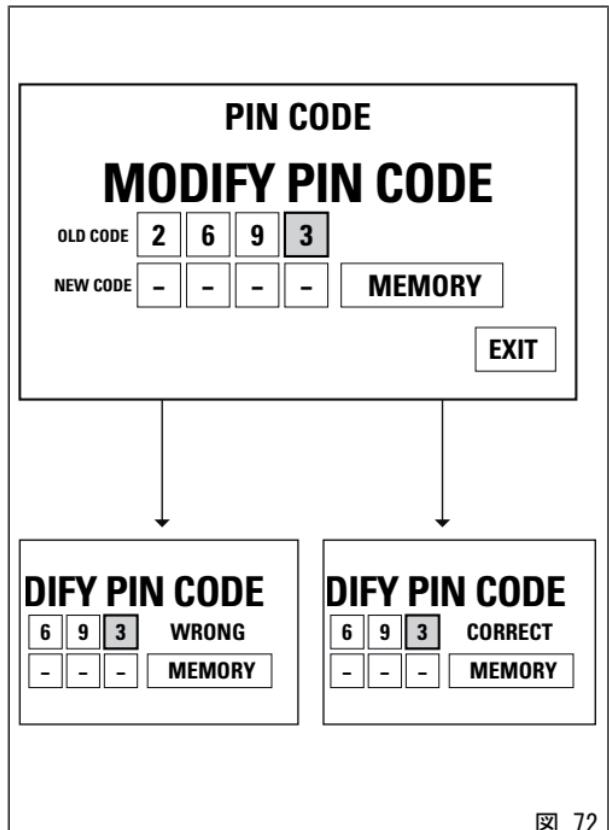


図 72

新しいコードの入力：

- 1) ボタン (4) を押すと、“0”で表示される1桁のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が9までひとつずつ大きくなり(+1)、その後“0”に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が1までひとつずつ小さくなり(-1)、その後“0”に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の4桁すべての数字を決定します。

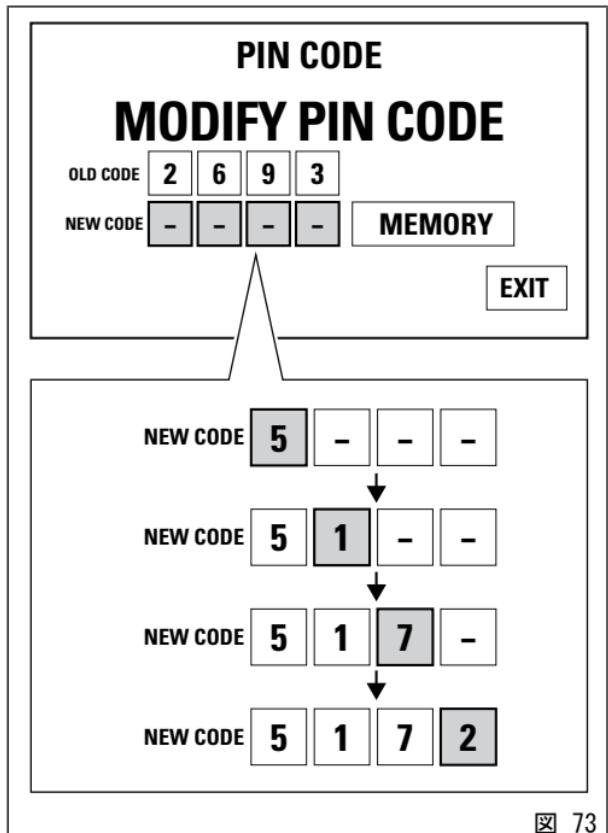


図 73

ボタン（4）を押して最後の桁を決定すると、“MEMORY”の文字が強調表示されます。新しい設定を保存するには、“MEMORY”の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を3秒間押します。

保存が正しく完了すると、“MEMORIZED”の文字が1秒間緑色に強調され、その後“EXIT”的文字が緑色で強調表示されます。

保存に失敗した場合、インストルメントパネルはNEW PINを入力する点線“-----”を強調表示します。もう一度新しいPIN CODEを入力してください。

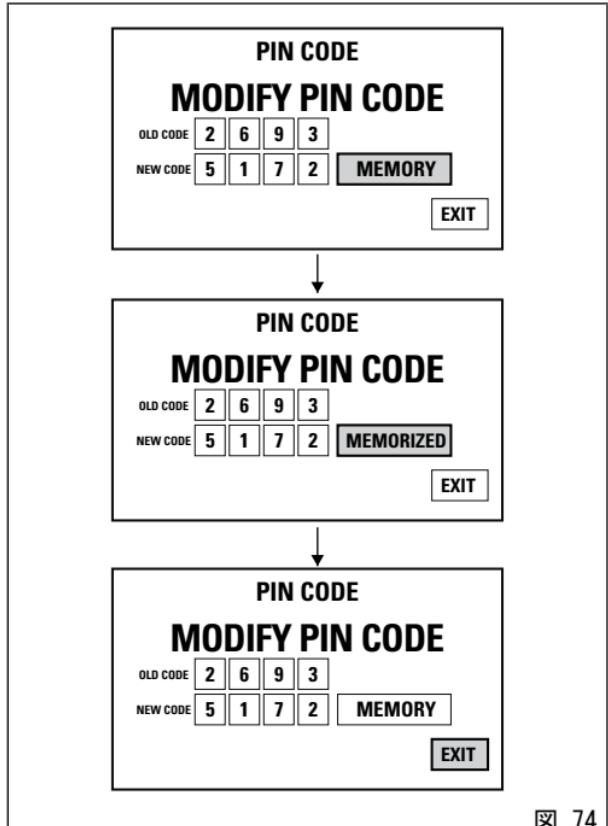


図 74

## エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)

この機能はエンジン回転数 (RPM) をデジタル表示します（より正確な値を得るために、アイドリング中に行なうことが推奨されます）。

設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “RPM” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“RPM” メニューに入ります。ディスプレイにエンジン回転数情報が 50 rpm 単位の数字で表示されます。インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 “-----” が表示されます。これは値が表示できないことを示しています。

メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

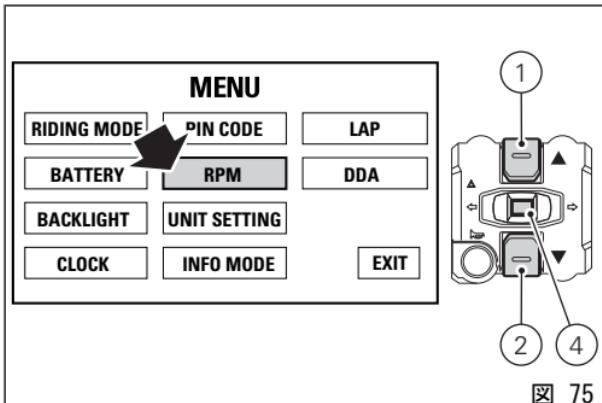


図 75

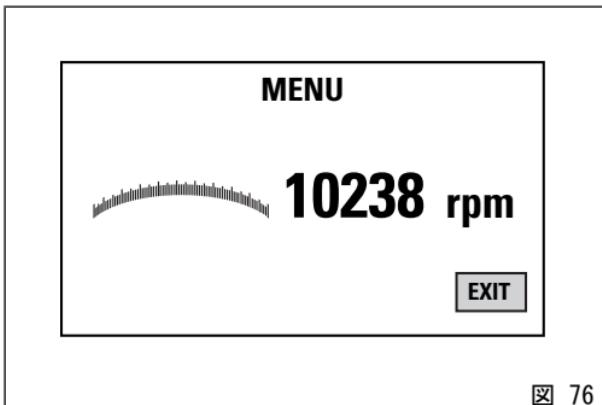


図 76

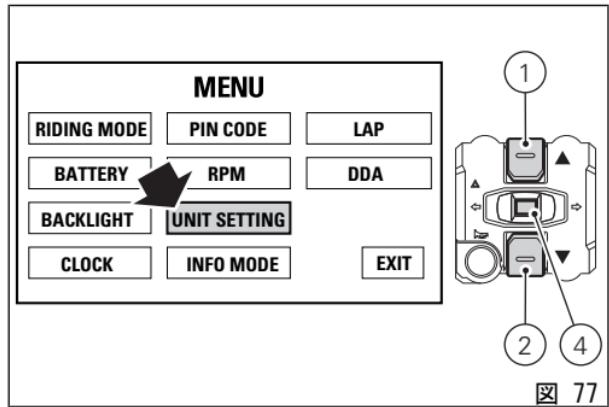
## 単位の設定

この機能では、使用する国に関わらず、表示される単位を変更することができます。

手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “UNIT SETTING” を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“UNITS SETTING” メニューに入ります。



この機能に入ると、左側に単位の設定が可能な項目の一覧が表示されます。

- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMPERATURE)
- 燃費 (CONSUMPTION)
- 自動設定回復 (DEFAULT)

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

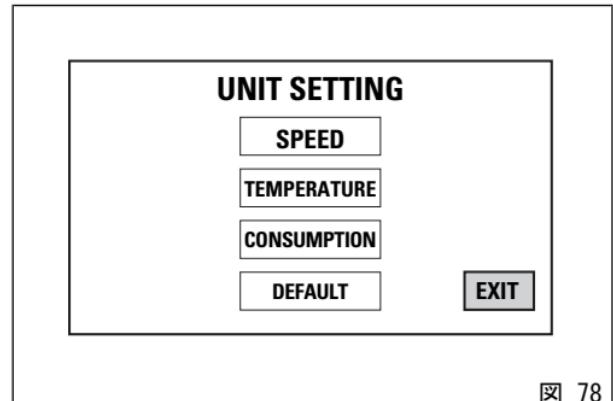


図 78

## 単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます（走行距離の単位も同時に変更します）。

前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。

ボタン（1）または（2）を押して “SPEED” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。“SPEED” メニューに入ります。

機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト km/h, mph が表示されます。

ボタン（1）および（2）を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押して決定します。選択した単位は保存され、“EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

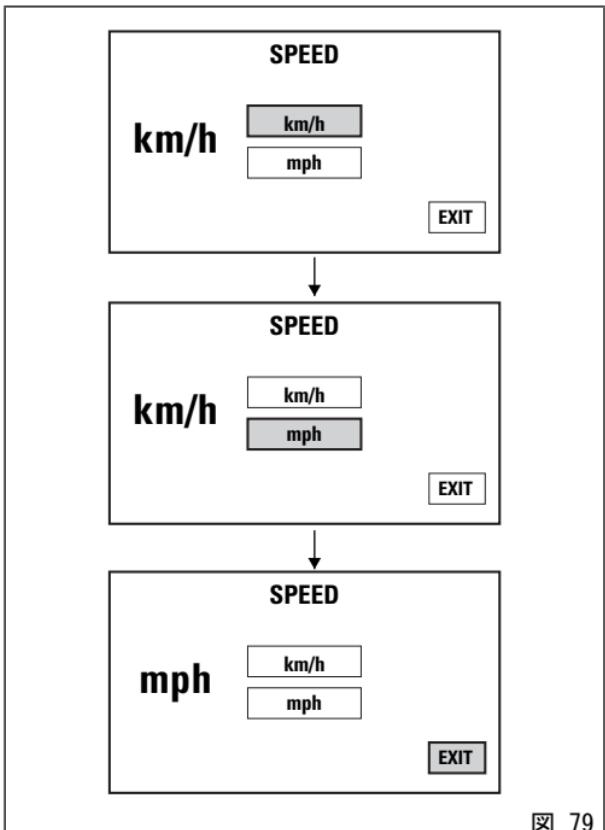


図 79

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード、平均スピード (km/h または mph)
- オドメーター、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL (km または mi)

## 単位の設定温度

この機能では温度の単位を変更することができます。前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューへ入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “TEMPERATURE” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“TEMPERATURE” メニューに入ります。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト °C、°F が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。選択した単位は記録され、“EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

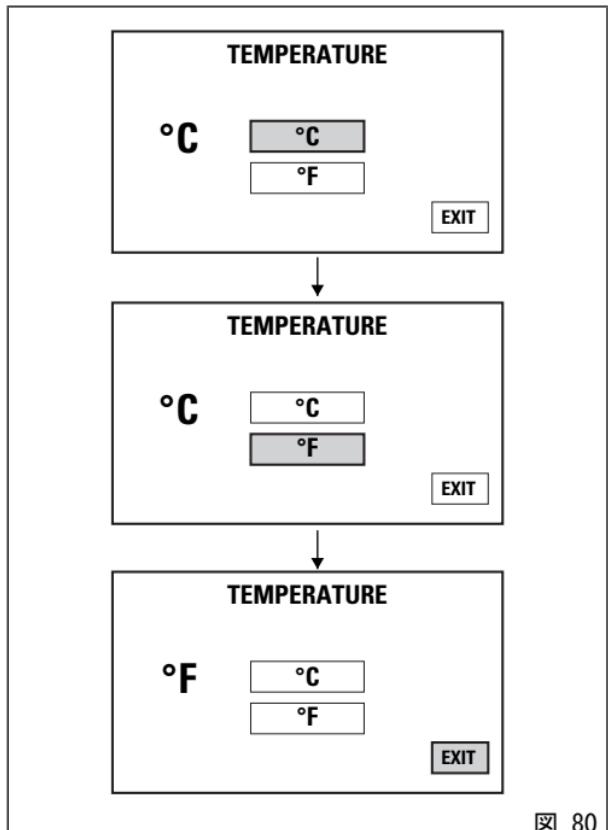


図 80

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- エンジンクーラント温度および外気温

## 単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して “CONSUMPTION” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“CONSUMPTION” メニューに入ります。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト L / 100km、km / L、mpg (UK)、mpg (USA) が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。

希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。選択した単位は保存され、“EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

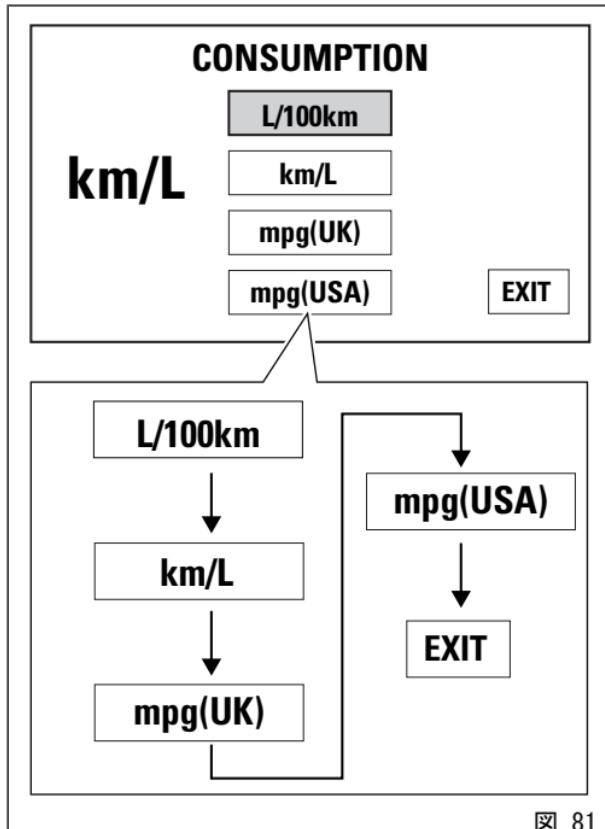


図 81

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 瞬間燃費および平均燃費

## 単位の設定自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。

前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “DEFAULT” を選択します。

機能が強調表示されたら (D)、メニュー決定ボタン (4) を 3 秒間押します。ディスプレイに “PLEASE WAIT...” の文字が 3 秒間、その後 “DEFAULT OK” が 2 秒間表示されます。最後に “UNITS SETTING” メニューページに移り、“EXIT” の文字が強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

単位表

	オドメーター (TOT) トリップメーター1 (TRIP1) トリップメーター2 (TRIP2) 燃料リザーブトリップ メーター (TRIP FUEL)	スピード 平均スピード	エンジン温度 (T_ENGINE) 外気温 (T_AIR)	瞬間燃費 平均燃費
ヨーロッパ	km	km/h	° C	l/100km
UK	mi (マイル)	mph	° C	mpg UK
USA	mi (マイル)	mph	° F	mpg USA
カナダ	km	km/h	° C	l/100km
フランス	km	km/h	° C	l/100km
日本	km	km/h	° C	l/100km
ブラジル	km	km/h	° C	l/100km
台湾	km	km/h	° C	l/100km
中国	km	km/h	° C	l/100km

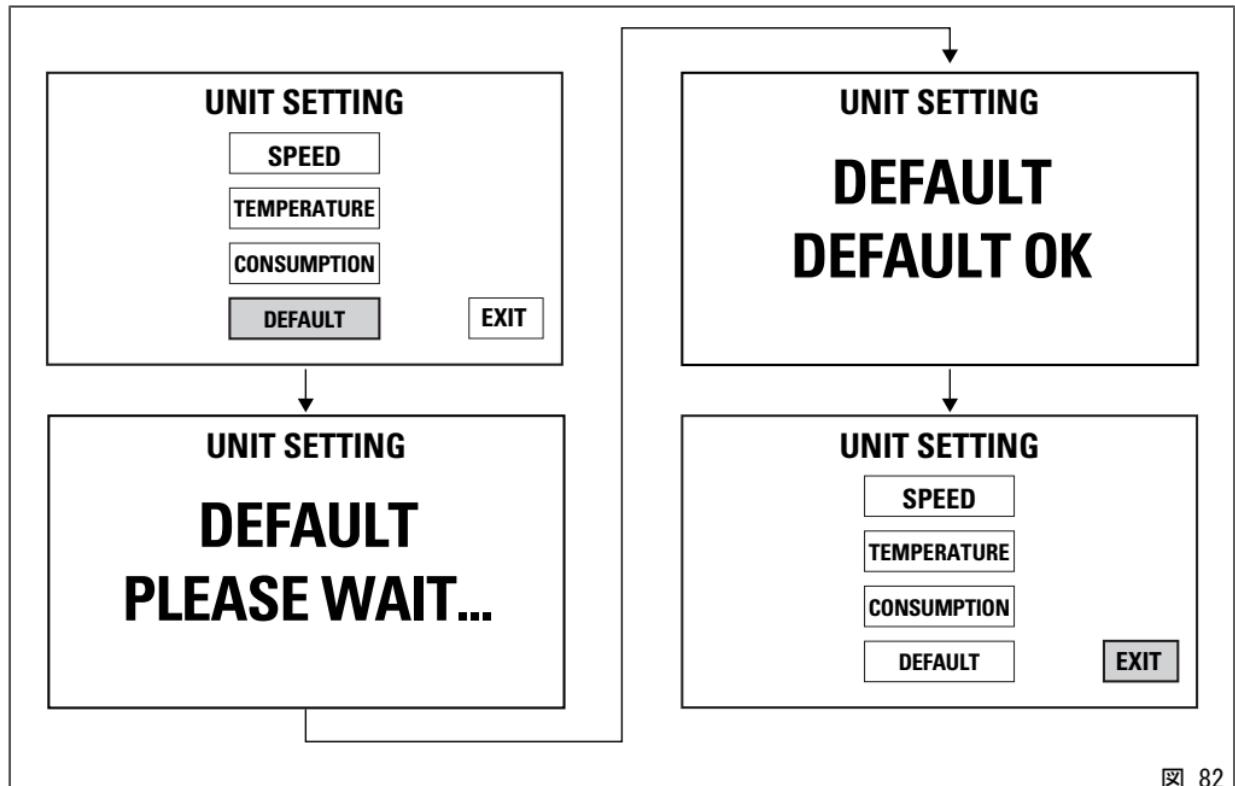


図 82

## 表示モードの設定

表示モードをパーソナライズすることができます。CORE、FULL、TRACK の 3 種類の表示モードがあります。それぞれ一つのライディングモードに連動しており、“デフォルト”モードではライディングモード変更時に表示モードも変更されます。ライディングモード“URBAN”には“CORE”モードが、“TOURING”には“FULL”モード、“SPORT”には“TRACK”モードが連動します。しかし、選択したライディングモードを変更してもインストルメントパネルが同じモードを使用するよう特定のモードを選択することができます。

希望のモードを選択するには、設定メニューに入ります。

ボタン（1）または（2）を押して“INFO MODE”を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

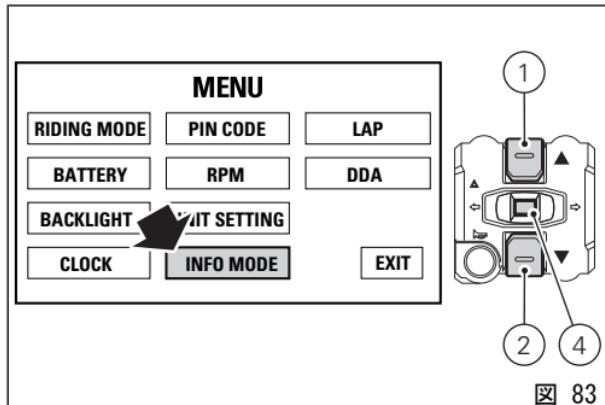


図 83

“INFO MODE” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望の表示モード (CORE、FULL、TRACK) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択内容が保存され、現在の表示モードが更新されます。自動的に “EXIT” ボタンが強調表示されます。ボタン (4) を押すと前の表示に戻ります。

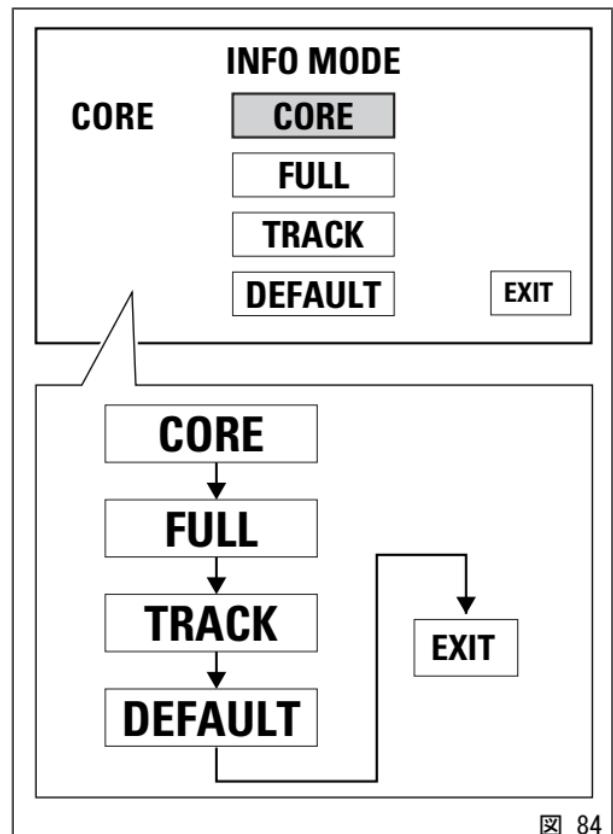


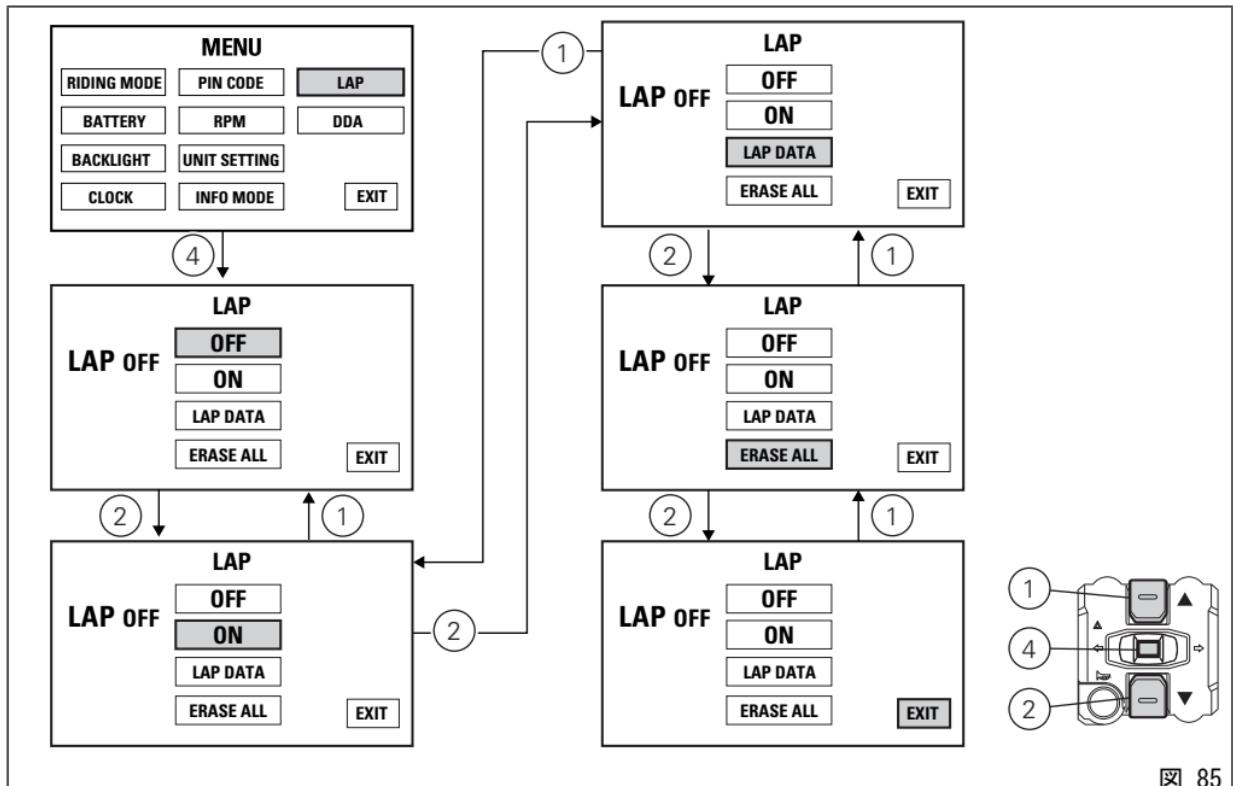
図 84

## LAP

LAP 機能メニューに入るには、設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “LAP” を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。“LAP” メニューに入ります。

メニューでは以下の操作が可能です。

- “OFF” ボタンでの LAP 機能の OFF
- “ON” ボタンでの LAP 機能の ON
- “LAP DATA” ボタンですでに記録されている LAP の表示 (“LAP 登録” 機能)
- “ERASE ALL” ボタンで記録済み LAP を削除します。



## 記録済み LAP の表示

記録済み LAP を表示するには、"LAP" メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して "LAP DATA" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

機能に入ると以下の内容が表示されます。

- "LAP" の文字の後、LAP 数（例 : LAP 01）
- 記録済みラップタイムの後、"TIME" の文字
- ラップ中に記録された最高速度の後、"SPEEDMAX" の文字
- ラップ中に記録された RPM 値の後、"RPMMAX" の文字

ボタン (1) および (2) を押すと記録済み LAP を一つずつ強調させることができます。ボタン (2) を押すと次のラップが表示され (LAP 01 ... LAP 02 ... LAP 03 .... LAP 30 のようにラップを昇順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。ボタン (1) を押すと前のラップが表示され (LAP 30 ... LAP 29 ... LAP 28 .... LAP 01 のようにラップを降順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。



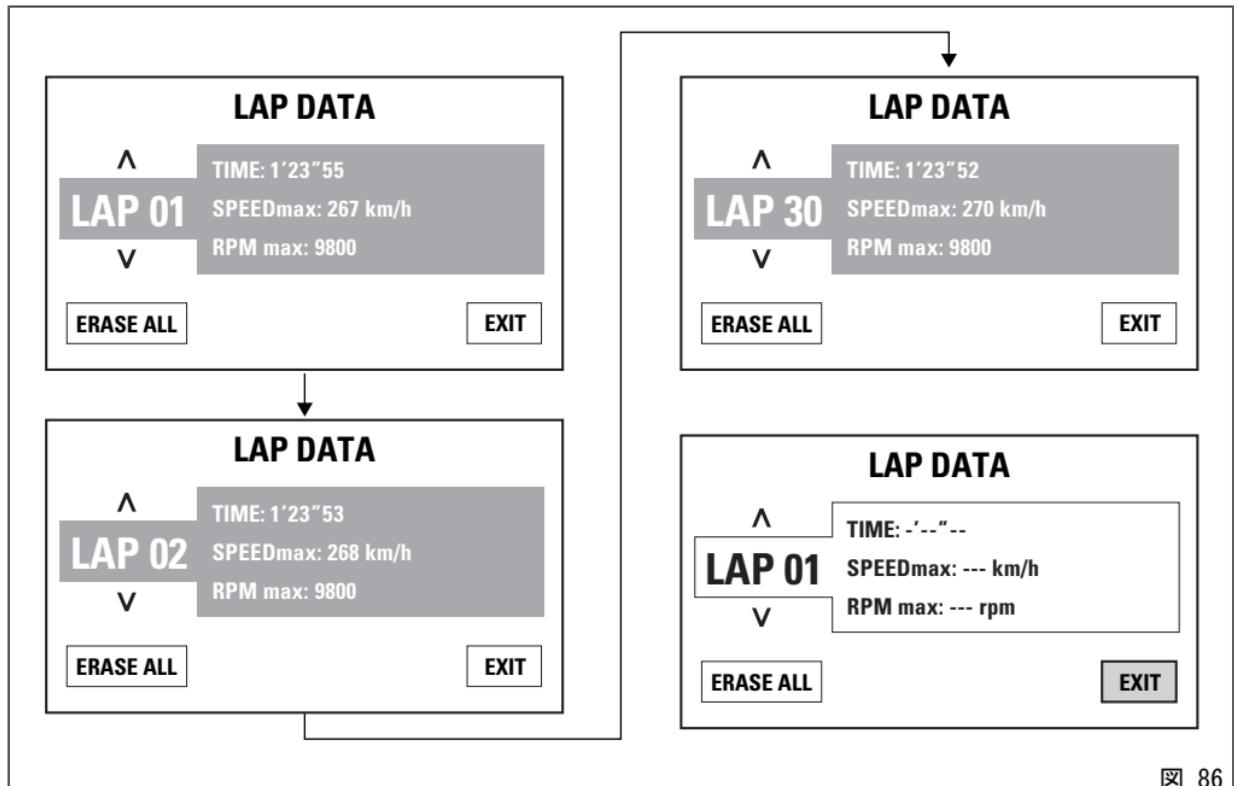
### 参考

記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。



### 参考

メモリーにデータが記録されていない場合、ストップウォッチ "-.---."、最大回転数 MAX = -----、最高スピード MAX = ----- が表示されます。



## 記録済み LAP の削除

記録済み LAP を削除するには、"LAP" メニューに入ります。

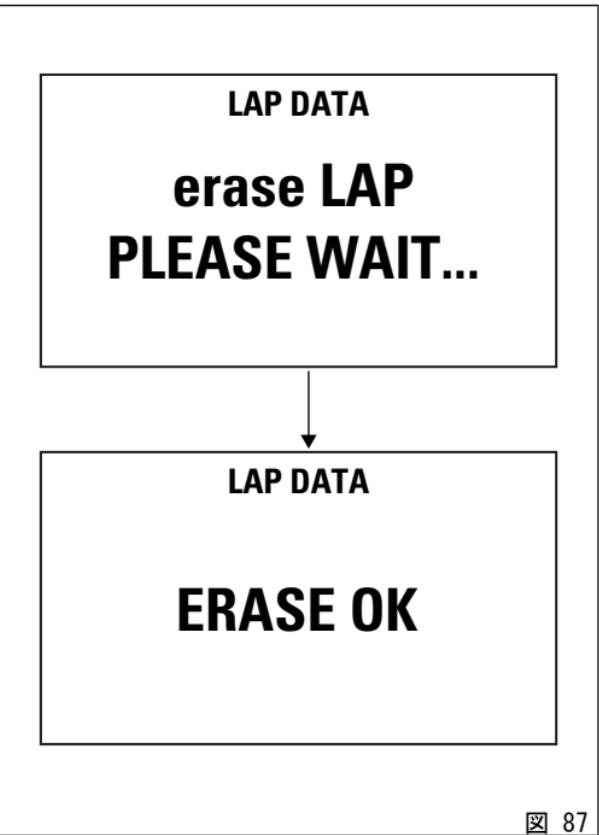
LAP メニューまたは LAP 表示ページ (LAP DATA) に入ることで LAP を削除することができます。

ボタン (1) または (2) を押して "ERASE ALL" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

ボタン (4) を 3 秒間押して削除を決定します。

3 秒後、インストルメントパネルのディスプレイに

- "ERASE LAP PLEASE WAIT..." の文字が 3 秒間表示されます。
- その後、"ERASE OK" の文字が 2 秒間表示され、削除されたことを表します。



メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。

削除終了後、ラップ 01 から 30 のパラメーターはすべて空白表示 “-” されます（ラップタイム = ‘ - - ’ ’ - - 、回転数 = - - - - - 、スピード = - - - ）。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

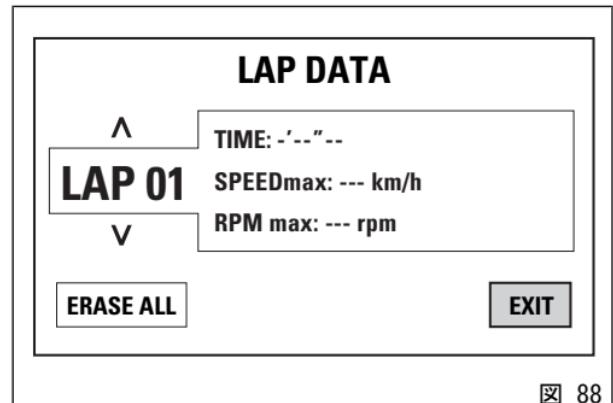


図 88

## DDA

ここでは DDA 装置の起動および解除、メモリー占有率の表示、装置のメモリー削除を行うことができます。

DDA に関するページは車体に装置が搭載されている場合にのみ使用することができます。

設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “DDA” を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“DDA” メニューに入ります。

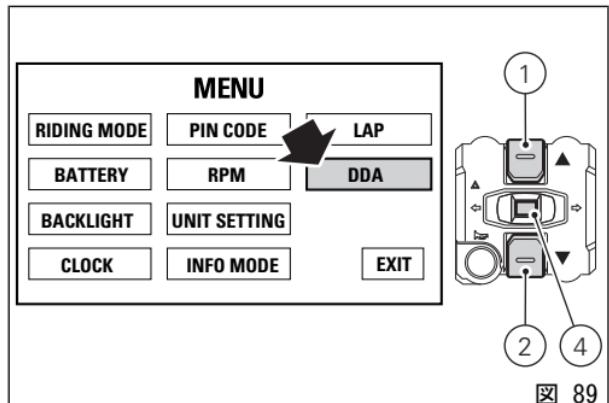


図 89

## DDA の起動/解除

この機能に入ると、左側に現在設定されている DDA のステータス（例：DDA ON）が表示されます。

その下にはステータス ON またはステータス OFF のパーソナライズ可能な内容が表示されます。

ボタン（1）および（2）を押すと希望のステータスを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のステータスを選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押してレベルを決定します。

新しく設定したステータスに更新されます（更新は緑色で表示）。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT”の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

### 参考

Key-OFF する度に DDA システムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

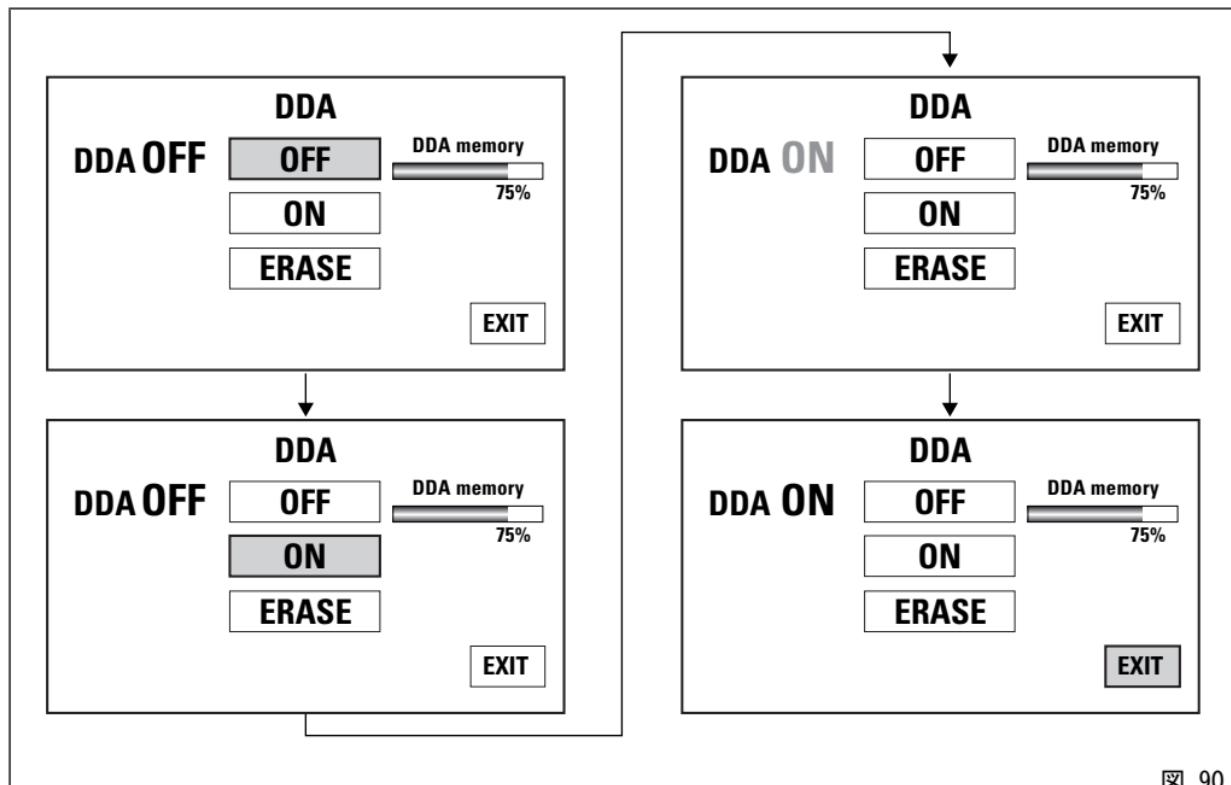


図 90

## DDA メモリーの表示/削除

この機能に入ると、右側に DDA のメモリーの状態がパーセントで表示されます。

- バーに何もなく、“EMPTY” の文字が表示されている場合、DDA のメモリーが空であることを表します。
- バーの一部に色がつき、値がパーセントで表示されている場合、DDA メモリーが表示された割合だけ使用されていることを表します。
- バー全体に色がつき、“FULL” の文字が表示されている場合、DDA のメモリーがいっぱいであることを表します。

DDA が OFF の場合、メモリーを削除することができます。ボタン (1) または (2) を押して “ERASE” を選択します。

メニュー決定ボタン (4) を 3 秒間押して決定します。

3 秒後、完全にデータが消去されるまでインストルメントパネルに “PLEASE WAIT...” の文字が表示されます。削除するデータ量に応じて削除にかかる時間は異なります。

削除が正常に行われると、インストルメントパネルは “ERASE OK” を 2 秒間表示し、ディスプレイのメモリーステータスの表示を更新します。削除に失敗

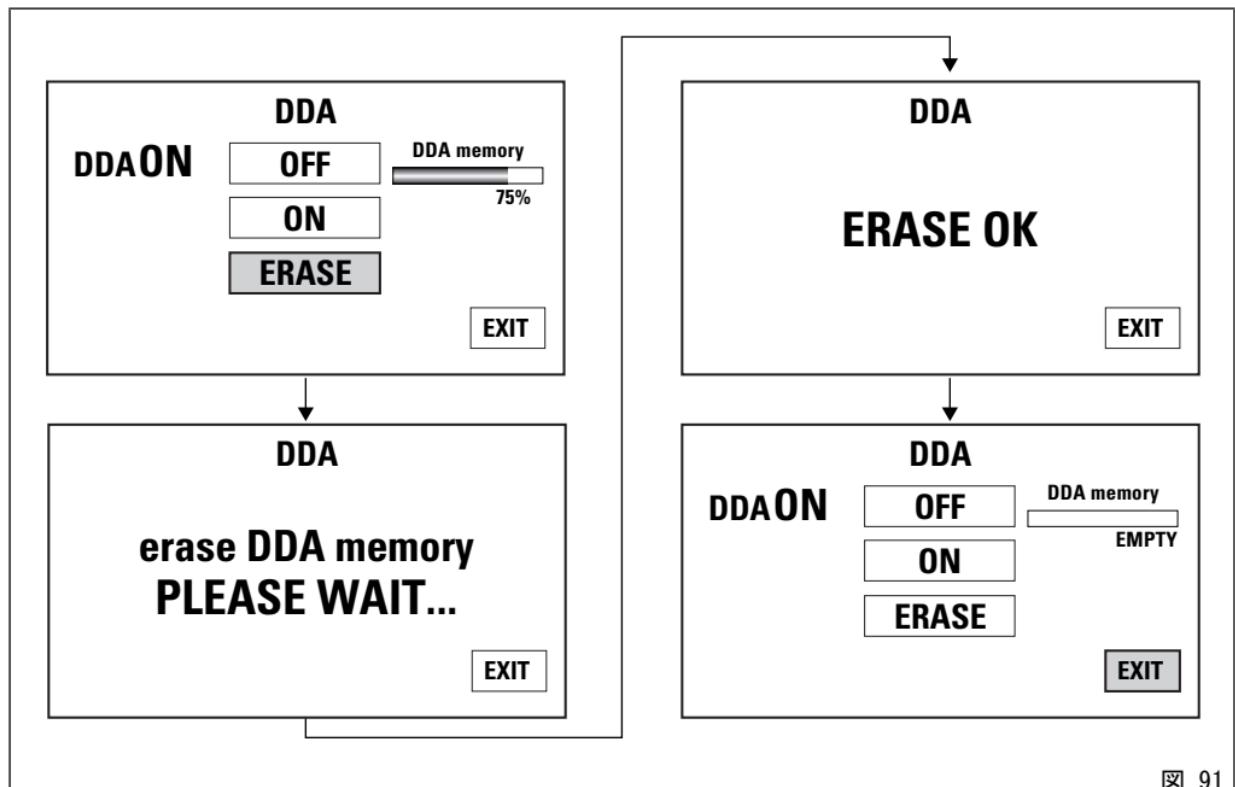
した場合、インストルメントパネルはメモリー占有率の表示に戻ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。



### 警告

DDA 装置が “ON” の状態にある時は、削除機能や ERASE キーの選択はできません。



## ディスプレイ背景の色

インストルメントパネルは外光の強さに応じて自動的にディスプレイの背景の色を調整することができます。BACKLIGHT - AUTO 機能が ON の場合、センサーが“弱い光”(夜)を検出するとインストルメントパネルは黒の背景の表示モード(NIGHT)に変わります。逆に“強い光”(昼)を検出するとインストルメントパネルは白の背景の表示モード(DAY)に変わります。

この機能は設定メニューからパーソナライズが可能です。“BACKLIGHT”機能を選択し、“BACKLIGHT”メニューに入ります。

- NIGHT または DAY モードのどちらかを常時設定するか、あるいは
- 自動表示モード AUTO に設定します。

“ディスプレイ背景の設定 (“ページ 119 の章を参照してください”)。

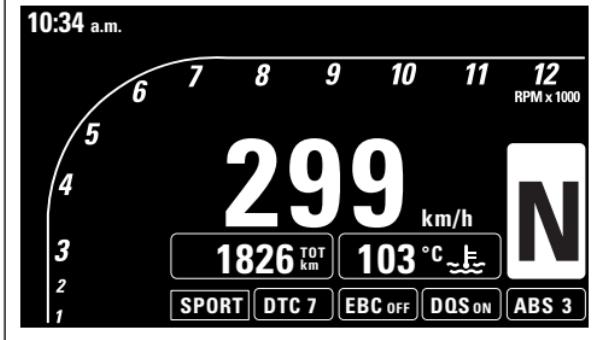
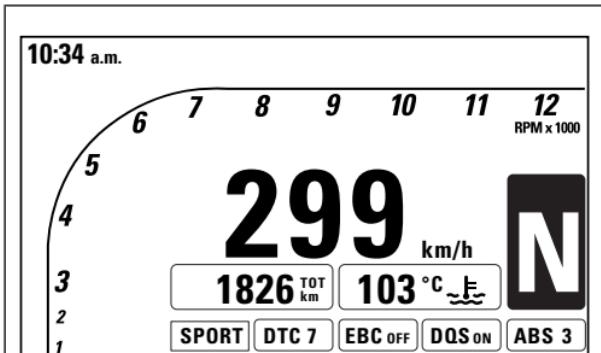


図 92



## 参考

供給電源が 16 V を超えている場合はバックライトは OFF になり、8 V 未満の場合はバックライトが消えます。

## ランプコントロール ロービーム/ハイビームランプ

ヘッドライトの点灯および消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。

Key-ON 時、ロービームおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままで、パーキングランプのみが点灯します。

エンジンを始動するとロービームランプが起動します。エンジンが起動している状態でランプの標準機能が回復します。ボタン (1) のポジション (A) でロービームとハイビームの切り替えを行います。ボタン (1) のポジション (B) でフラッシュします。

Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (1) をポジション (A) に押すことでロービーム/ハイビームランプを起動することができます。ボタンを 1 回押すとまずロービームランプが起動し、その後 1 回押すごとにロービームランプとハイビームランプが交互に切り替わります。

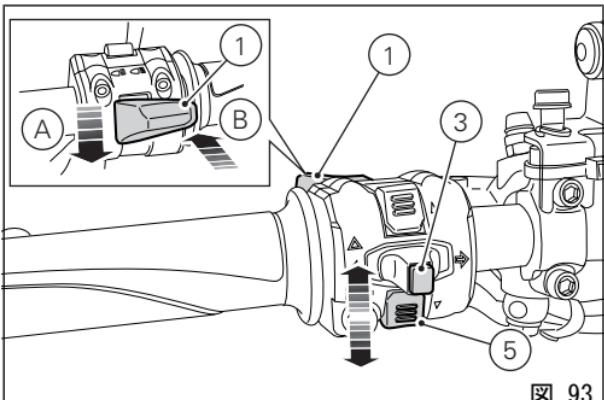


図 93

最初にボタンを押してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ロービームおよびハイビームランプは再び停止します (OFF)。

エンジン始動前に（上記の方法で）ロービームまたはハイビームランプを点灯させた場合、エンジンを始動する際ヘッドライトが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再び点灯します。

## ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。

2つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後、左側スイッチにあるボタン（3、図 94）で解除することができます。

ターンインジケーターコマンドの手動解除が行われなかった場合、起動してから 500 m (0.3 マイル) 走行すると、インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは 80 km/h (50 mph) 以下でのみ行なわれます。

自動解除の走行距離カウントがスタートしてから速度が 80 km/h (50 mph) を上回った場合、カウントは中断されます。その後、前述の速度を下回るとカウントが再開されます。

## ハザード機能（ターンインジケーターすべて点滅）

“ハザード”機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン (3) をポジション (6) に 3 秒間押すと、“ハザード”機能が起動します。車両が起動している場合にのみ、この機能を起動することができます（エンジンの起動/停止状態に関係なく、キーが “ON” の位置にある時）。“ハザード”機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの警告灯 (7) が同時に点滅します。車両が起動している場合（キーが “ON” の位置にある時）は、ボタン (3) をポジション (6) に押すか、あるいはボタン (3) をセンター位置に押すと “ハザード” 機能を解除することができます。車両が停止している場合（キーが “OFF” の位置にある時）は、ボタン (3) をポジション (6) に押して解除します。

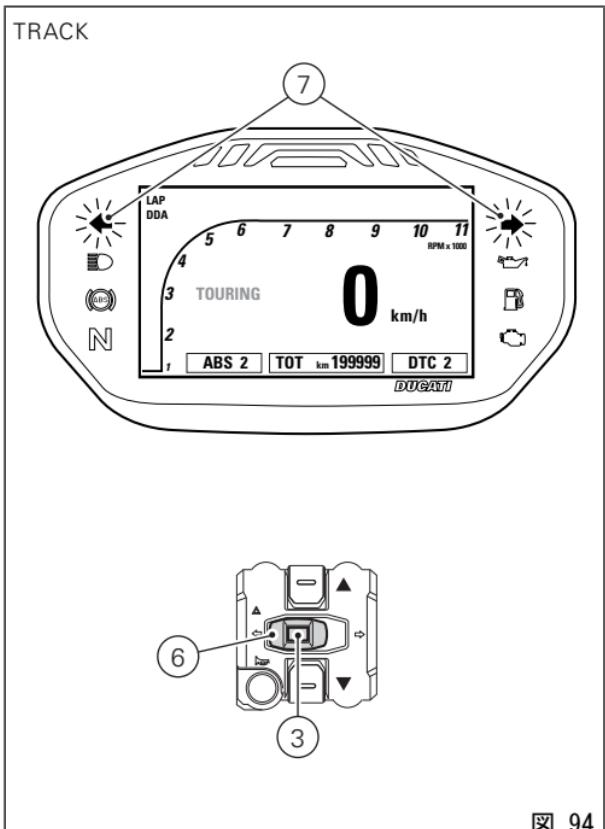


図 94

“ハザード”機能を起動している状態で車両を停止（キーが“OFF”の位置）すると、ユーザーが手動で解除するまで、あるいはバッテリー電圧が 12.2 V 以上の間は作動したままになります。バッテリー電圧が 12.2 V より低下するとバッテリー充電状態を維持するためにターンインジケーターは自動的に消灯します。

### 参考

“ハザード”機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます（ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります）。

### 参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

### 参考

“ハザード”機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、“ハザード”機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

## イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム（イモビライザー）が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる“パスワード”から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

## キー

車両には 2 個のキーが付属しています。  
キーには “イモビライザーシステムの暗号” が含まれています。  
キー (B) を通常に使用する際は、以下の操作に必要があります。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除



**警告**  
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

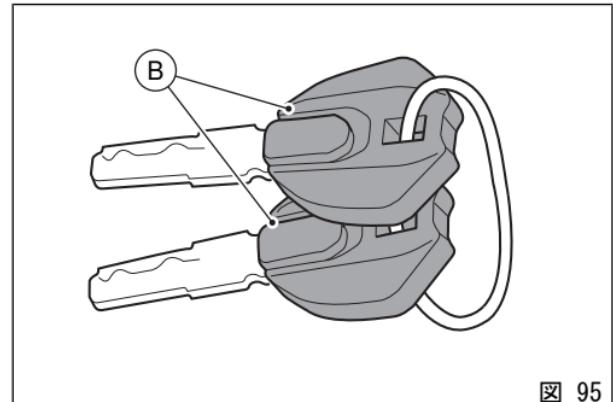


図 95

## 作業

キースイッチを ON から OFF に回す度にプロテクションシステムのエンジンブロックが起動します。それでもなおエンジンを始動できない場合には、Ducati アシスタンスネットワークにお問い合わせください。



### 警告

強い衝撃を受けるとキー内部の電子部品が破損するおそれがあります。作業中は常に同じキーを使用してください。異なるキーを使用した場合、挿入したキーの暗号をシステムが識別できない場合があります。

## キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

### 参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

## PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が有効でない場合、インストルメントパネルはブロック解除コード入力ページを表示せずスタンダードスクリーンを表示し、E-Lock エラーでキー読み取り/識別エラーがあることをユーザーに知らせます。また設定メニューに入ることができなくなります。

次の KEY-OFF まで E-Lock エラーが表示されたままになります。

PIN CODE 機能が起動している場合、インストルメントパネルはブロック解除のコード入力ページを表示し、“INSERT PIN CODE” の文字とその下に緑色で強調表示された 4 本の点線 “ - - - - ” が表示されます。

コードの入力：

- 1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 行のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり (+ 1) 、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン A (1) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり (-1) 、その後 "0" に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 行すべての数字を決定します。

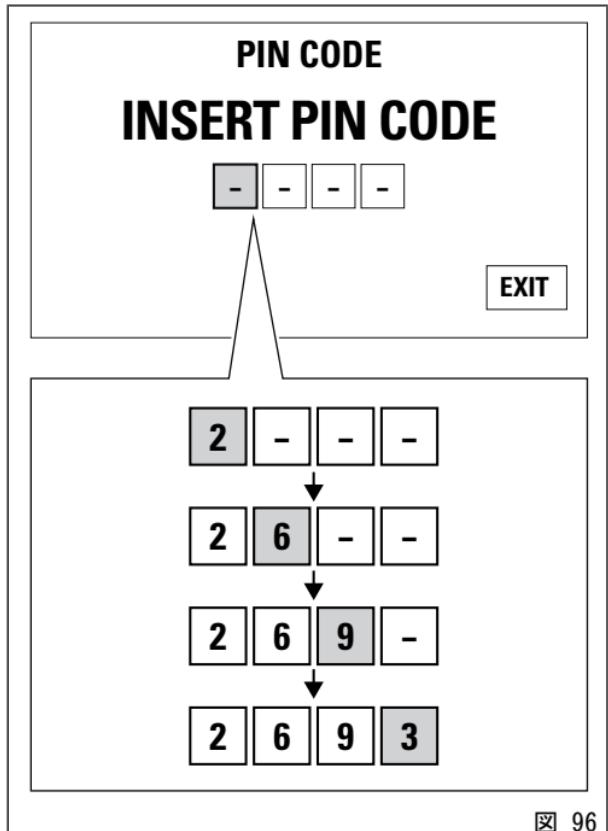


図 96

ボタン (4) を押して 4 衝すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは “WRONG” を 3 秒間表示し、その後再び点線 “-----” を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力可能時間は 2 分間に設定しています。入力可能時間が過ぎるとスタンダードスクリーンに戻り、E-Lock エラーを起動します。設定メニューへアクセスできなくなります。
- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合、インストルメントパネルに “ERROR” の文字が 3 秒間表示され、その後 “WRONG” が表示される場合と同じになります。
- PIN CODE が正しい場合、インストルメントパネルは “CORRECT” を 3 秒間表示します。その後スタンダードスクリーンに移りますが、E-Lock エラーを起動してキーの読み取り/識別に問題があることをユーザーに通知します。

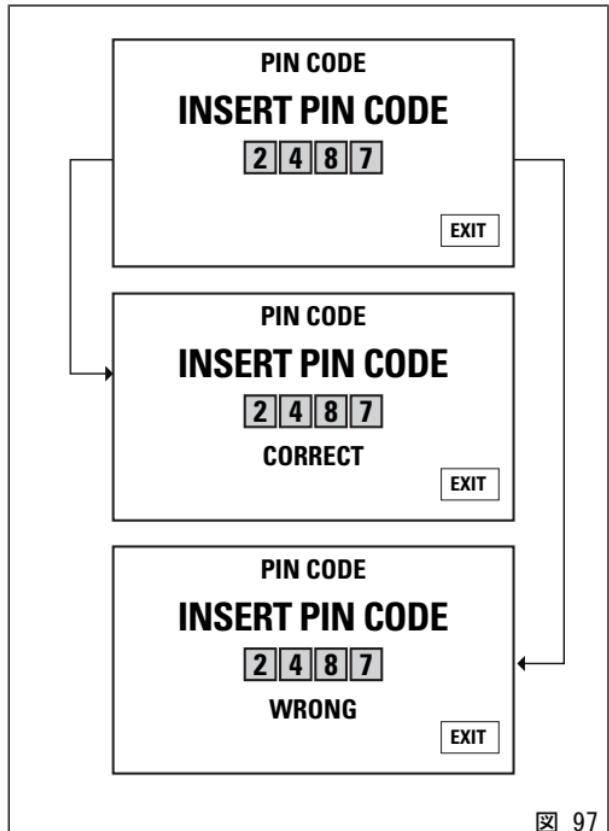


図 97



## 重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

# 運転時に必要なコマンド

## コマンド類の配置



### 警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) 右側スイッチ
- 6) スロットルグリップ
- 7) フロントブレーキレバー
- 8) ギアチェンジペダル
- 9) リアブレーキペダル

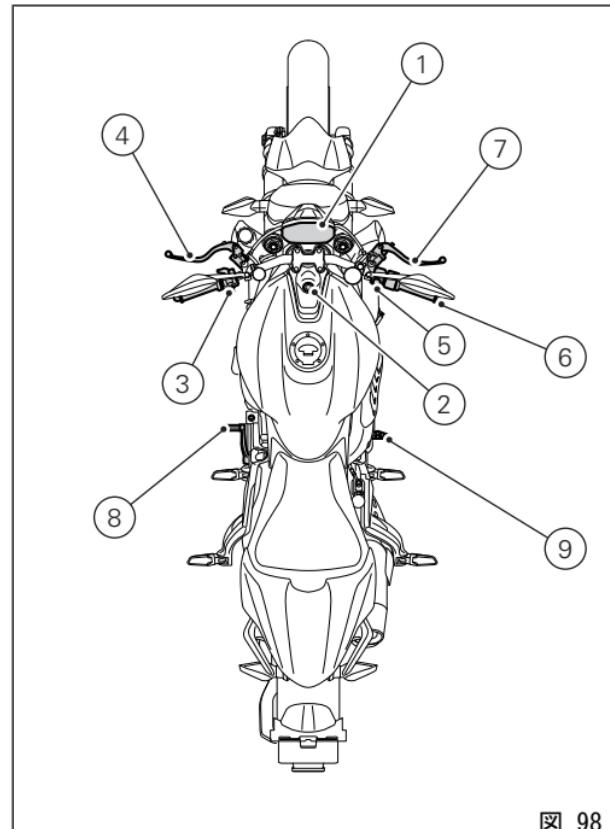


図 98

## イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4つのポジションがあります。

- A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
- B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
- C) LOCK : ステアリングロック状態
- D) P : パーキングランプおよびステアリングロック



キーを上記の (C) および (D) の位置に合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

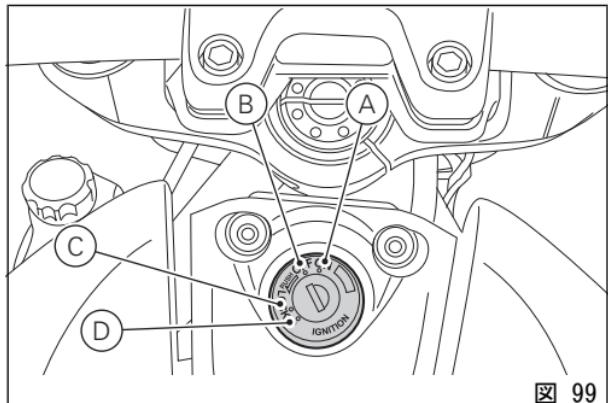


図 99

## 左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション：  
ポジション  = ロービームランプ点灯 (A)  
ポジション  = ハイビームランプ点灯 (B)  
ポジション  = ハイビームランプ (FLASH)  
およびインストルメントパネルコマンド (C)
- 2) ボタン  = 3 ポジション、ターンインジケーター ボタン：  
中央 = OFF  
ポジション  = 左折  
ポジション  = 右折  
ターンインジケーターを解除するには、中央に戻ってからコントロールレバーを押します。
- 3) ボタン  = 警告ホーン
- 4) ポジション “▲” のインストルメントパネルのボタン
- 5) ポジション “▼” のインストルメントパネルのコマンドボタン

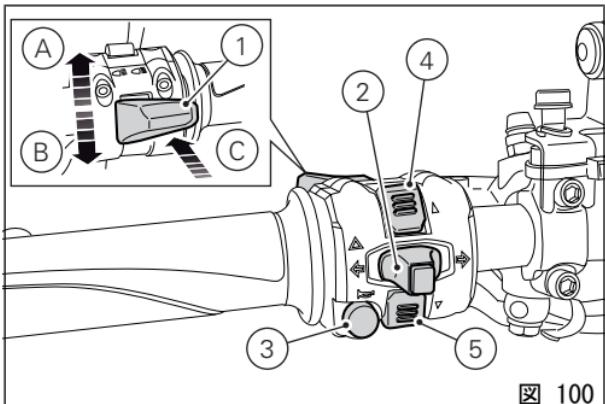


図 100

## クラッチコントロールレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。レバーにはアジャスター (2) がついており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。

レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスマッisionおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



### 警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。



### 重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッisionの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

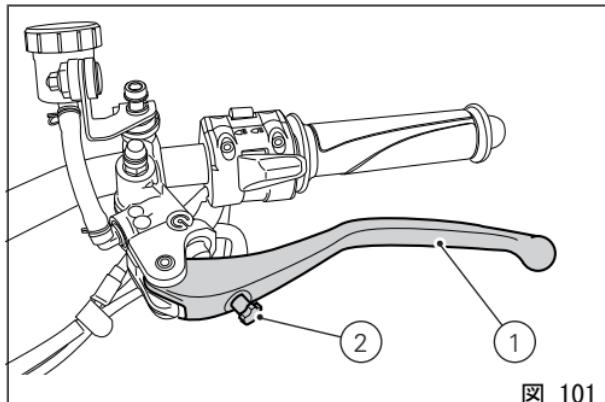


図 101



### 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていないければなりません）。

## 右側スイッチ

- 1) 赤スイッチ ON/OFF
- 2) 黒ボタン エンジン始動

スイッチ (1) には 3 つのポジションがあります。

A) 中央 : RUN OFF このポジションでのエンジン起動は不可、すべてのエレクトロニックデバイスは停止します。

B) 下に押した場合 : ON/OFF このポジションでシステムの起動 (KEY-ON) と停止 (KEY-OFF) が可能です。

C) 上に押した場合 : RUN ON このポジションでのみ、黒ボタン (2) を押しながらエンジンの起動が可能です。

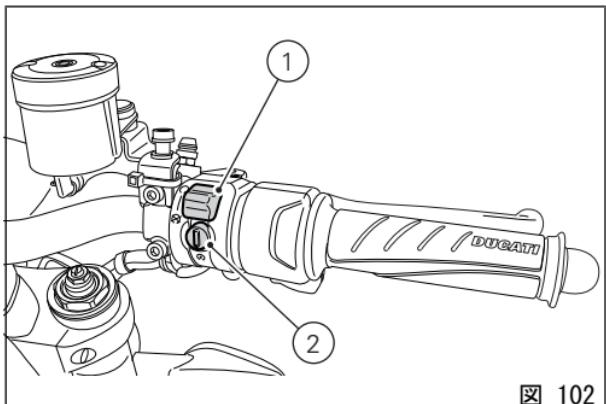


図 102

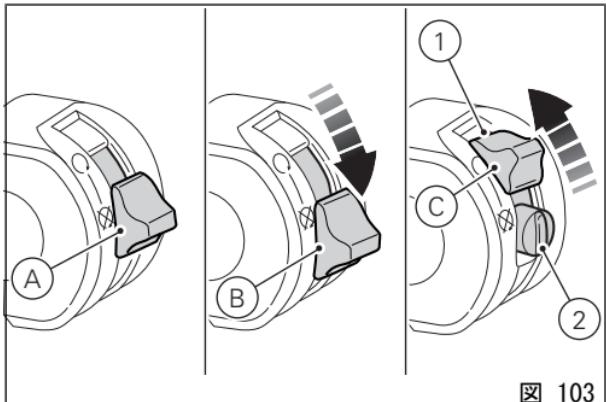


図 103

## スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ（1）は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置（アイドリング状態）に戻ります。

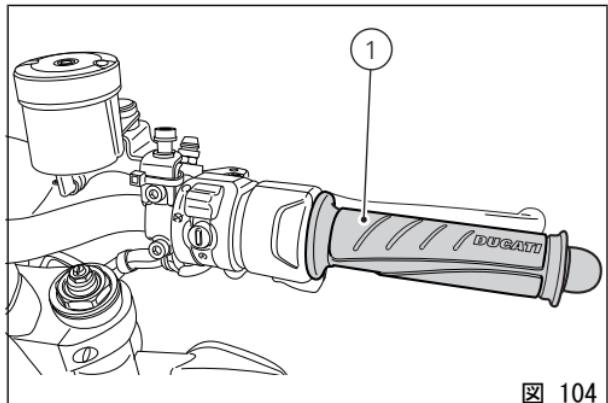


図 104

## フロントブレーキレバー

レバー（1）をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバーにはアジャスター（2）が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。レバーの間隔はアジャスター（2）の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。



警告

これらのコマンドを使用する前に“車両の起動および走行”に記載されている内容をお読みください。



警告

フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

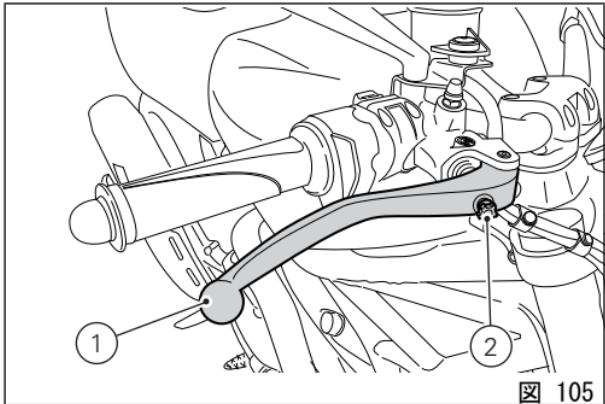


図 105

## リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル（1）を足で下に押してください。

制御システムは油圧式です。

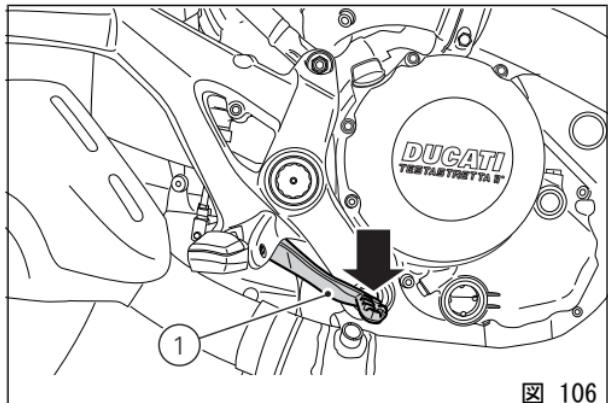


図 106

## ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルには 2 つの動作があり、中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3 、 4 、 5 、 6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

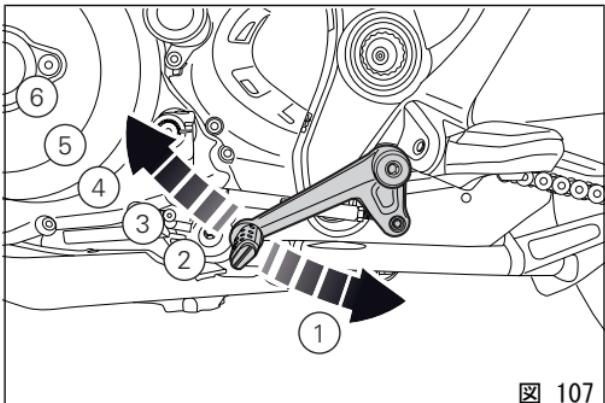


図 107

## ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

### ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

ギアチェンジペダルの位置を調整するには以下のようないくつ操作します。ロッド（1）を固定し、ロックナット（2）および（3）を緩めます。



ナット（2）は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド（1）の六角部分を回します。ロッドに両ロックナットを締め付けます。

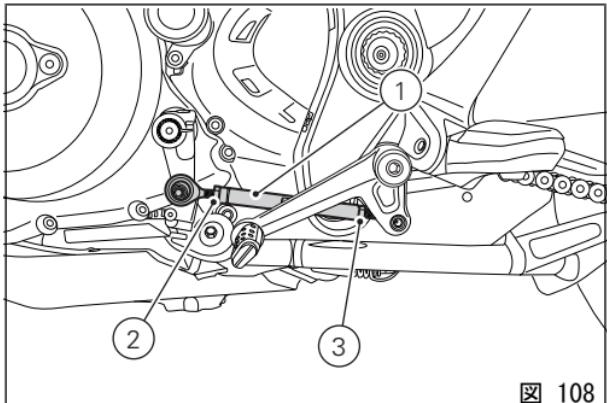


図 108

## リアブレーキペダル

リアブレーキペダルの位置を調整するには、ロックナット（4）を緩め、ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー（5）を回します。ロックナット（4）を締め付けます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5~2 mm の遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。

マスターシリンダーのロッドのロックナット（6）を緩めます。

フォーク（7）のロッドをねじ込んで遊びを増加させるか、緩めて遊びを減少させます。

ロックナット（6）を締め付け、再度遊びを点検します。

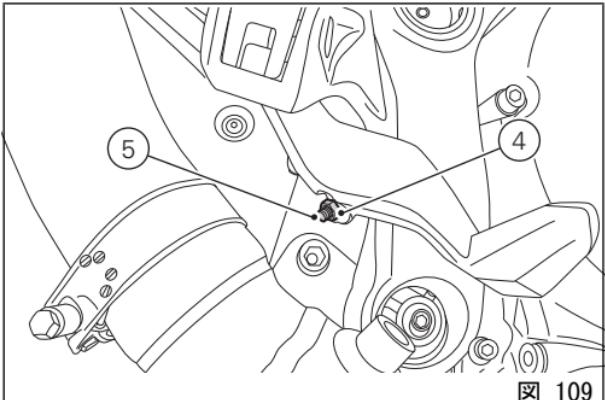


図 109

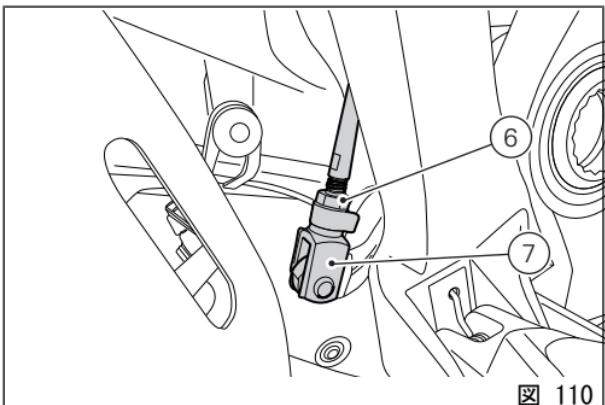


図 110

# 主要構成部品 / 装備

## 車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) ヘルメットホルダーケーブル用ピン
- 4) サイドスタンド
- 5) リアビューミラー
- 6) フロントフォークアジャスター
- 7) リアショックアブソーバーアジャスター
- 8) 触媒コンバーター
- 9) エキゾーストサイレンサー

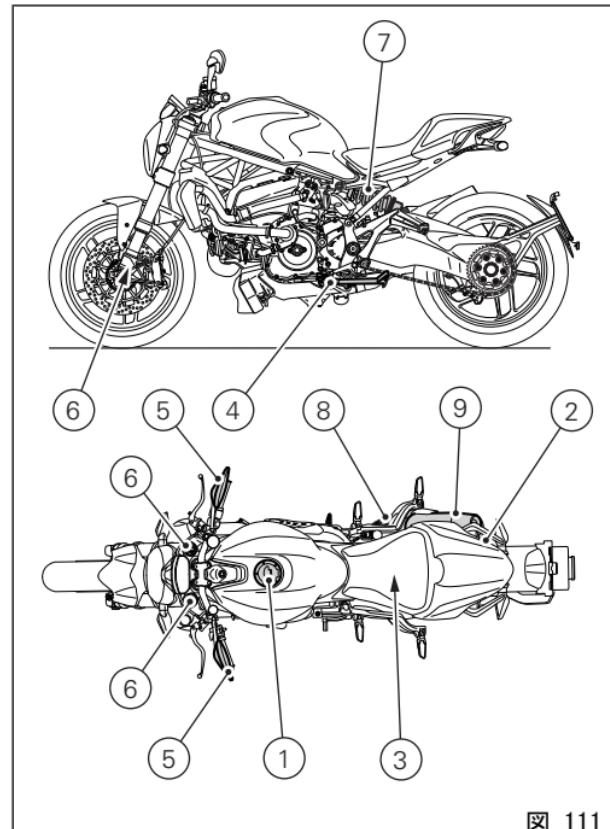


図 111

## 燃料フィラープラグ 開け方

保護カバー（1）を持ち上げ、キーをロックに挿入します。キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。

### 閉じ方

キーを挿入してキャップを閉じ、所定の位置でキャップを押します。キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。ロック保護カバー（1）を閉じます。



キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。



燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

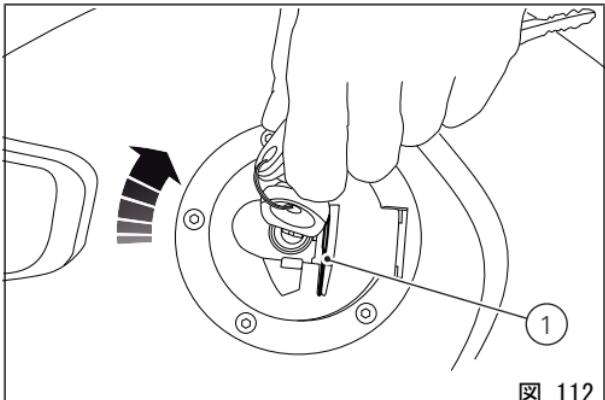


図 112

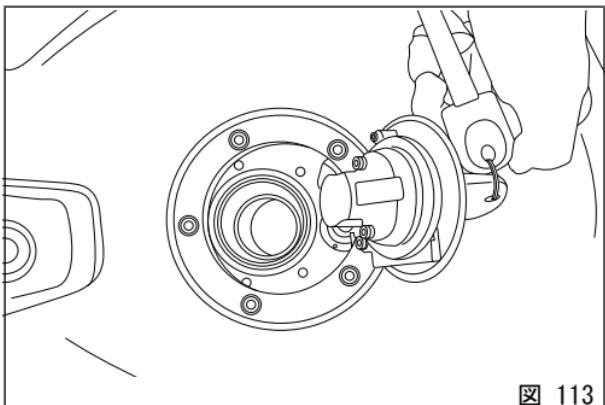


図 113

## シートロック 開け方

ロック（1）にキーを差し込み、時計回りに回します。同時にラッチ付近を下に押し、ピンを外しやすくなります。シート（2）を後ろに引っ張りながらフロントリテナーから抜き取ります。

## 閉じ方

すべての部品が正しく配置され、シート下ボックス（2）に固定されていることを確認します。シート底部の前部先端をリアサブフレームに固定されたマウントのピン（A）および（B）に挿入します。シートの後部を持ち上げ、中央部の固定部品の上部を押して挿入します。シート後部先端をロックのラッチがカチッとはまるまで押します。シートがしっかりとフレームに固定されていることを確認し、ロックからキーを取り外します。

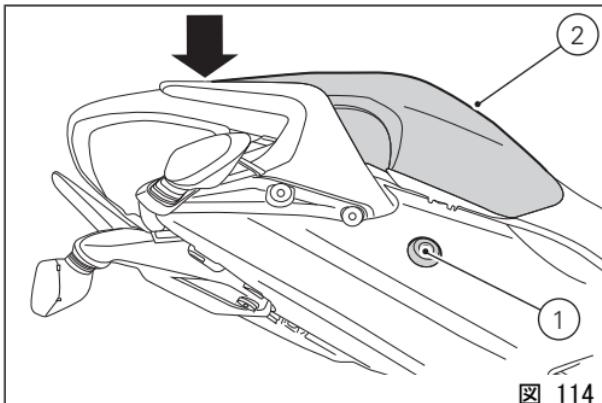


図 114

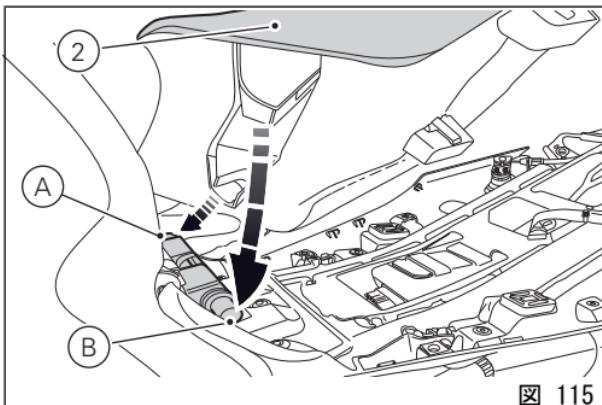


図 115

## シート高の調整

本モーターサイクルはハイポジションシートを標準装備します。シートを下げることで高さの調整が可能です。

シートを下げるには、シート（1）を対応するシートカバーと一緒に取り外します。

4 本のスクリュー（2）を緩め、シート下の 2 つのカバー（3）を取り外します。

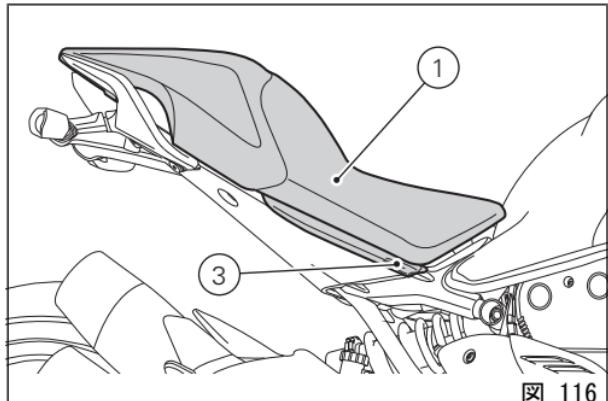


図 116

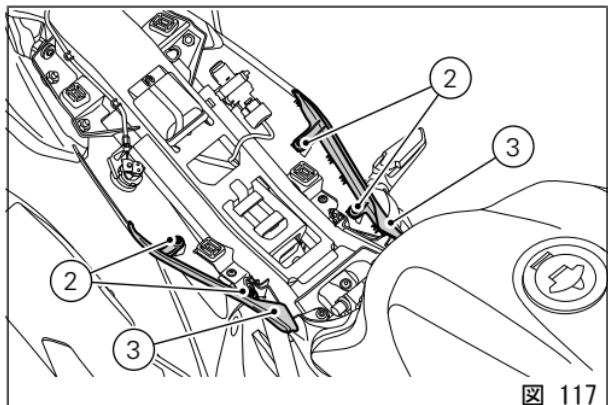


図 117

シート（1）下に取り付けられている 4 個のパッド（4）を取り外します。  
ゴムと一緒に留め金（5）を下部取り付け位置に配置します。

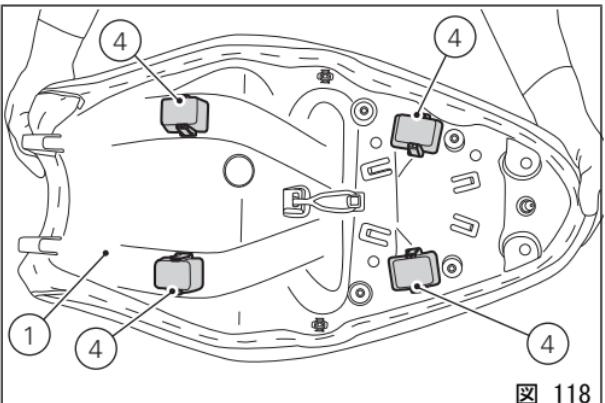


図 118

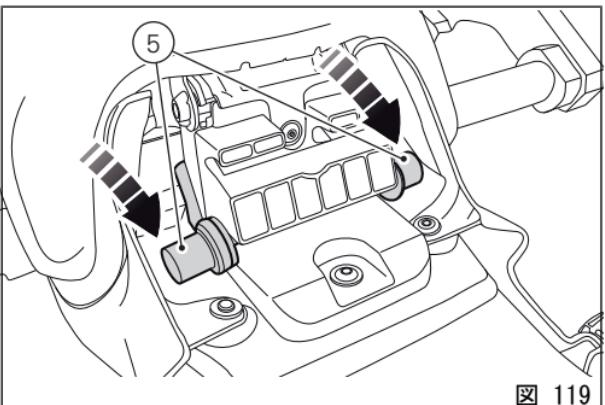
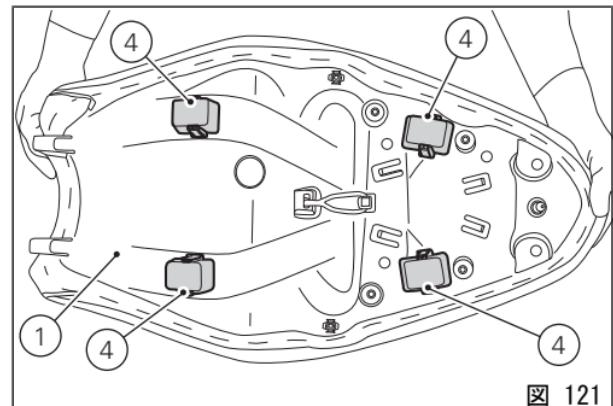
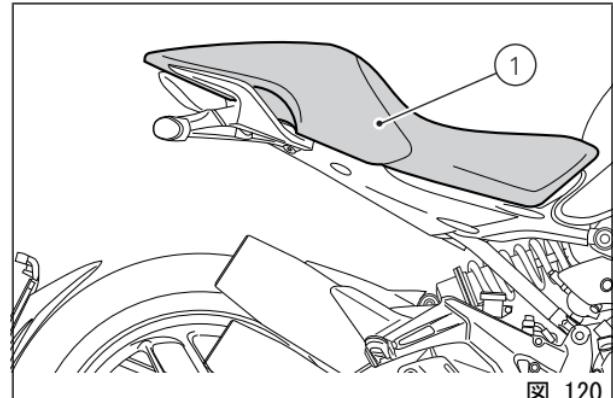


図 119

シートを対応するシートカバーと一緒に車両に配置します。この時点でシートの位置が下がりました。

シートを上げるには、シート(1)を対応するシートカバーと一緒に取り外します。

シート(1)の下に4個のパッド(4)をそれぞれに対応する取り付け位置に配置します。



クリップ（6）が取り付けられていることを確認します。

カバー（3）のつめ（L）をシート下のカバーの取り付け位置に正しく挿入し、2個のカバー（3）をシート下に取り付けます。

4本の固定スクリュー（2）を締め付けます。

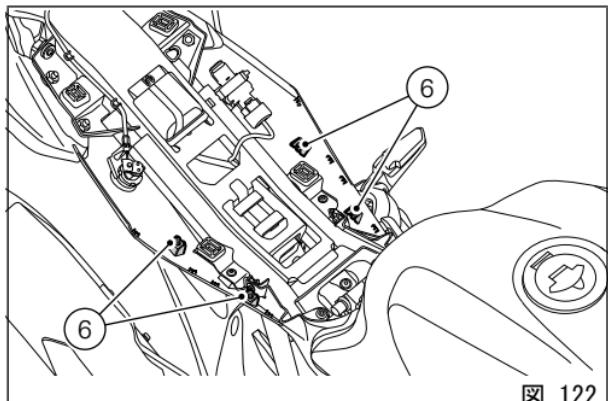


図 122

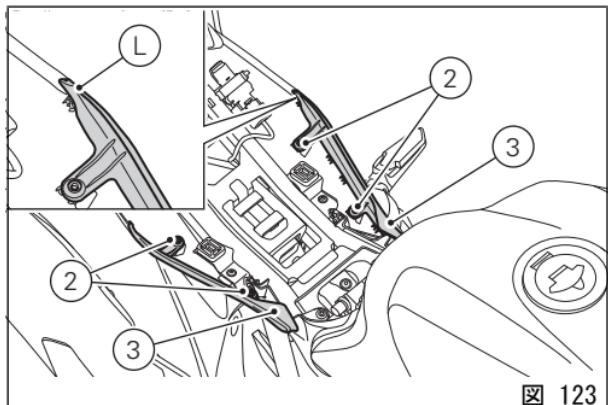


図 123

ゴムと一緒に留め金（5）を上部取り付け位置に配置します。

シートを対応するシートカバーと一緒に車両に取り付けます。

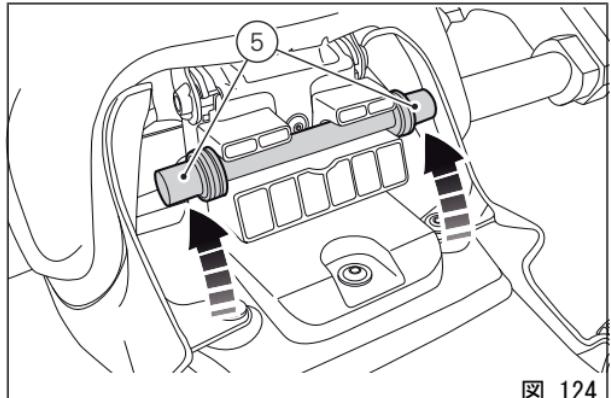


図 124

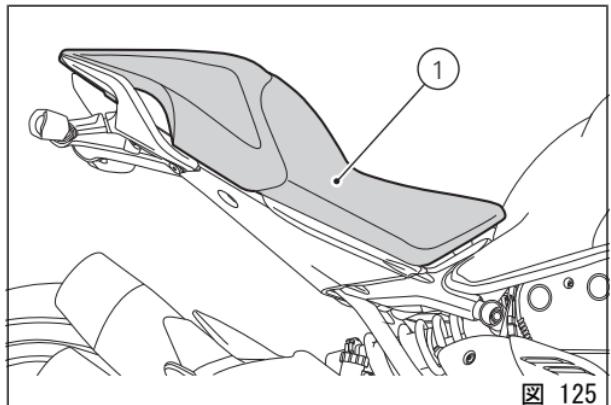


図 125

## ヘルメットホルダースタンド

ヘルメットホルダークーブル（1）はツールボックス内にあります。“付属アクセサリー”を参照してくださいページ 215。ヘルメットにケーブルを通し、ピン（2）にケーブルの先端を挿入します。

ヘルメットを吊るした状態でシートを取り付け、固定します。



### 警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

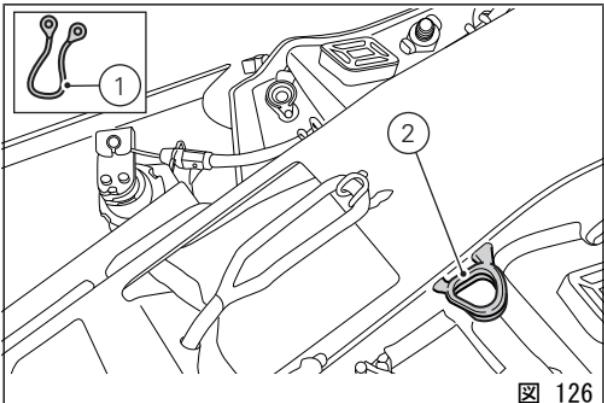


図 126

## サイドスタンド



### 警告

サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなつたアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながらスタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。



### 警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

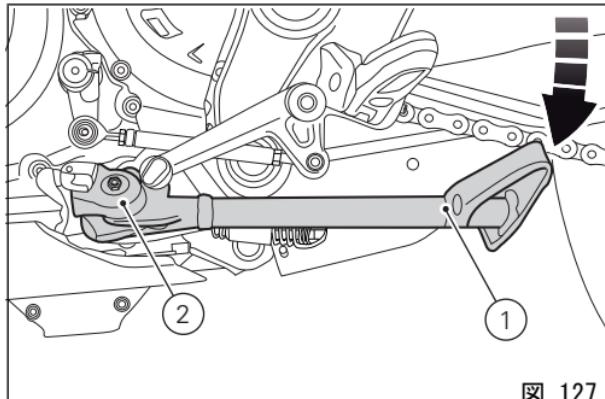


図 127

サイドスタンドを停止位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。



### 参考

定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。



## 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていないければなりません）。

## フロントフォーク調整アジャスター

車両のフォークは、リバウンドダンピング（リターン）、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピングは右レッグのみ調整可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

- 1) リバウンドダンピングの変更
- 2) スプリングプリロードの変更
- 3) コンプレッションダンピングの変更。

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。マイナスドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター（1）を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。マイナスドライバーで右フォークボトムにあるアジャスター（3）を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。各レッグのスプリングプリロードを調整するには、六角形のアジャスター（2）を 14 mm の六角レンチで回転させます。

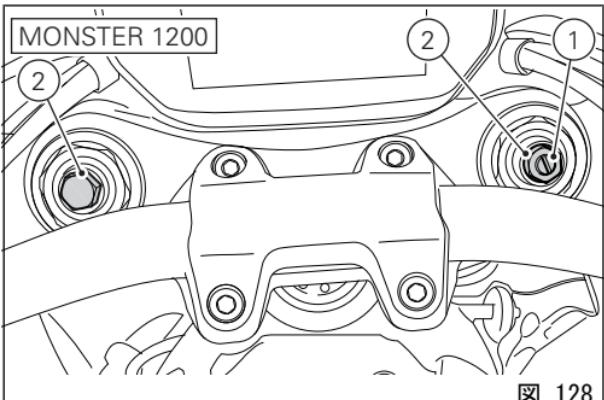


図 128

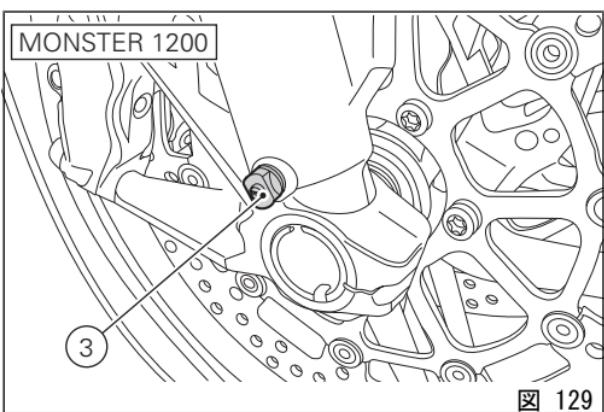


図 129

アジャスター (1) および (3) を回すとカチッと音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。アジャスターをいっぱいに締め込むと “0” 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが “1”、“2”、… の位置に相当します。

標準設定は以下の通りです。

- コンプレッション : 11 クリック (すべて閉じた位置から)
- リバウンド : 7 クリック (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード : 5 回転 (すべて緩めた状態から)。



### 警告

スプリングプリロードアジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

## フロントフォーク調整アジャスター

車両のフォークは、リバウンドダンピング（リターン）、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

- 1) リバウンドダンピングの変更
- 2) スプリングプリロードの変更
- 3) コンプレッションダンピングの変更

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。所定のドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター（1）を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。ドライバーで左フォークレッグの先端にあるアジャスター（3）を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター（1）および（3）を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの1クリックに相当します。

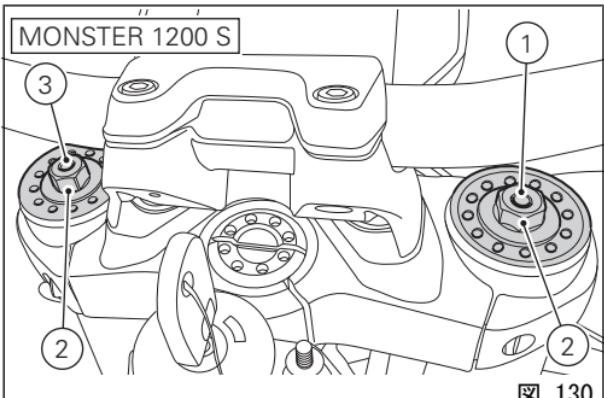


図 130

アジャスターをいっぱいに締め込むと“0”位置になり、ダンピングが最強にセットされます。

この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが“1”、“2”、…の位置に相当します。

標準設定は以下の通りです。

- コンプレッション：12 クリック（すべて閉じた位置から）
- リバウンド：10 クリック（すべて閉じた位置から）
- スプリングプリロード：10 回転（すべて緩めた状態から）。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、  
アジャスター (2, 図 130) を 17 mm の六角レンチ  
で反時計回りに完全に回し、すべて緩めた位置に合  
わせます。この位置からアジャスターを時計回りに  
回し、プリロードを調整します。1 回転がスプリン  
グプリロード 1 mm に相当します。



アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整  
してください。

## リアショックアブソーバー調整アジャスター

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。エンジンにショックアブソーバーの上部を固定している位置の左側にあるアジャスター（1）は、リバウンドダンピング（リターン）を調整します。

アジャスター（1）を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

ショックアブソーバー下部のリングナット（2）、（3）はスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナット（3）を緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナット（2）はプリロードを増大させたり減少させたりします。

希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナット（3）を締め付けます。

すべて閉じた位置からの標準設定（時計回り）：

- リバウンド：アジャスター（1）を 1.5 回転緩めます（すべて閉じた位置から）
- スプリングプリロード：15 mm（すべて緩めた状態から）。

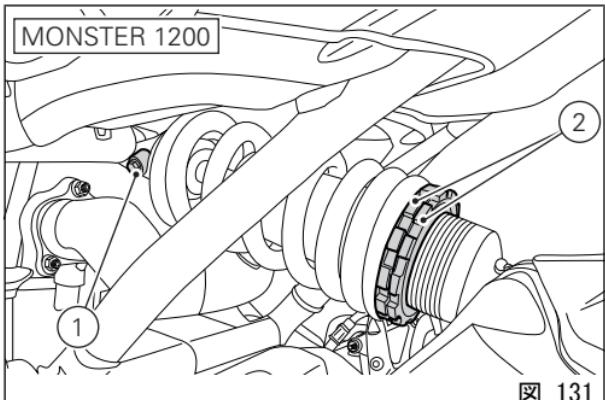


図 131



### 警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。



### 警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

## リアショックアブソーバー調整アジャスター

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。リザーバータンクに設けられているアジャスター(1)は、コンプレッションダンピングを調整します。

エンジンにショックアブソーバー上部を固定する位置に設けられているアジャスター(3)は、リバウンドダンピング(リターン)を調整します。

つまみ(1)を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

つまみ(3)を反時計回りに回すとダンピングが強くなり、時計回りに回すと弱くなります。

ショックアブソーバー下部の2個のリングナット(2)はスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナットを緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナットはプリロードを増大させたり減少させたりします。

希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナットを締め付けます。

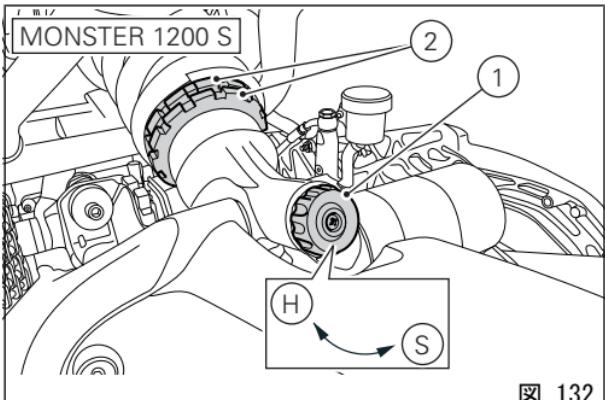


図 132

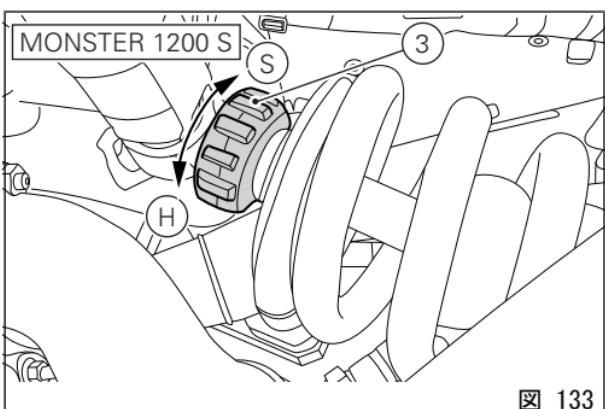


図 133

すべて閉じた位置からの標準設定 :

- リバウンド : アジャスター (3) を 14 クリック 緩めます (すべて閉じた位置から)
- コンプレッション : アジャスター (1) を 10 ク リック緩めます (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード : 12 mm (取り付けた状態 でのスプリングの長さ = 158 mm)

### 警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

### 警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

## サスペンション設定の選択

表に記載されている値は、ライダーの衣類込みの体重を 80~90 kg、パッセンジャーの衣類込みの体重を 70~80 kg と想定した場合の値です。

Monster 1200 - フロントフォーク					
パラメーター	範囲	標準	Sport (スポー ツ)	コンフォート	ライダー + パッ センジャー
コンプレッション	0 ~ 16 クリック	11 クリック	3 クリック	14 クリック	11 クリック
リバウンド	0 ~ 16 クリック	7 クリック	5 クリック	12 クリック	5 クリック
スプリングプリロ ード	0 ~ 10 回転	5 回転	5 回転	5 回転	8 回転

Monster 1200 - リアショックアブソーバー					
パラメーター	範囲	標準	Sport (spo rt)	コンフォート	ライダー + パッセンジャー
コンプレッション	-	-	-	-	-
リバウンド	0 ~ 3 回転	1.5 回転	1 回転	3 回転	1.5 回転
スプリングプリロ ード	10 ~ 20 mm	15 mm	15 mm	15 mm	19 mm

### Monster 1200 S - フロントフォーク

パラメーター	範囲	標準	Sport (スポー ツ)	コンフォート	ライダー + パッ センジャー
コンプレッション	0 ~ 25 クリック	12 クリック	4 クリック	22 クリック	10 クリック
リバウンド	0 ~ 25 クリック	10 クリック	4 クリック	10 クリック	6 クリック
スプリングプリロ ード	0 ~ 15 回転	10 回転	10 回転	4 回転	13 回転

### Monster 1200 S - リアショックアブソーバー

パラメーター	範囲	標準	Sport (spo rt)	コンフォート	ライダー + パッ センジャー
コンプレッション	0 ~ 21 クリック	10 クリック	4 クリック	20 クリック	5 クリック
リバウンド	0 ~ 39 クリック	14 クリック	11 クリック	16 クリック	14 クリック
スプリングプリロ ード	4 ~ 16mm	12 mm	12 mm	12 mm	15 mm

# 運転のしかた

## 慣らし運転の方法

### 慣らし運転時の最高速度

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数：

- 1) 1,000 kmまで
- 2) 1,000~2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、  
5,500~6,000 rpm を決して超えないようにしてください。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。

すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1,000~2,500 kmまで

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpm を決して超えないようにしてください。

## !**重要**

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

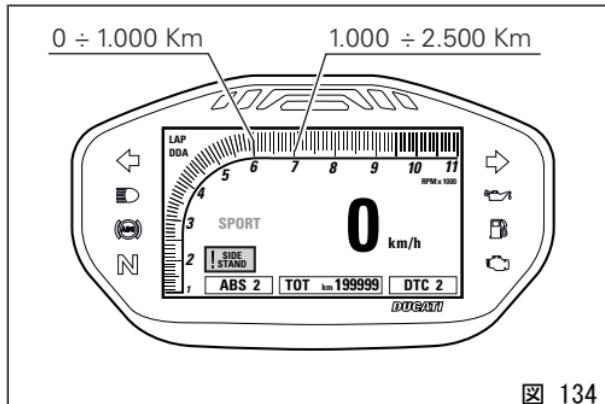


図 134

## 走行前の点検事項



### 警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与える、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量  
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (ページ 213)。
- エンジンオイル量  
クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください (ページ 246)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量  
各リザーバータンクのフルードレベルを確認します (ページ 217)。
- クーラント量  
リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください (ページ 216)。
- タイヤコンディション  
空気圧と摩耗度を点検します (ページ 243)。

### コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

### ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (ページ 240)。

### ロック類

フィラープラグ (ページ 183) およびシート (ページ 184) のロックを確認します。

### スタンド

サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (ページ 191)。

## ABS ランプ

KEY-ON 後、走行速度が 5 km/h を越えると ABS ランプ (9、図 3) が点灯したままになります。ランプは ABS システムが正常に作動していることを確認すると消灯します。



## 警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

## ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

### ! 警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

### ! 警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

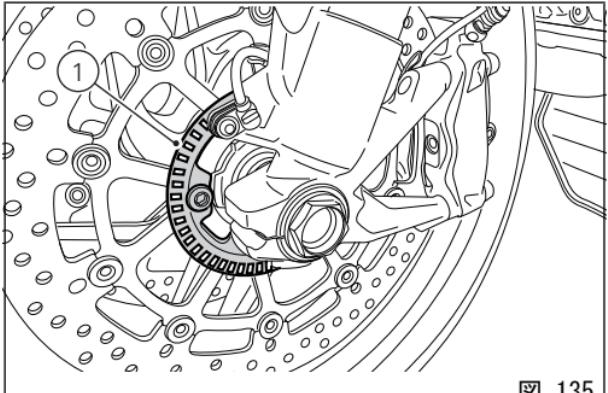


図 135

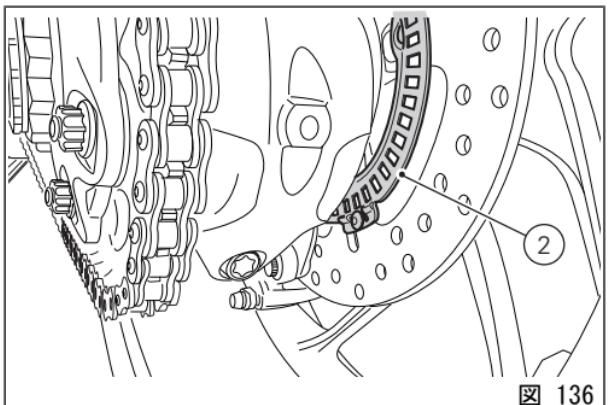


図 136

## エンジンの始動



### 警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



### 警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを（1、図 137）の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N と赤のランプ  が点灯していることを確認してください。



### 重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。



### 警告

サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

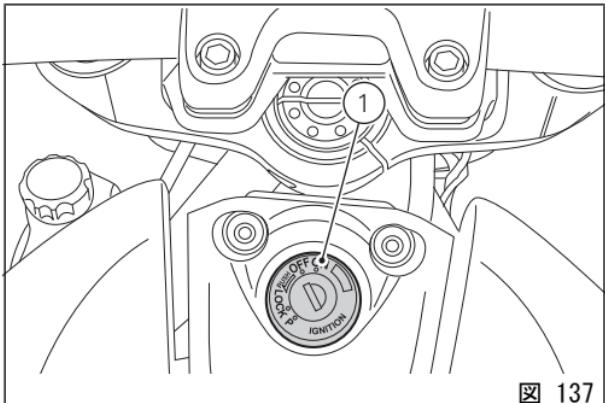


図 137



### 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください（この時サイドスタンドは上がっていないければなりません）。

エンジンストップスイッチ（2、図 138）が  (RUN) の位置にあることを確認してから、スタートボタン（3、図 138）を押します。

スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

 参考

バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

 重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

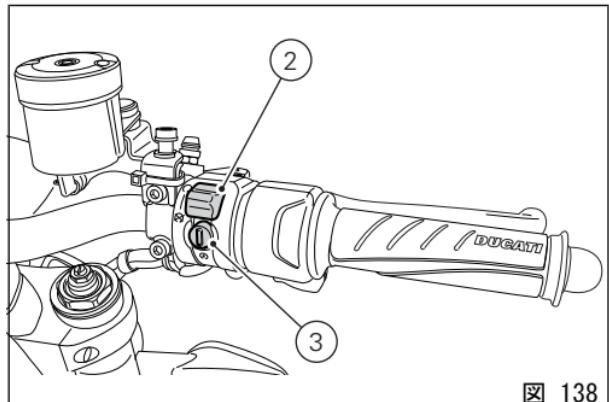


図 138

## 車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、エンジン回転を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。



### 警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



### 警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

## ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

## ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮するために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロック

のリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。このシステムを解除したい場合は、“ABS 解除機能”（ページ 105 参照）を使用してインストルメントパネルから解除することができます。



## 警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

## 車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。

シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

エンジンを停止するには、キーを (2) の位置に回します。

### ⚠ 重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

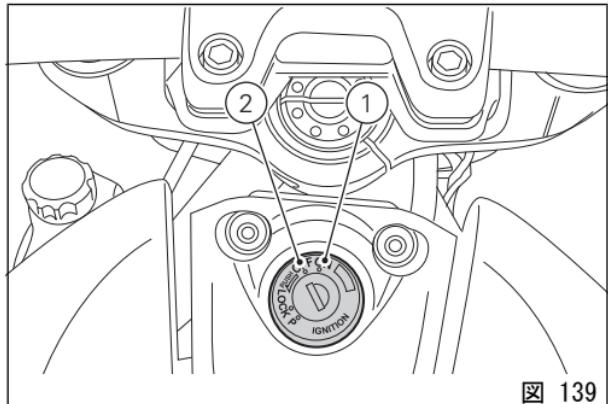


図 139

## 燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。  
燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。



### 警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。



### 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

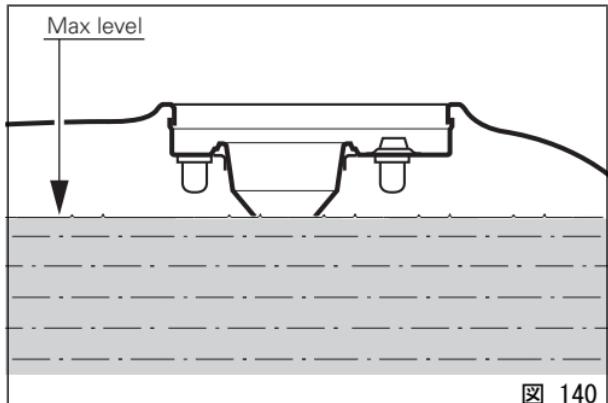


図 140

## パーキング

停止車両をサイドスタンド（ページ 191）で支えて駐車します。

盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを（3）の位置に回します。

車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

必要に応じ、キーを（4）の位置に回してパーキングランプを点灯させたままにすることができます。

### 重要

長時間キーを（4）の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

### 警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

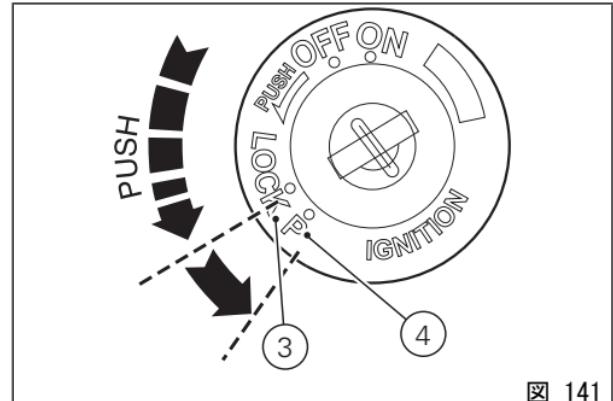


図 141

### 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

## 付属アクセサリー

シート下にはツールキット（1）が装備されています。

ツールキットに含まれる内容は以下の通りです。

- ヒューズ用ピンセット
- ヘルメット盗難防止ケーブル 2 本
- プラス/マイナスドライバー
- ドライバーのハンドル
- パイプレンチ 14x16x145 mm
- ロッド 6x120 mm
- 六角レンチ 3 mm
- 六角レンチ 4 mm

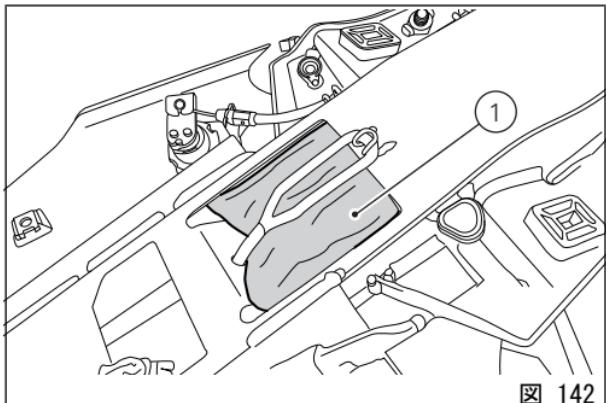


図 142

## 主な整備作業とメンテナンス

### クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN および MAX の目盛の間にありますことを確認します。

クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。

フィラープラグ (1) を緩め、不凍液 ENI Agip Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。

キャップ (1) を閉めます。

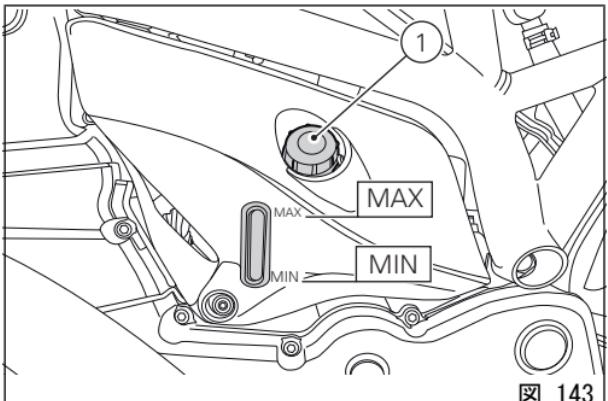


図 143

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます ( $-20^{\circ}\text{C}/-4^{\circ}\text{F}$  から凍結し始めます)。冷却回路の容量 : 2.5 リットル (0.66 ガロン)



## 警告

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラントや蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあります。

## エアフィルターの交換



## 重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

## ブレーキ及びクラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。



## 重要

ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

## クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノックングしたり止まったりする場合、システム内にエアが混入していることを表します。システムの点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



## 警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください（最低レベルの 3 mm 上）。

## ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

## !**警告**

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

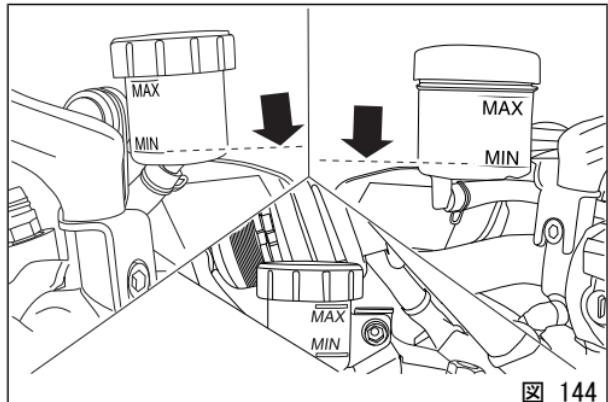


図 144

## ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。

どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。



### 警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



### 重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

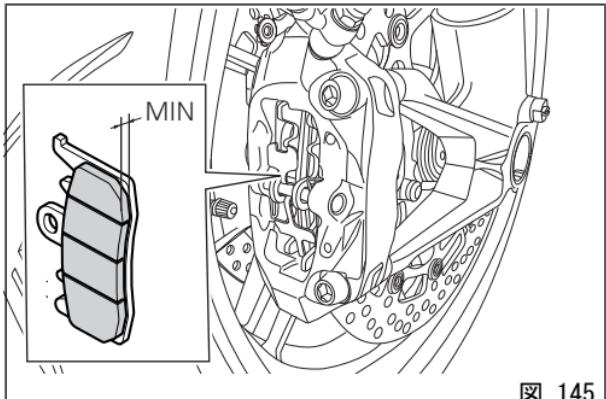


図 145

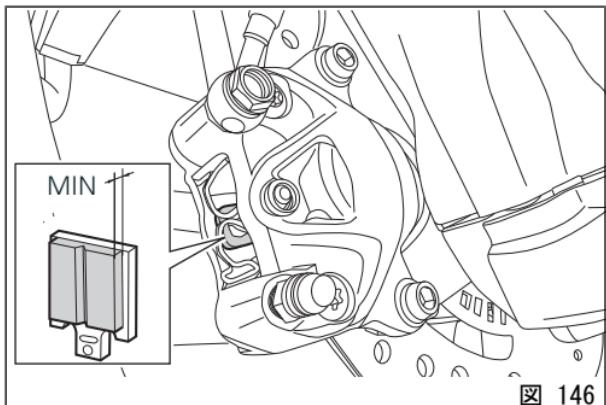


図 146

## バッテリーの充電



**警告** バッテリーの取り外しは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーでの作業を行うには、“バッテリーの取り外し” ページ 225 の章を参照してください。



**警告** バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。  
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。  
プラス極 (+) のスクリューおよびマイナス極 (-) のスクリューにグリースを塗布します。

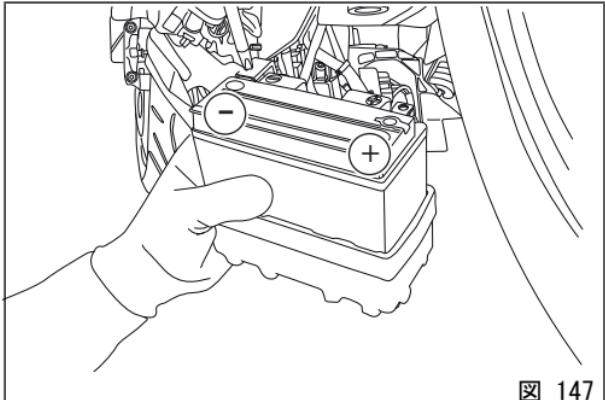


図 147



**重要** バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

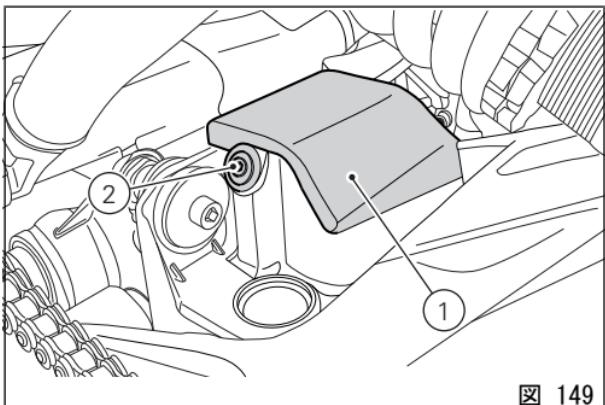
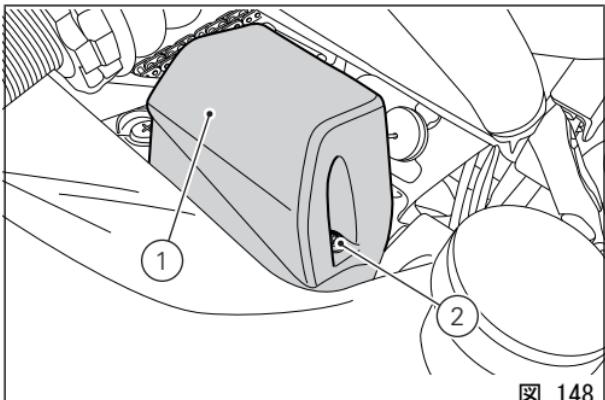
バッテリーは 0.9A で 5 ~10 時間充電します。  
“バッテリーの取り付け” ページ 231 の章を参照し、バッテリーを車両に取り付けます。



**警告**  
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

### 緊急時の始動

外部エンジンスターターを接続して車両を緊急始動する必要がある場合は付属のレンチでスクリュー (2) を外し、バッテリーカバー (1) を取り外してください。



外部エンジンスターターのプラスをバッテリーのプラス極（3）に接続します。

エンジン左側のカバーを両方取り外したのち、外部エンジンスターターのマイナスをエンジンマウントのスクリュー（4）に接続します。

カバーの取り外しは、“バッテリーの取り外し”ページ 225 の章を参照してください。



### 警告

外部エンジンスターターのプラスをバッテリーのプラス極（3）に接続する際、車両の他の金属部分に触れないよう注意してください。

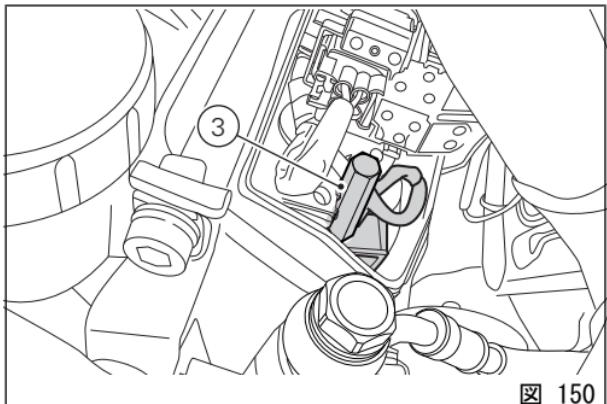


図 150

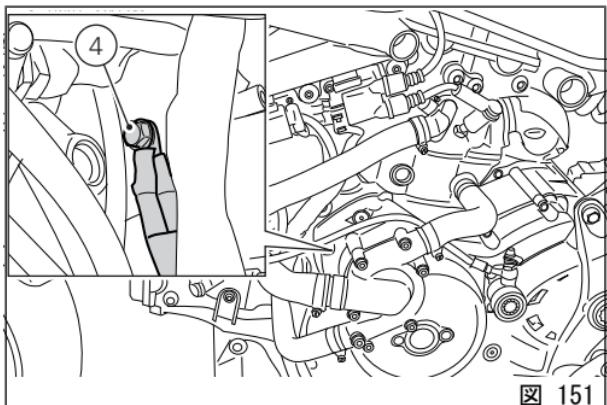


図 151

## バッテリー充電および冬季の断熱

お客様の車両のシート下にコネクター（1）が取り付けられており、これに専用のバッテリーチャージャー（2）（バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店でお求めいただけます。



### 参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。



### 重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

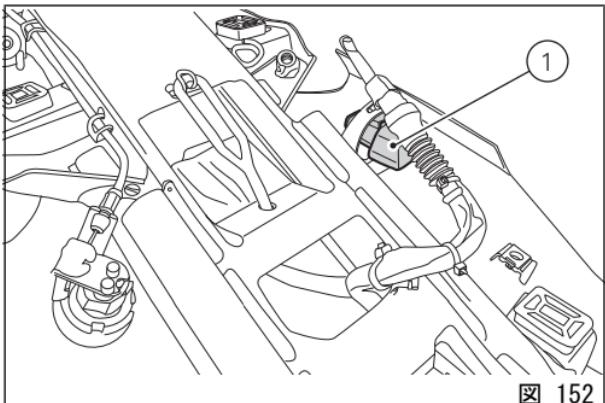


図 152

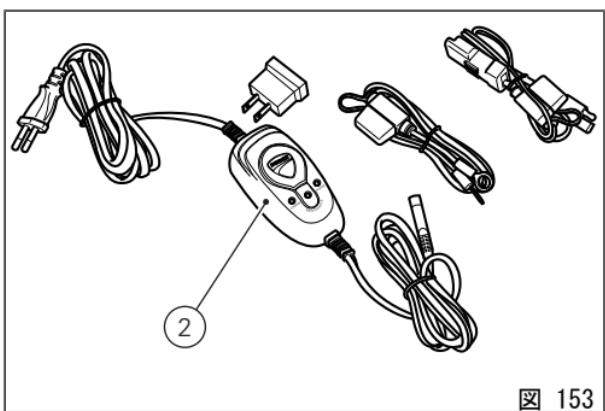


図 153

 参考

車両を長期間使用しない場合は（およそ 30 日以上）、ドゥカティ純正バッテリーメンテナー（バッテリーメンテナーキット 部品番号：69924601A（各国）またはバッテリーメンテナーキット 部品番号：69924601AX（日本、中国、オーストラリアのみ）をご使用いただくことをお勧めします。ドゥカティ純正バッテリーメンテナーは内蔵エレクトロニクスが電圧をモニターし、最大 1.5Ah の充電が可能です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

 参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

## バッテリーの取り外し



### 重要

バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

スクリュー (1) を緩め、カバー (2) を取り外します。

スクリュー (3) を緩め、カバー (4) を取り外します。

スクリュー (5) を外し、接地ケーブル (6) を切り離します。

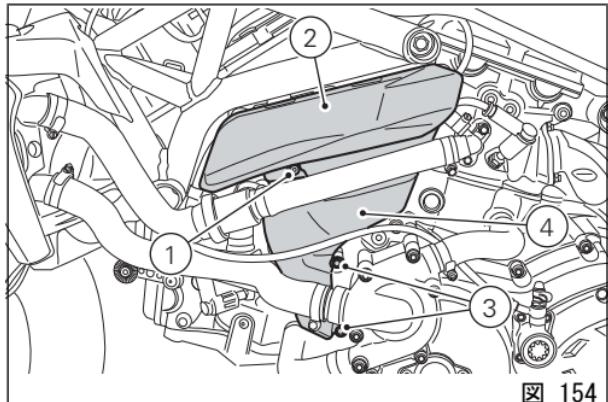


図 154



### 警告

先ほど取り外した接地ケーブルの先端が車両に触れないよう絶縁します。

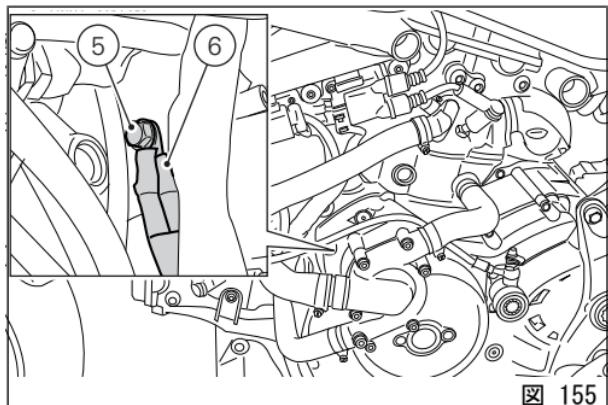


図 155

バッテリーカバー（8）のスクリュー（7）を緩めて外します。

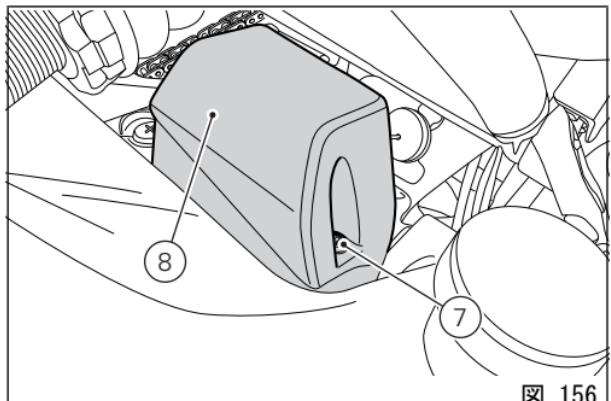


図 156

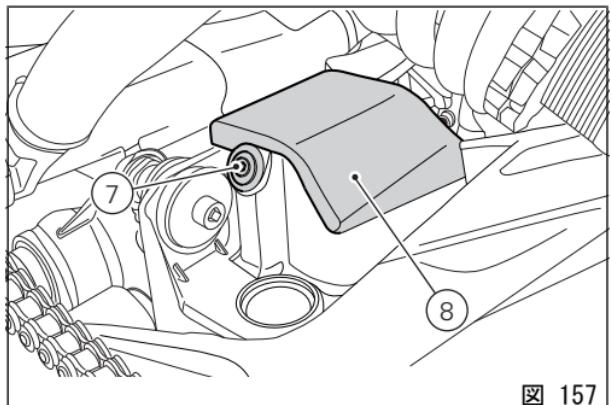


図 157

バッテリー陽極ケーブルの端子 (10) および ABS 陽極ケーブルの端子 (11) をバッテリープラス極に固定している専用スクリュー (9) を緩めます。

バッテリーを交換するには、エレクトリック部品マウント (Q) の穴に作業用ピン (P) を取り付けます。

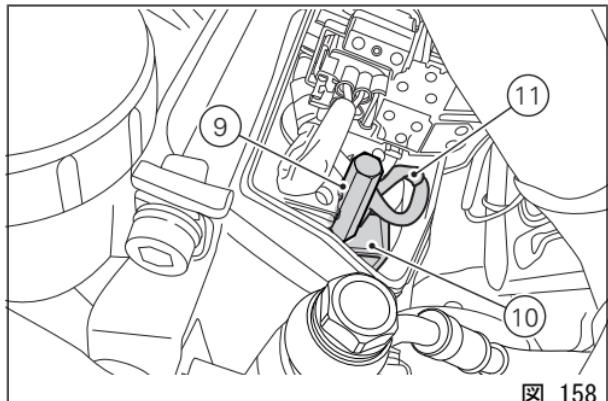


図 158

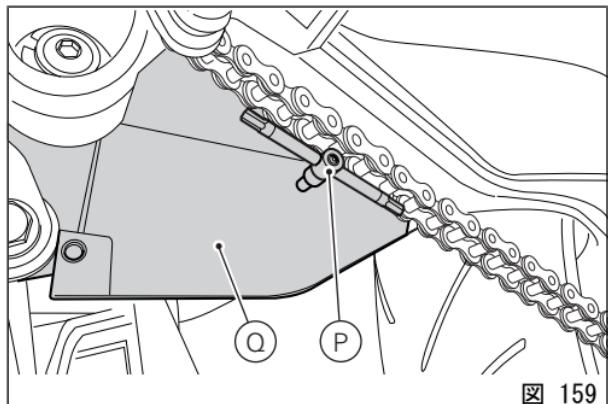


図 159

バッテリーマウントカバー (13) をエレクトリック部品マウントに固定しているスクリュー (12) を緩めて外します。

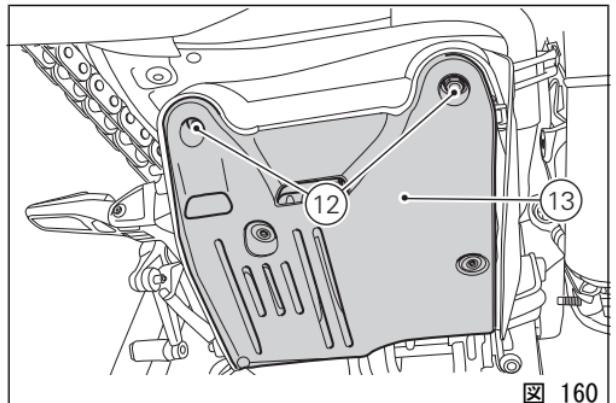


図 160

バッテリーマウントカバー（13）を下向きに回転させ、バッテリー（14）を手で支えながら作業用ピン（P）を抜き取ります。

下方向にバッテリー（14）をゆっくりと引き抜きます。このとき、配線に接続されているバッテリーマイナス極に注意してください。

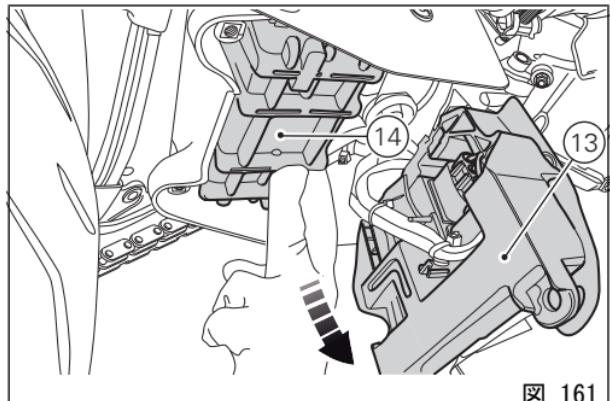


図 161

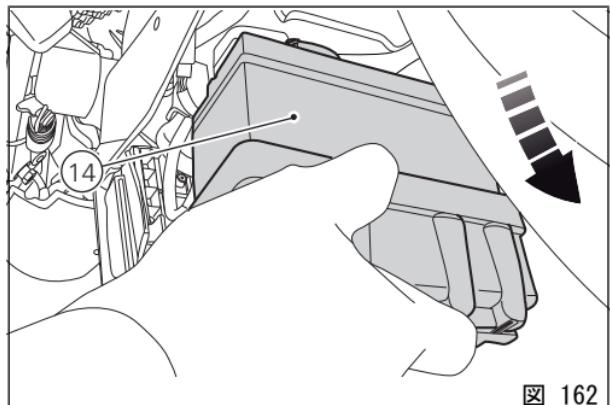


図 162

陰極ケーブル（16）をバッテリーマイナス極に固定しているスクリュー（15）を緩め、バッテリーを取り外します。

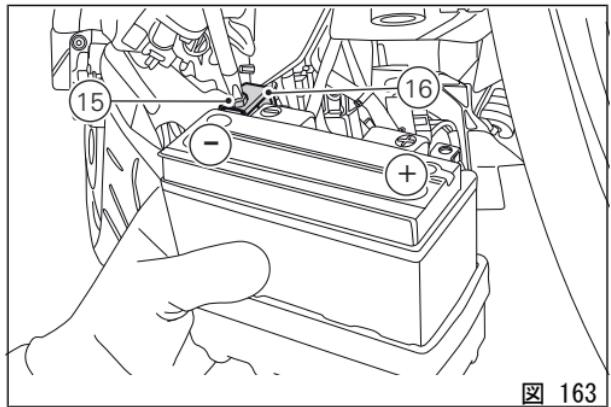


図 163

## バッテリーの取り付け



### 重要

バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

バッテリー陰極ケーブル（16）をバッテリーのマイナス極に配置し、スクリュー（15）を  $10 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付け、固定します。

バッテリー（14）をスイングアーム下部の取り付け位置に挿入します。

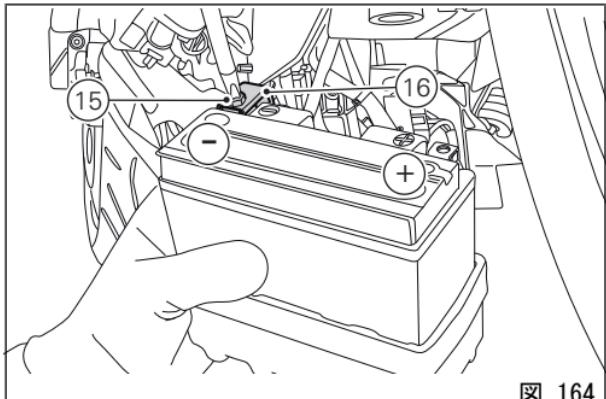


図 164

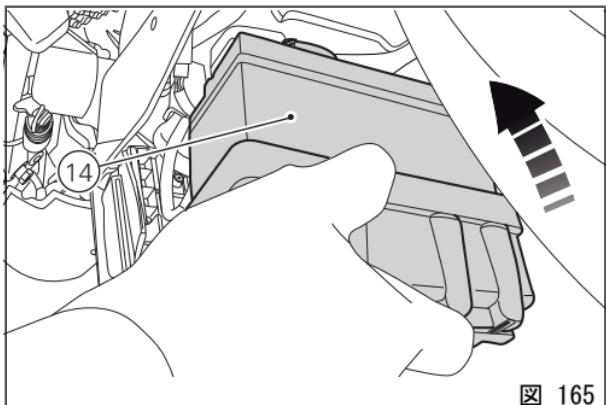


図 165

バッテリー (14) を配置したら、エレクトリック部品マウント (Q) の穴に作業用ピン (P) を取り付けてバッテリーを支えます。

バッテリーマウントカバー (13)を持ち上げ、バッテリーにあてます。

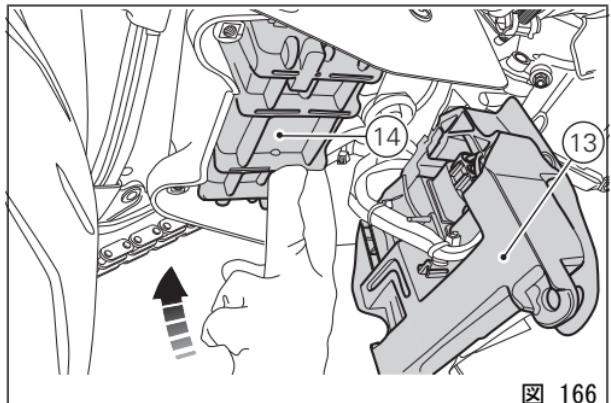


図 166

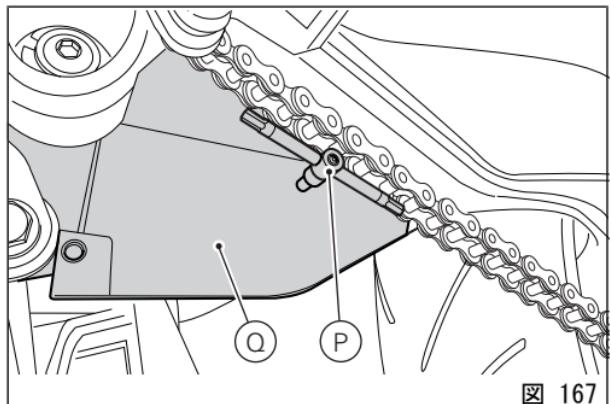


図 167

ピン (P) を抜き取ります。スクリュー (12) を 5 Nm  $\pm$  10% のトルクで締め付けてバッテリーマウントカバー (13) を固定します。

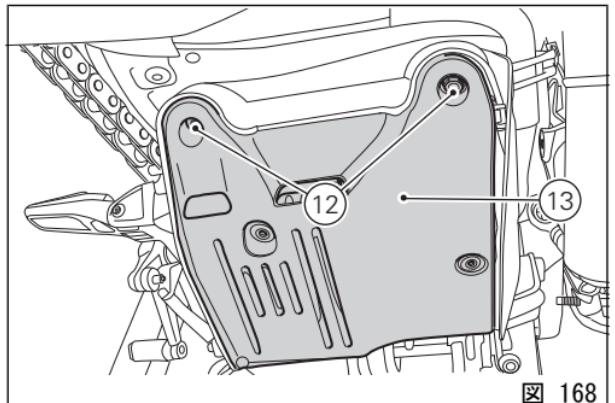


図 168

陽極ケーブル（10）および ABS 陽極ケーブル（11）をバッテリーのプラス極に配置し、スクリュー（9）を  $10 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付けます。  
エレクトリック部品マウントの上にバッテリーカバー（8）を配置します。

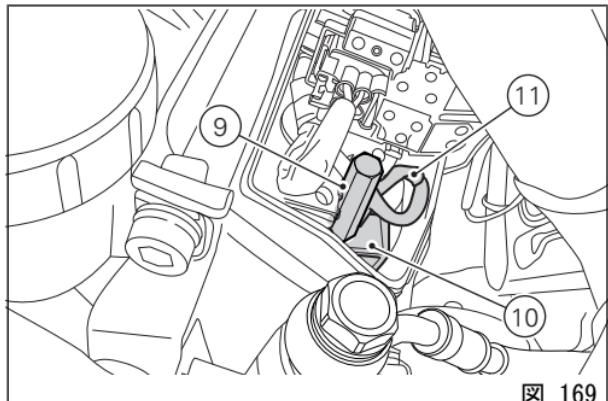


図 169

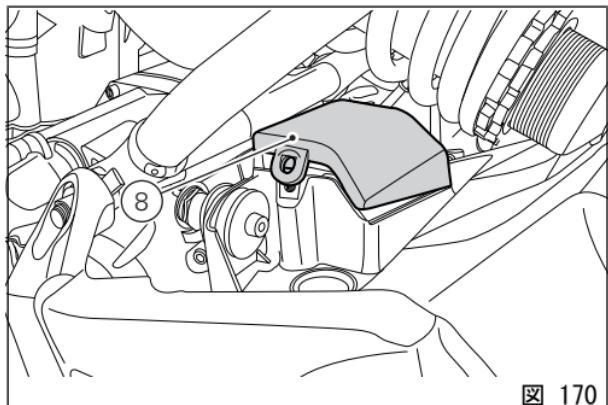


図 170

スクリュー (7) を差し込み、 $4 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付けます。

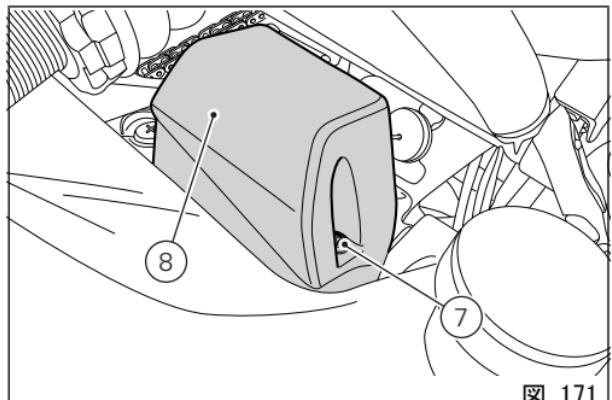


図 171

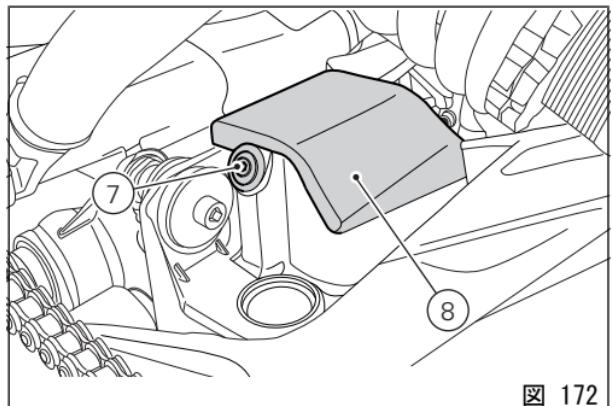


図 172

車両に接地ケーブル（6）を配置し、スクリュー（5）を  $10 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付けてケーブルを固定します。

カバー（4）を取り付け、スクリュー（3）を  $5 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付けます。

カバー（2）を取り付け、スクリュー（1）を  $1 \text{ Nm} \pm 10\%$  のトルクで締め付けます。

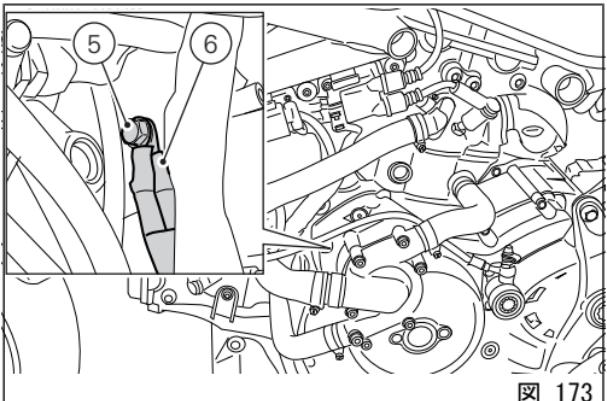


図 173

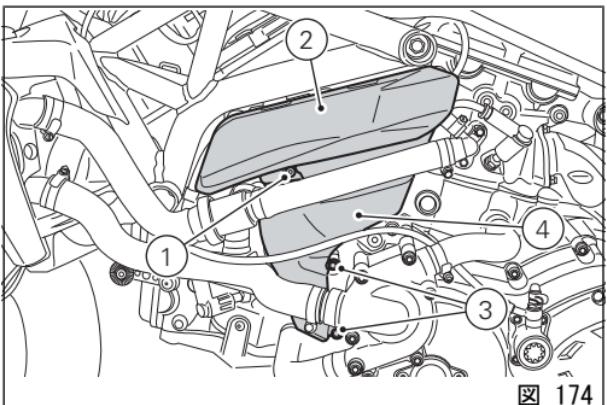


図 174

## トランスミッションチェーン張力の点検



### 重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離 (A) を測定します。値は A = 30~32 mm でなければなりません。

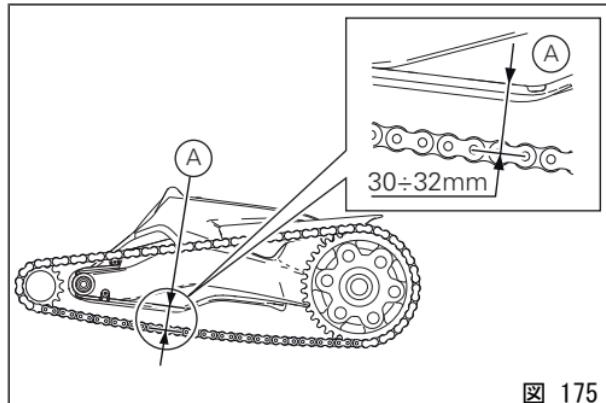


図 175



### 重要

ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。



## 警告

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。



## 重要

チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

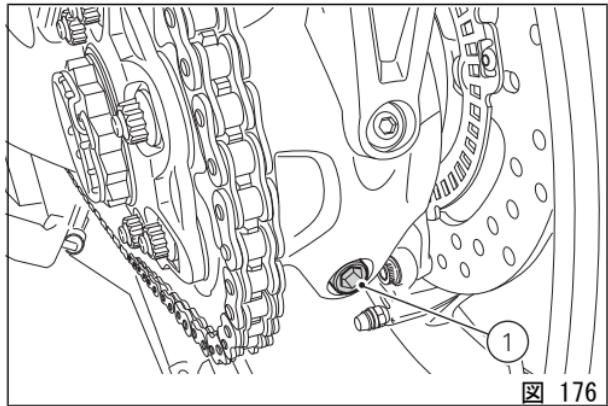


図 176

## チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ0リングの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防ぐため、専用の溶剤を使用し、スチームウォッシュヤーなどの圧力のかかった水で洗浄しないでください。

コンプレッションエアーまたは吸収材でチェーンを乾燥させたら、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。



### 重要

規定以外の潤滑剤を塗布すると、チェーン、フロント/リアスプロケットに損傷を与えるおそれがあります。

## 電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 269 の “エレクトリカルシステム” の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。



### 重要

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

スクリュー (1) を緩めて外し、ターンインジケーターマウントからカバー (2) を取り外します。

電球は差し込み式になっています。引き抜くには押して反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。バルブカバーを取り付けます。この時、突起部をマウントのスリットに挿入してください。スクリュー (1) をねじ込みます。

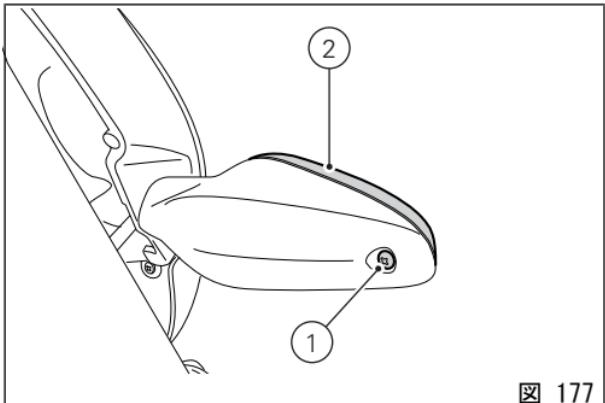


図 177

## ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯します。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの  $\frac{9}{10}$  以下でなければなりません。

### 参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

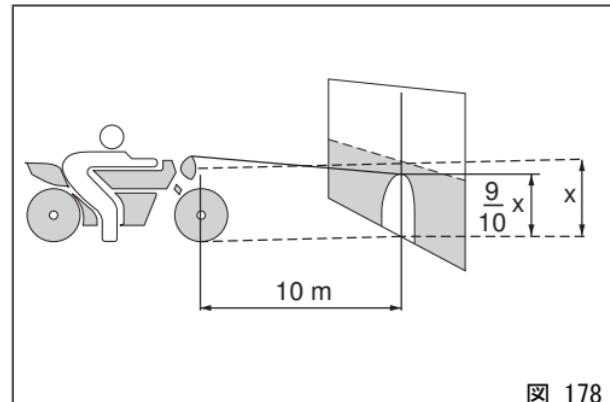


図 178

垂直方向のヘッドライト光軸調整はスクリュー（1）を操作して行います。



### 警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

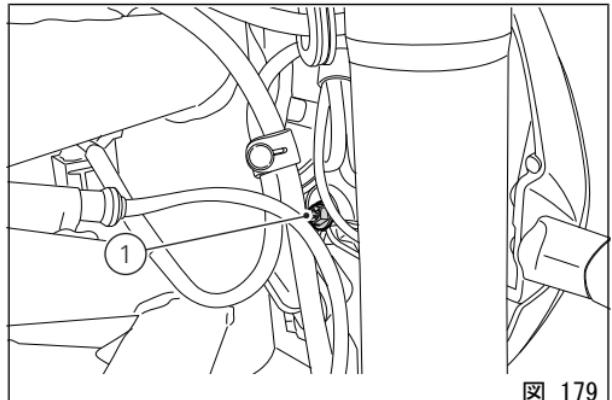


図 179

## タイヤ

フロントタイヤ空気圧 :

2.3 bar (ライダーのみ) - 2.5 bar (ライダーおよびパッセンジャー)

リアタイヤ空気圧 :

2.5 bar (ライダーのみ) - 2.8 bar (ライダーおよびパッセンジャー)

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

### 重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理または交換

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。



### 警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすことがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。



### 警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



## 参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

## タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所（S）の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。



### 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

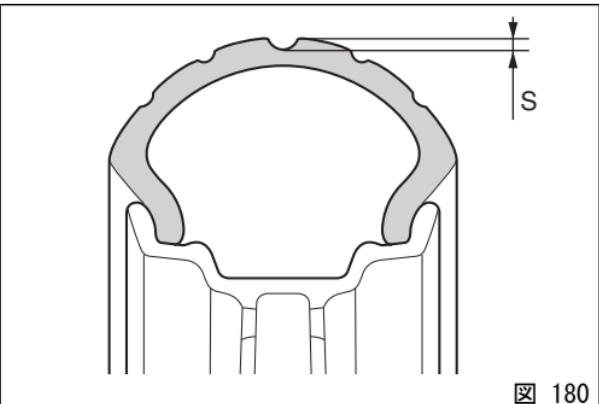


図 180

## エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓（1）から見ることができます。

レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO : MA2、API : SM。

フィラーキャップ（2）を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ（2）を取り付けます。

### 重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

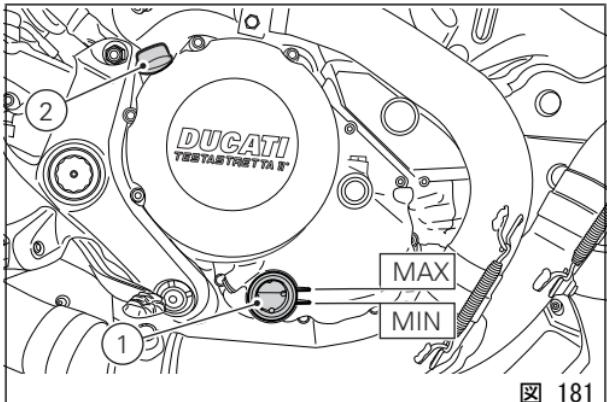


図 181

## オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SM
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API（米国での分類）および JASO（日本標準）は、オイルが有する特徴を表します。

## スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグを交換する場合は、必ずディーラーまたはDucatiサービスセンターへご依頼ください。

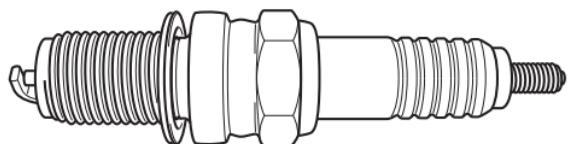


図 182

## 車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。

プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

### 参考

研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

### 重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露（くもり）を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスマッション系統（チェーン、フロント/リアスプロケット等）に脱脂剤が付着しないように注意してください。

水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。

### 警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

## **!** 警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドラランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

## 長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- サービススタンドで車両を支えます。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーを点検し、必要に応じて充電を行ってください。結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体カバーはDucatiパフォーマンスにて取り扱っています。

## 重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucatiオリジナルパーツと取り替えて下さい。

# メンテナンス

## メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
	マイル x1000	0.6	9	18	27	36	
DDS による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイル、オイルフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃	●						-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	-
エアフィルターの清掃			●		●		-
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●		12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換	●	●	●	●	●		12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	-
ホイールハブベアリングの点検				●		●	-
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
リアスプロケットのナット、セカンダリートランスマッシュョンスプロケットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ（チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット）、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ファイナルドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングペアリングの点検と潤滑				●		●	-
フロントフォークオイルの交換				●		●	-
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検（装備している場合）		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
クーラントレベルの点検、冷却回路の状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティ電気装置の作動点検（サイドスタンドセンター、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
安全装置（ABS、DTC など）、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間（月）
		0.6	9	18	27	36	
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類（サービスブック）への記入		●	●	●	●	●	12

## メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、もしくは経過時間 *)	Km x1000 マイルx1000	月 1 0, 6 6
エンジンオイルレベル点検	●	
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	
タイヤ圧、磨耗点検	●	
チェーン張力の点検と潤滑	●	
ブレーキパッドの点検 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●	

\* 走行距離 (km) または経過月数のうち、どちらか最初の期限に達したときに作業を実施して下さい。

# テクニカルデータ

## 重量

車両重量（燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠）：209 kg

車両重量（液体類、バッテリーを含まない）：182 kg

最大許容重量（最大負荷）：390 kg



## 警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

## サイズ

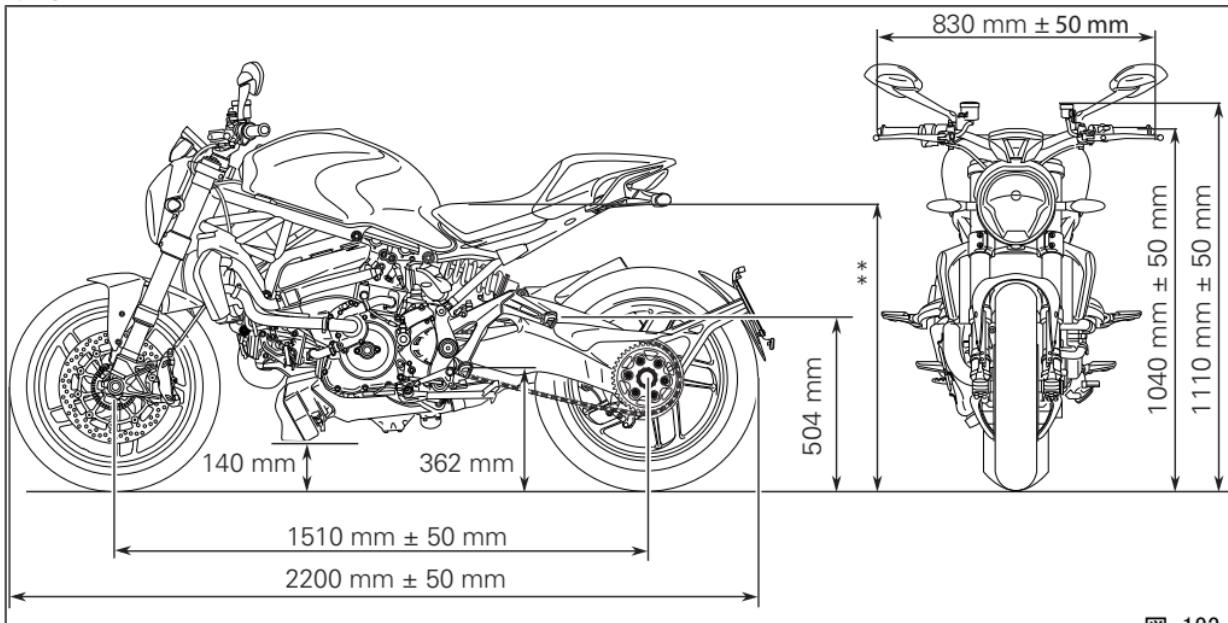


図 183

\*\* アジャスタブルシート高 785 mm - 810 mm。

## 補給

### 補給

### タイプ

燃料タンク、リザーブ 2.5 リットルを 含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	17.5
----------------------------	--------------------	------

エンジンクラシクケースおよびフィルタ ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 3.7  
—  
4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度  
分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイ  
ルで規格 JASO : MA2、API : SM。

フロント/リアブレーキシステム、クラ ッチ SHELL Advance Brake DOT 4

—

電極保護液 SHELL Advance Contact Cleaner

—

フロントフォーク (Monster 1200) SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA 500 cc (右レッグ)  
506 cc (左レッグ)

フロントフォーク (Monster 1200 S) SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA 150 mm (スプリングまた  
はチューブのプリロードなしで測定)

冷却システム 不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄 2.5 リットル  
めずに使用)

## 重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや  
車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

## 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。  
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## エンジン

テスタストレッタ 11°、"L" 型 2 気筒、シリンド  
ーごとに 4 バルブのデスマドロミックタイミングシ  
ステム、水冷式。

ボア :

106 mm

ストローク :

67.9 mm

総排気量 cm<sup>3</sup> :

1198.4

圧縮比 :

12.5 ± 0.5:1

## タイミングシステム

8個のロッカーアーム（オープニングロッカーアーム4個、クロージングロッカーアーム4個）、およびダブルオーバーヘッドカムシャフトで制御されるシリンダーごとに4バルブのデスモドロミックシステム。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

## デスモドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング（ロア）ロッカーシム
- 4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ。

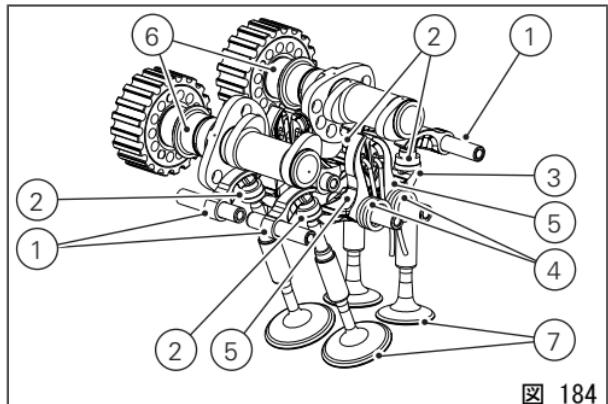


図 184

## 性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行き、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。



### 重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

## スパークプラグ

メーカー : NGK  
タイプ : MAR9-J

## 燃料供給

CONTINENTAL M3D 間接式エレクトロニックインジェクションシステム

MIKUNI 製スロットルボディ、フルライドバイワイヤシステム付き、径 : 53mm

シリンダーごとのインジェクター数 : 1

インジェクター孔数 : 10

ガソリン燃料 : 95-98 RON



### 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたフォニックホイールを読み取るホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

### フロント

タイプ：スチール製穴付きディスク

ディスク 2 枚

ディスク径：320 mm

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ディファレンシャルピストン付きモノブロックブレーキキャリパー

メーカーおよびタイプ：Brembo M4.32 b

ブレーキパッド材質：Toshiba TT2182FF

Monster 1200 ポンプタイプ：

PR 18/19

Monster 1200 S ポンプタイプ：

PR 16/21

ポンプシリンダー Ø : 32 mm

### リア

タイプ：スチール製穴付き固定ディスク

ディスク径：240 mm

車体右側ペダルによる油圧コントロール

ブレーキキャリパー：シリンダー Ø 34 mm

メーカーおよびタイプ：Brembo P 34 e

ブレーキパッド材質：Toshiba TT2172

ポンプタイプ：PS 11.

ポンプシリンダー Ø : 11 mm



### 警告

ブレーキフルードは腐食性があります。

万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

## トランスマッision

アンチホッピングシステムに連動した湿式クラッチ、左ハンドルレバーによる操作。

エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：  
33/61

6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/41

変速比：

1速 15/37

2速 17/30

3速 20/27

4速 22/24

5速 24/23

6速 25/22

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー：DID

タイプ：525 VAZ

寸法：5/8" x 1/4"

リンク数：108

## ⚠ 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

## ⚠ 警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

## フレーム

クロムモリブデン鋼製トレリスパイプフレーム、アルミニウムキャスト製リアサブフレーム

ステアリングアングル（片側）：30°

キャスター角：23.5°

トレール mm：88.3

## ホイール

10本スポークアルミニウム軽合金製リム（Monster 1200）。

Y字形状 3本スポークアルミニウム軽合金製リム（Monster 1200 S）。

## フロント

寸法：MT3.50x17"

## リア

寸法：MT5.60x17"

両ホイールともシャフトの取り外しが可能です。

## タイヤ

### フロント

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：120/70-ZR17

### リア

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：190/55-ZR17

## サスペンション

Monster 1200

### フロント

KAYABA 製油圧式倒立フォーク、スプリングプリロード、コンプレッションダンピング、リバウンドダンピングの調整が可能。

インナーチューブ径（レッグ）43 mm

フロントホイールトラベル：130 mm

### リア

SACHS 製モノショックアブソーバー付きプログレッシブ、リバウンドダンピングおよびスプリングプリロードの調整が可能。

ショックアブソーバーストローク：61.5 mm

リアホイールトラベル：152 mm

Monster 1200 S

### フロント

OHLINS 製油圧式倒立フォーク、スプリングプリロード、コンプレッションダンピング、リバウンドダンピングの調整が可能。

インナーチューブ径（レッグ）48 mm

フロントホイールトラベル：130 mm

### リア

SACHS 製モノショックアブソーバー付きプログレッシブ、リバウンドダンピングおよびスプリングプリロードの調整が可能。

ショックアブソーバーストローク : 64 mm  
リアホイールトラベル : 152 mm

## エキゾーストシステム

触媒システム搭載

## カラーバリエーション

Monster 1200

### レッド

ベース (プライマー) アクリフレックスホワイト、  
部品番号 : L0040652 (Lechler)

Ducati レッドベース、部品番号 : 473. 101 (PPG)  
Stoner SF アクリプラストレッドエナメル (バニッシュ)、部品番号 : LMC06017 (Lechler)

Ducati レッドフレーム、部品番号 : 81784 (Inver SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、  
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)

グロッシーブラックリム、部品番号 : VPCH03250  
(Peter Lacke)

Monster 1200 S

### レッド

ベース (プライマー) アクリフレックスホワイト、  
部品番号 : L0040652 (Lechler)

Ducati レッドベース、部品番号 : 473. 101 (PPG)

Stoner SF アクリプラストレッドエナメル (バニッシュ)、部品番号 : LMC06017 (Lechler)

Ducati レッドフレーム、部品番号 : 81784 (Inver SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、  
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)

グロッシーブラックリム、部品番号 : VPCH03250  
(Peter Lacke)

### スターホワイト

2 K ホワイトベース、部品番号 : 873. AC001  
(Palinal)

スターホワイトベース、部品番号 : 928. T948  
(Palinal)

クリア (Clear coat)、部品番号 : 923M1598  
(Palinal)

ブロンズフレーム 1008、部品番号 : 33219 (Inver SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、  
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)

グロッシーブラックリム、部品番号 : VPCH03250  
(Peter Lacke)

Monster 1200 S Stripe

Ducati アニバーサリーレッド、部品番号：473.1010  
(PPG)、ホワイトストライプ  
クリア、部品番号：228.880 (PPG)  
レッドフレーム、ブラックリム

## エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライト：

ロービームランプ：H4 BV (12 V - 60/55 W)

ハイビームランプ：H4 BV (12 V - 60/55 W)

パーキングランプ：12V - 2.8W の LED 電球 6 個

ハンドル上スイッチ

フロントターンインジケーター：12 V - 10 W 電球

(Monster 1200)

リアターンインジケーター：12 V - 10 W 電球

(Monster 1200)

フロントターンインジケーター：13.5 V - 3.1 W

の LED 電球 (Monster 1200 S)

リアターンインジケーター：4 個の 13.5 V - 0.68

W の LED 電球 (Monster 1200 S)

警告ホーン

ストップランプスイッチ

バッテリー 12 V-10 AH

ジェネレーター 460 W - 14 V - 33A

電子レギュレーター、スターターコンタクター (C)

に設けられた 2 個の 30A ヒューズで保護。

スターターコンタクター 12 V-0.7 kW

テールライトおよびストップランプ：LED

パーキングランプ：13.5V - 0.45W の LED 電球 8

個

リアストップランプ：13.5V - 2.8W の LED 電球

12 個

ナンバープレートランプ：13.5V - 0.7W の LED 電

球 3 個



参考 電球の交換については、“電球の交換”の章を参照してください。

## ヒューズ

エレクトリカル部品を保護するためにヒューズボックスには 11 個のヒューズが設置されています。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 3 個あります。スターターコンタクターには 2 個の 30A のヒューズがあり、スターターコンタクターの脇には 2 個の ABS ヒューズがあります。一方は 25A、もう一方は 30A です。

ヒューズボックスは右サイドカバー下の中央右に設置されています。ヒューズボックス (A) は左側、ヒューズボックス (B) は右側にあります。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

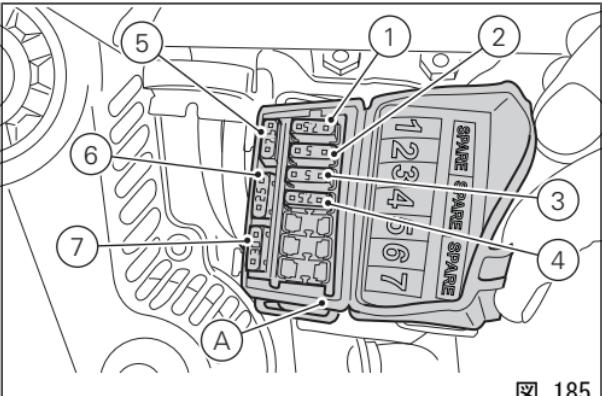


図 185

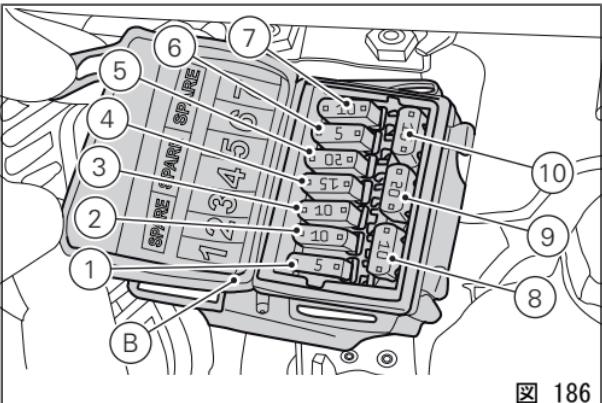


図 186

ヒューズボックス (A) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	オプショナルキー	7.5 A
2	アラーム	5 A
3	ストップ	5 A
4	診断	3 A
5	スペア	7.5 A
6	スペア	25 A
7	スペア	30 A

ヒューズボックス (B) 凡例		
7	BBS	10 A
8	スペア	10 A
9	スペア	20 A
10	スペア	15 A

ヒューズボックス (B) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	ランプ	5 A
2	インストルメントパネル	10 A
3	キー 1	10 A
4	キー 2	15 A
5	リレー	20 A
6	コントロールユニット	5 A

2 個のメインヒューズ (C) はスターターコンタクター (D) の下に設置されています。ヒューズの作業をおこなうには、両方のヒューズの保護キャップ (E) を取り外します。

切れたヒューズは、インナーフィラメント (F) が溶断しているかどうかで確認することができます。

スターターコンタクターの近くに 2 個のヒューズがあります。一方は 25 A のヒューズ (G)、もう一方は 30 A のヒューズ (H) です。

## 重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

## 警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすことがあります。

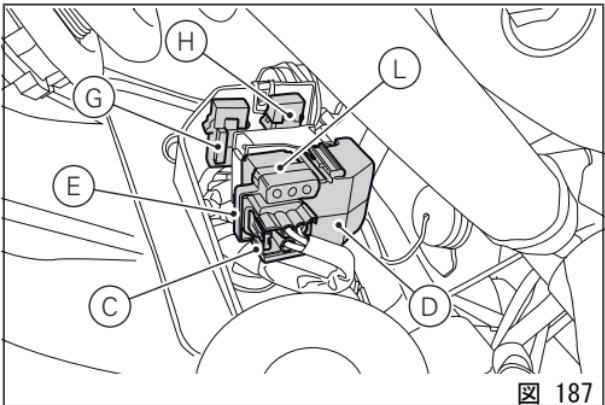


図 187

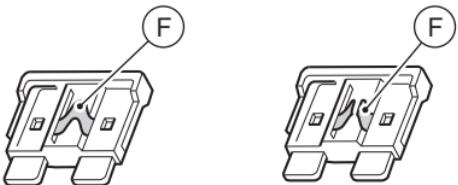


図 188

## インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

- 1) イグニッションシステム (キーブロック)
- 2) 左ファン
- 3) 右ファン
- 4) ジェネレーター
- 5) レギュレーター
- 6) スターターコンタクター
- 7) バッテリー
- 8) 配線アース
- 9) エキゾーストバルブモーター
- 10) ABS コントロールユニット
- 11) フロントヒューズボックス
- 12) リアヒューズボックス
- 13) フロントスピードセンサー
- 14) リアスピードセンサー
- 15) 自己診断/DDA
- 16) 右リアターンインジケーター
- 17) テールライト
- 18) 左リアターンインジケーター
- 19) ナンバープレートランプ
- 20) BBS
- 21) アラーム (オプション)
- 22) オイル圧センサー
- 23) ギアセンサー

- 24) サイドスタンドスイッチ
- 25) クラッチスイッチ
- 26) エンジン回転数/タイミングセンサー
- 27) MAP センサー
- 28) エンジン温度
- 29) 外気温センサー (TIA)
- 30) ホリゾンタルエキゾーストラムダセンサー
- 31) パーチカルエキゾーストラムダセンサー
- 32) スロットルグリップポジションセンサー (APS)
- 33) ホリゾンタルインジェクター
- 34) パーチカルインジェクター
- 35) ポテンシオメーター/ライドバイワイヤモーター (TPS/ ETV)
- 36) セカンダリーエアアクチュエーター
- 37) ホリゾンタルコイル
- 38) パーチカルコイル
- 39) フューエルポンプ
- 40) フューエルポンプリレー
- 41) インジェクション供給リレー
- 42) コントロールユニット 2
- 43) コントロールユニット 1
- 44) 左側スイッチ
- 45) 左フロントターンインジケーター
- 46) 警告ホーン
- 47) 気温センサー
- 48) インストルメントパネル

- 49) リアストップ
- 50) フロントストップ
- 51) 右フロントターンインジケーター
- 52) ヘッドライト
- 53) 右側スイッチ
- 54) スターターリレー
- 55) グリップヒーター電源供給
- 56) ABS ヒューズ
- 57) イモビライザー
- 58) スターターモーター



### 参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

### 配線カラー記号

- B 青
- W 白
- V 紫
- Bk 黒
- Y 黄
- R 赤
- Lb ライトブルー
- Gr グレー
- G 緑
- Bn 茶
- O オレンジ
- P ピンク

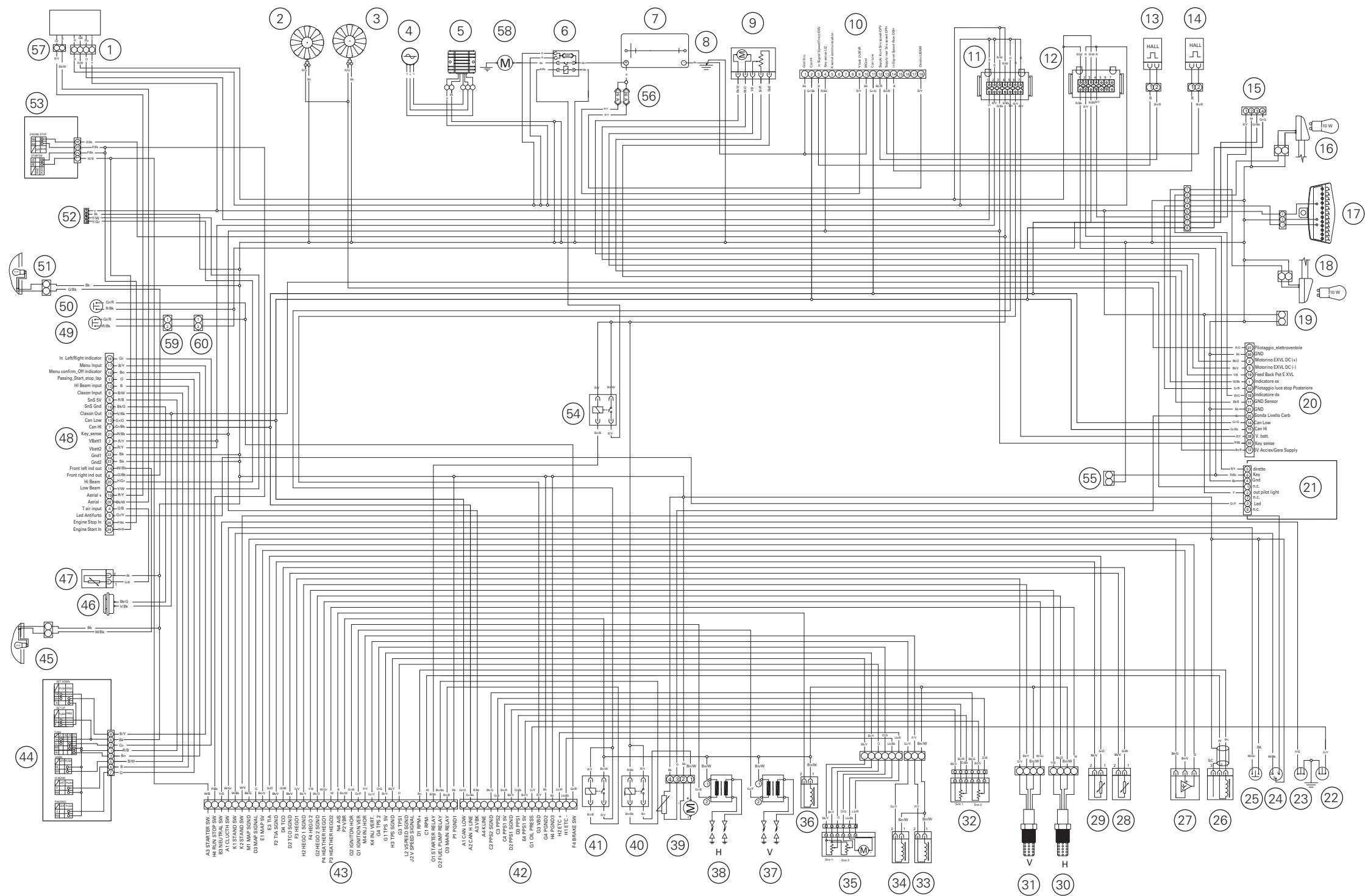
# 定期点検メモ

## 定期点検メモ

KM 名	DUCATI SERVICE	走行距離	日付
1000			
15000			
30000			
45000			
60000			

Stampato 08/2015

Cod. 913.7.288.1B Rev. 01



Monster 1200 / Monster 1200 S

cod. 913.7288.1B

Ducati Motor Holding spa  
[www.ducati.com](http://www.ducati.com)

Via Cavalieri Ducati, 3  
40132 Bologna, Italy  
Ph. +39 051 6413111  
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company  
subject to the Management and  
Coordination activities of AUDI AG